

早稲田大学グローバル COE プログラム 「 アジア地域統合のための世界的人材育成拠点」

Waseda University Global COE Program: Global Institute for Asian Regional Integration (GIARI)

# Asia-Vision サーベイ日本調査報告書

実施期間：2009年11月～12月



早稲田大学グローバル COE プログラム「アジア地域統合のための世界的人材育成拠点」(GIARI)では、アジア各国の大学、大学院の学生を対象に「Asia-Vision サーベイ：学生の意識に関する国際比較調査」を2009年11月から12月にかけて実施した。本書は、この日本調査の調査結果報告書となる。

本調査の実施にあたっては、日本全国にある31の大学に勤務する教員や研究者、約70名の方々にご協力をいただいた。個々の名前を挙げることは控えさせていただくが、こうした協力者の尽力無しに、本調査を実施することは不可能であった。あらためて感謝の意を表したい。

調査対象者である学生は、近い将来、国の発展、変化の舵取りに少なからず関わっていく未来を担う人材である。近年、アジア地域統合の是非を問う議論が盛んに行われているが、次世代のアジアを担う彼らの意識が、どのような方向へ向かっていくのかを把握することは、国益を超えた「地域益」の実現に貢献できる包括的で高度な専門性を有した人材を育成することを目指すGIARIにとって、重要な研究課題と受けとめている。

本報告書では、日本調査の結果報告を行うだけではなく、GIARIに関わる学生達が、Asia-Vision サーベイのマイクロデータを用いて執筆した論文も併せて掲載した。こうした研究・調査と教育の両立・結合こそが、GIARIが提唱する教育プログラムであるGIARIメソッドの根幹にあり、こうした取り組みを続けることで、アジア地域統合に関する研究の更なる蓄積とそのための世界的人材拠点構築へ邁進する所存である。

本調査の成果が、多数の研究者によって共有され、アジア地域統合の新たな議論や研究に於いて活用されることを切に願う。

2010年3月吉日

早稲田大学グローバル COE プログラム  
「アジア地域統合のための世界的人材育成拠点」  
<http://www.waseda-giari.jp/>

拠点リーダー

天児 慧

Asia-Vision 調査事務局  
プロジェクトリーダー 栗田 匡相  
河路 絹代  
高橋 華生子  
鴨川 明子

## 目次

<b>第一部：Asia-Vision サーベイの概要と日本調査の結果</b>	-----1
<b>栗田匡相 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 助教)</b> <b>那須田晃子 (一橋大学大学院経済学研究科 博士後期課程)</b>	
1-1 調査の目的	1
1-2 日本調査の概要	1
1-3 調査結果	2
<b>第二部：学生による論考</b>	----- 101
<b>2-1 学生の留学選択に影響する要因の分析 ～「Asia-Vision サーベイ 学生の意識に関する国際比較調査」をもとに～</b>	
	102
<b>石山 怜子 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 修士課程)</b>	
<b>2-2 両親の社会的特性と子どもの価値観形成の関係性について</b>	
	110
<b>川口 純 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 修士課程)</b>	
<b>2-3 「アジア地域統合」に関係する帰属意識とそれに影響を及ぼす要因について</b>	
	119
<b>上見 郁子 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 修士課程)</b>	
<b>2-4 ミクロ計量モデルを用いた少子化の決定要因の分析</b>	
	126
<b>福谷 周 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 修士課程)</b>	
<b>2-5 「アジア地域統合」の立場形成の決定要因についての分析と比較 ―日本人学生を中心に―</b>	
	141
<b>劉 曙麗 (早稲田大学グローバルCOE GIARIフェロー)</b>	
<b>2-6 Asian Integration: Agreeability of students amidst unresolved historical issues</b>	
	162
<b>Jacinta Bernadette I. Rico (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 修士課程)</b>	
<b>参考資料：Asia-Vision サーベイ 日本語調査表</b>	----- 187

# Asia-Vision サーベイの概要と日本調査の結果

栗田 匡相<sup>1</sup>・那須田 晃子<sup>2</sup>

## 1. 調査の目的

Asia-Vision サーベイは、次世代のアジアを形成するアジアの大学生・大学院生を対象とした意識調査であり、調査対象国は 2009,2010,2011 年度の 3 年間でアジア十数カ国を予定している。調査対象者は、将来、母国あるいはアジア地域の発展、変化の舵取りに少なからず関わっていく人々である。学生を調査対象とし、多国間での比較調査を行うという試みは先例がほぼ無く、研究・調査としての希少性・独創性が高いばかりではなく、今後のアジア地域の未来を占うという意味では、一般社会からの関心も高いものとなる。彼らの意識形成過程において、グローバルな相互依存関係の拡大やアジアの地域形成といった現象がどのように影響しているのか、といった点が判明するように調査を設計し、当該国、ひいてはアジア地域の未来像を描き出していく。

## 2. 日本調査の概要

### 2-1. 調査の概要

こうした目的の下、2009 年 11 月 1 日から 2010 年 12 月 20 日までの期間に、日本における調査をおこなった。調査大学の選定においては、単純なランダムサンプリングは行わず、大きく首都圏とそれ以外の地方という 2 区分、また国公立と私立という 2 区分で 4 つのカテゴリーを作り、そこからさらに偏差値の高低<sup>3</sup>や学部の別、また調査の実施期間や調査予算などを考慮し、調査対象大学の選定（早稲田大学を含めて 31 大学）を行った。その後、我々の G-COE 関係者を通じて、調査協力を各大学の教員や研究者に依頼している。実際に調査を実施した大学は、北海道から九州まで全国の 31 大学にのぼり、70 名を越える教員や研究者に協力いただいた。調査形式は、印刷済みの質問票を各大学の調査協力者に郵送し、授業等に参加している学生に調査を依頼するという形式をとった。なお、調査対象者である学生のプライバシーに配慮し、本報告書、並びに公開するデータにおいては、調査大学名を公表することは差し控えたい。ただし、公開・分析用のデータについては、大学の所在地域（全国を 4 区分）、偏差値情報（5 段階）という 2 種類の変数を作成してある。合計で 1725 のサンプルを確保（4405 部を配布しており、回収率は 39.2%）している。なお、1725 部は日本語調査表を用いて回答したサンプルの合計であり、そのほかに、英語、韓国語、中国語を用いて回答した留学生のサンプルが 126 部（外国語調査表 528 部を配布しており、回収率は 23.9%）ある。よって合計では、1851 部のサンプルを回収している（配布した調査表の総数は 4933 部であり、回収率は 37.5%）<sup>4</sup>。

### 2-2. 質問票の概要

学生の意識に関する質問に関しては、43 問（うち自由記述が 1 問）であり、これに、大学や学部の名称、両親の学歴といった個人情報に関する質問が 20 問用意されている。具体的な質問項目としては、

<sup>1</sup> 早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科 助教 (E-mail:kurita@aoni.waseda.jp)

<sup>2</sup> 一橋大学大学院 経済学研究科 博士後期課程

<sup>3</sup> 予備校（代々木ゼミナール）の公開偏差値情報（2008 年度入試）をもとにデータを作成した。

<sup>4</sup> なお、GIARI の母体が早稲田大学ということもあり、データの中では、早稲田大学のサンプルが最も多く、477 サンプルとなっている。その他の 30 大学では、平均サンプル数が 44.3、標準偏差が 46.1、最小値は 1、最大値は 202 となっている。

就職、結婚、留学といった一般的な意識・価値観に関する質問項目から、環境問題、東アジア共同体、に関する調査項目も設定した。また両親の学歴、家計の文化資本、経済資本の所有状況といった点に関する質問項目も用意し、学生の意見だけではなく、並びに彼らの意識形成期に影響を与えるであろう両親の意識や世帯状況などを調査できるよう調査票を設計した。

なお、調査票に関しては、巻末の資料として添付してあるので、そちらを参照いただきたい。

### 3. 調査結果

本節では、自由記述をのぞく質問で、集計が可能な 40 問程度の質問項目について、偏差値別、大学の所在地域別のクロス集計を行った。

なお、設問の間 34、問 42、問 46 などの記述形式の質問や、個人情報を含む問 F1 から問 F20 についての集計公表は本報告書では行わない。

**問 1** 次にあげる(a)から(l)のうち、あなたにとって重要なものをお知らせ下さい。(縦の列でそれぞれ 1 つだけ○印)

問 1 (全体)

	最も重要	二番目に重要	最後から二番目に重要ではない	最も重要ではない
(a) 恋愛	135	240	82	38
(b) 学業	272	284	75	32
(c) 政治	23	45	153	39
(d) アルバイト	19	78	104	55
(e) 音楽	35	53	88	35
(f) 芸能人	5	7	408	414
(g) ファッション	11	14	151	64
(h) 宗教	14	13	236	786
(i) サークル・部活動	76	88	126	42
(j) 家族	730	214	26	9
(k) 友情	247	555	39	16
(l) わからない	65	41	138	89
合計	1,632	1,632	1,626	1,619

問 1 解説

#### 【全体】

最も重要なのは家族だと答えた割合が高い。次に学業、友情。二番目に重要なのは友情と答える学生の割合が高く、次に学業、そして友情、恋愛であった。学業以外で重要であると見なしているものは、人間関係に関するものであった。最も重要でないものは宗教と答えた割合が高く、次に芸能人である。また最後から二番目に重要でないのは芸能人と答えた割合が高く、続いて宗教であった。

#### 【偏差値】

偏差値の間と結果に差はみられなかった。

#### 【地域】

地域間の差はない。最も重要でないものに、関西・東海地方では芸能人を上げている割合が高かった。

問 1 (偏差値)

	最も重要				二番目に重要					
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
(a)恋愛	18	17	33	15	41	17	26	70	31	79
(b)学業	17	41	74	23	101	19	27	76	30	103
(c)政治	2	1	8	2	6	5	4	9	8	15
(d)アルバイト	3	3	5	4	4	8	10	33	7	17
(e)音楽	3	6	11	5	6	8	10	14	7	11
(f)芸能人	0	0	2	2	1	1	4	2	0	0
(g)ファッション	1	1	4	3	1	1	2	6	1	3
(h)宗教	2	1	2	2	6	0	2	3	2	5
(i)サークル・部活動	2	8	25	10	27	6	15	26	8	28
(j)家族	52	95	228	62	245	17	23	57	23	82
(k)友情	20	37	78	31	72	39	88	182	47	171
(l)わからない	7	6	25	9	12	4	4	14	4	13
合計	127	216	495	168	522	125	215	492	168	527

	最後から二番目に重要ではない				最も重要ではない					
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
(a)恋愛	7	12	21	14	21	3	6	12	5	8
(b)学業	8	6	30	5	19	5	7	6	4	8
(c)政治	9	19	48	22	46	2	7	14	5	9
(d)アルバイト	6	7	33	6	44	7	4	13	4	21
(e)音楽	6	13	23	5	37	3	1	13	8	9
(f)芸能人	30	63	126	35	125	19	49	95	30	192
(g)ファッション	12	24	38	19	52	6	8	18	3	19
(h)宗教	11	29	60	20	102	66	111	272	89	213
(i)サークル・部活動	13	19	41	18	27	2	7	13	2	16
(j)家族	4	3	8	3	7	1	1	1	6	0
(k)友情	3	6	12	3	14	3	1	4	0	6
(l)わからない	15	14	52	18	31	7	13	29	12	18
合計	124	215	492	168	525	124	215	490	168	519

問 1 (地域)

	最も重要				二番目に重要			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
(a)恋愛	18	77	5	16	29	156	6	29
(b)学業	25	170	15	41	22	179	11	32
(c)政治	5	12	0	3	3	24	1	11
(d)アルバイト	3	10	1	5	16	45	1	10
(e)音楽	2	18	0	11	6	31	3	10
(f)芸能人	0	3	0	2	0	7	0	0
(g)ファッション	2	6	1	2	3	9	0	1
(h)宗教	2	7	1	3	1	7	1	3
(i)サークル・部活動	7	48	0	10	9	61	3	10
(j)家族	84	454	30	85	21	131	9	31
(k)友情	28	175	4	22	69	344	21	65
(l)わからない	7	40	1	8	3	29	1	3
合計	183	1,020	58	208	182	1,023	57	205

	最後から二番目に重要ではない				最も重要ではない			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
(a)恋愛	6	44	8	12	4	21	0	7
(b)学業	4	47	2	13	1	20	2	4
(c)政治	12	98	5	21	3	23	3	5
(d)アルバイト	5	80	2	5	2	36	1	6
(e)音楽	15	54	5	6	6	20	0	8
(f)芸能人	50	263	7	47	38	266	25	39
(g)ファッション	15	89	8	27	9	36	4	3
(h)宗教	28	153	8	22	106	506	17	102
(i)サークル・部活動	22	68	7	20	2	29	0	6
(j)家族	1	15	1	6	1	6	0	2
(k)友情	4	28	2	3	1	8	1	4
(l)わからない	20	80	3	22	8	46	2	17
合計	182	1,019	58	204	181	1,017	55	203

**問2** 全体的にあって、あなたは現在の生活にどの程度満足していますか、あるいはどの程度不満ですか。1 から10 までの数字で当てはまるものをお答え下さい。（1つだけ○印）

問2（全体）

		人数
[不満]	1	31
	2	32
	3	89
	4	120
	5	158
	6	258
	7	389
	8	387
	9	147
[満足]	10	92
分からない		15
合計		1,718

問2（偏差値）

		偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
[不満]	1	4	5	14	3	3
	2	1	6	11	4	8
	3	14	12	31	7	17
	4	15	14	38	17	28
	5	22	25	49	14	35
	6	26	34	87	23	67
	7	28	57	122	33	126
	8	14	49	97	47	158
	9	3	13	47	17	60
[満足]	10	8	7	20	10	41
分からない		2	2	6	2	3
合計		137	224	522	177	546

問2（地域）

		北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
[不満]	1	7	1	4	26
	2	4	0	7	29
	3	16	0	16	75
	4	21	3	22	106
	5	25	3	21	146
	6	33	14	32	234
	7	42	13	43	353
	8	27	19	39	344
	9	14	7	18	129
[満足]	10	4	2	15	81
分からない		1	0	6	15
合計		194	62	223	1,538

## 問 2 解説

### 【全体】

現在の生活の満足度は、7をピークにその周りに分散している。ほぼ満足している人が多い。

### 【偏差値】

偏差値が低いグループから高いグループにかけて、平均的な満足度が高くなっていく。

### 【地域】

地域間の差はほとんどなく、最頻値はどれも7か8であった。

**問 3** 人生は自分の思い通りに動かすことができるという人もいれば、どんなにやってみても自分の人生は変えられないという人もいます。あなたは、ご自分の人生をどの程度自由に動かすことができますか。1 から10 までの数字で当てはまるものをお答え下さい。（1つだけ○印）

## 問 3 (全体)

		人数
[人生は全く自由にならない]	1	38
	2	34
	3	98
	4	140
	5	222
	6	263
	7	308
	8	338
	9	133
[人生は全く自由になる]	10	130
分からない		13
合計		1,717

## 問 3 解説

### 【全体】

7～8を選択する人がおおく、ほぼ人生は自由になると考えている。

### 【偏差値】

偏差値が高い方が、平均的な値が高くなっていく。また偏差値が低い方が、度数にばらつきがあり分散が大きい。また偏差値 45 以下では、4 を付けた人と 7 を付けた人が多く、ピークがふた山存在している。

### 【地域】

関東地方の最頻値が最も高く、他の地方は比較して若干低い。

問3 (偏差値)

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
[人生は全く自由にならない]	1	4	16	3	7
	2	5	14	1	5
	3	17	37	13	14
	4	20	43	16	32
	5	17	88	12	55
	6	22	86	38	70
	7	19	89	30	109
	8	19	75	46	134
	9	6	34	9	65
[人生は全く自由になる]	10	17	34	8	53
分らない	0	4	6	1	2
合計	137	224	522	177	546

問3 (地域)

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
[人生は全く自由にならない]	1	18	1	6
	2	16	0	5
	3	49	2	18
	4	85	2	20
	5	126	8	32
	6	159	9	43
	7	192	17	36
	8	221	14	40
	9	94	5	14
[人生は全く自由になる]	10	89	4	8
分らない	2	10	0	1
合計	194	1,059	62	223

**問4** 人というものは、他人との関係において、機会に乗じてうまくやろうとするものだと思いますか、それとも公正に対処しようとするものだと思いますか。「1」は「機会に乗じてうまくやろうと思う」を、また「10」は「公正に対処しようと思う」を示すとします。1から10までの数字で当てはまるものを1つお答え下さい。（1つだけ○印）

問4（全体）

		人数
[機会に乗じてうまくやろうと思う]	1	38
	2	34
	3	98
	4	140
	5	222
	6	263
	7	308
	8	338
	9	133
[公正に対処しようと思う]	10	130
分からない		13
合計		1,717

問4 解説

【全体】

最頻値は8であるが、5から8にかけて頻度が高い。

【偏差値】

偏差値が低い方が、ばらつきが大きい。また偏差値61以上になると、最頻値の値が高くなる。

【地域】

関東地方の最頻値が最も高い値であった。また北海道、東北、甲信越・北陸と中国、四国、九州・沖縄は、関東地方と比較して分散が大きい。

問 4 (偏差値)

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
[機会に乗じてうまくやろうと思う]	1 5	4	16	3	7
	2 3	5	14	1	5
	3 15	17	37	13	14
	4 20	19	43	16	32
	5 17	36	88	12	55
	6 22	34	86	38	70
	7 19	36	89	30	109
	8 19	40	75	46	134
	9 6	12	34	9	65
[公正に対処しようと思う]	10 11	17	34	8	53
分からない	0	4	6	1	2
合計	137	224	522	177	546

問 4 (地域)

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
[機会に乗じてうまくやろうと思う]	1 6	18	1	6
	2 8	16	0	5
	3 19	49	2	18
	4 21	85	2	20
	5 33	126	8	32
	6 29	159	9	43
	7 29	192	17	36
	8 27	221	14	40
	9 7	94	5	14
[公正に対処しようと思う]	10 13	89	4	8
分からない	2	10	0	1
合計	194	1,059	62	223

**問5** あなたは将来子供がほしいと思いますか？もしほしいのであれば、それは何人ぐらいでしょうか。

子供はほしくない → 0      子供はほしい      (                      ) 人ぐらい

問5 (全体)

子供はほしくない	127
子供はほしい	
1人	76
2人	990
3人	414
4人	28
5人	12
9人	1
10人	4
25人	1
26人	1
27人	1
100人	1
合計	1,656

問5 解説

【全体】

子供が欲しくない人は、全体の約1割程度であった。最頻値は2人であった。

【偏差値】

子供が欲しくない人の割合が、偏差値が高くなるにつれて若干低くなっていく。しかし欲しい子供の数は、どのグループも2人が最も多い。

【地域】

子供が欲しくない人の割合が、中国、四国、九州・沖縄で最も大きい。また欲しい子供の数はどのグループも二人が最も多い。

問5 (偏差値)

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
子供はほしくない	14	21	42	7	32
子供はほしい					
1人	4	9	18	9	27
2人	79	127	301	97	323
3人	33	58	119	57	128
4人	0	2	11	2	10
5人	0	0	4	0	6
9人	0	0	1	0	0
10人	2	0	1	0	1
26人	0	0	0	0	1
27人	0	0	0	0	1
100人	0	1	0	0	0
合計	132	218	497	172	529

問 5 (地域)

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
子供はほしくない	15	68	2	20
子供はほしい				
1人	7	44	8	7
2人	122	626	33	116
3人	35	263	14	65
4人	2	12	2	6
5人	2	5	1	2
9人	1	0	0	0
10人	1	1	0	2
26人	0	1	0	0
27人	0	1	0	0
100人	0	1	0	0
合計	185	1,022	60	218

問 6 結婚をするのであれば、何歳ぐらいするのが理想ですか？ (具体的に記入)

問 6 (全体)

結婚希望年齢	
18歳	2
20歳	2
21歳	1
22歳	13
23歳	26
24歳	73
25歳	297
26歳	171
27歳	227
28歳	317
29歳	48
30歳	353
31歳	7
32歳	39
33歳	17
34歳	2
35歳	50
36歳	1
37歳	2
39歳	1
40歳	6
50歳	1
60歳	1
合計	1,663

問 6 解説

【全体】

結婚希望年齢は、30歳が最も多い。しかし30歳を超えると突然減少し、20代後半から30歳までに結婚したいことが分かる。

【偏差値】

どのグループにおいても20代後半から30歳までに結婚を希望する人が多いが、51以上55以下では最頻値が25であるのに対し、偏差値61以上では30歳が最頻値である。また偏差値が高くなるにつれて、全体的な山の年齢が高くなっている。

【地域】

地域間の差はほとんどない。

問 6 (偏差値)

結婚希望年齢	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
18歳	1	0	0	0	1
20歳	0	0	1	0	1
21歳	0	0	0	0	1
22歳	2	1	6	1	3
23歳	3	4	8	3	4
24歳	11	9	33	10	8
25歳	37	39	114	26	58
26歳	10	28	56	27	43
27歳	13	26	67	25	83
28歳	18	46	90	42	107
29歳	2	6	11	2	24
30歳	25	47	93	28	134
31歳	1	2	1	1	2
32歳	3	2	7	5	20
33歳	2	2	3	0	9
34歳	0	1	0	0	0
35歳	5	2	18	0	21
36歳	0	0	0	0	1
37歳	0	1	0	0	0
39歳	0	1	0	0	0
40歳	1	0	0	2	2
50歳	0	0	1	0	0
60歳	0	0	0	0	1
合計	134	218	511	172	525

問 6 (地域)

結婚希望年齢	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
18歳	0	1	0	1
20歳	0	1	0	0
21歳	0	1	0	0
22歳	3	6	0	2
23歳	2	13	2	4
24歳	5	39	1	19
25歳	45	185	3	36
26歳	24	103	4	23
27歳	28	132	13	31
28歳	33	202	7	47
29歳	4	32	3	2
30歳	34	228	15	42
31歳	1	6	0	0
32歳	3	26	5	3
33歳	2	11	2	1
34歳	0	1	0	0
35歳	5	31	4	5
36歳	0	1	0	0
40歳	0	1	1	3
50歳	0	1	0	0
60歳	0	1	0	0
合計	191	1,025	60	219

**問 7** あなたは、夫婦の間に何人の子供がいるのが理想的だと思いますか。(具体的に記入)

問 7 (全体)

理想的な子供の数	
0人	11
1人	38
2人	1,071
3人	478
4人	23
5人	3
10人	2
14人	1
22人	1
30人	1
34人	1
100人	1
合計	1,631

問 7 解説

【全体】

理想の夫婦間の子供の最頻値は、2人であった。自分の子供の希望数は、欲しくないと答える人がいるのに対し、理想の夫婦間の子供の数でゼロを答える人はほとんどいなかった。

【偏差値】

偏差値の間に差はなかった。

【地域】

地域間の差はなかった。

問 7 (偏差値)

理想的な子供の数	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
0人	3	1	2	0	5
1人	2	6	8	3	12
2人	92	134	332	115	334
3人	34	65	149	51	155
4人	1	2	6	0	10
5人	0	0	0	0	1
10人	1	0	1	0	0
14人	0	0	0	0	1
22人	0	0	0	0	1
30人	0	0	1	0	0
34人	0	0	0	0	1
100人	0	1	0	0	0
合計	133	209	499	169	520

問 7 (地域)

理想的な子供の数	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
0人	0	6	1	3
1人	3	21	1	5
2人	135	678	36	122
3人	43	293	20	75
4人	1	10	1	6
5人	0	1	0	0
10人	1	0	0	1
14人	0	1	0	0
22人	0	1	0	0
30人	1	0	0	0
34人	0	1	0	0
100人	0	1	0	0
合計	184	1,013	59	212

**問 8** 民主党が掲げる子ども手当（月額 2 万 6000 円の支給）についてあなたはどうかおもいますか。（1 つだけ○印）

問 8（全体）

	人数
非常に賛成	110
おおむね賛成	810
やや反対	444
非常に反対	275
知らない	68
合計	1,707

問 8 解説

**【全体】**

おおむね賛成する人が最も多く、次にやや反対している人が多かった。全体的に賛成の割合が大きいですが、全面的に賛成している人の割合は少ない。

**【偏差値】**

偏差値の間と結果に差はみられなかった。

**【地域】**

地域間の差はみられなかった。問 8（偏差値）

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
非常に賛成	7	9	46	10	28
おおむね賛成	62	115	246	86	250
やや反対	34	62	138	41	143
非常に反対	29	30	60	35	102
知らない	3	7	27	5	20
合計	135	223	517	177	543

問 8（地域）

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
非常に賛成	20	56	6	12
おおむね賛成	87	511	33	102
やや反対	51	278	8	61
非常に反対	28	164	11	40
知らない	7	44	4	6
合計	193	1,053	62	221

**問9** あなたの親や保護者は、あなたが子どもの時に、どのように成長してほしいと言っていましたか。息子の場合、娘の場合に、それぞれ最も近い項目を2つ選び、番号に○をしてください。もしあなた以外に息子か娘がいない場合には、男の子や女の子に対するあなたの親や保護者の考えを想像して答えてください  
(それぞれの性別(縦軸方向)で2つまで選択して○印)。

問9(全体)

	(a) 息子に対して 回答数合計	(b) 娘に対して 回答数合計
1 偉大な学者になること	30	6
2 権力ある政治リーダーになること	38	5
3 経済的に大変豊かになること	330	141
4 愛情あふれる慈悲深い人になること	810	894
5 大衆に尊敬される人になること	402	173
6 親や保護者よりも優れた専門家になること	73	38
7 親や保護者の跡を継ぐこと	58	9
8 家族を世話する人になること	161	152
9 よい結婚相手を見つけること	139	443
10 精神的に満たされること	517	485
11 その他	126	111
12 分からない	158	157
合計	2842	2614

注) 二つまで選択の質問だが、未選択の回答者も多いため合算で表を作成している。

問9 解説

【全体】

愛情あふれる慈悲深い人になること、精神的に満たされること、など人間としての幸せを願う選択肢は息子と娘に対してどちらにも選択されている。一方で経済的に大変豊かになること、は息子の方がより期待されているのに対し、よい結婚相手を見つけることは娘の方が期待されていたことが分かる。

【偏差値】

偏差値の間に差はみられなかった。

【地域】

地域間の差はなかった。

問 9 (偏差値)

	(a) 息子に対して				
	回答数合計				
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
1 偉大な学者になること	1	2	7	4	13
2 権力ある政治リーダーになること	1	3	12	2	15
3 経済的に大変豊かになること	27	39	112	27	103
4 愛情あふれる慈悲深い人になること	63	124	243	88	241
5 大衆に尊敬される人になること	45	51	111	44	129
6 親や保護者よりも優れた専門家になること	6	2	16	4	38
7 親や保護者の跡を継ぐこと	4	11	18	5	13
8 家族を世話する人になること	14	13	48	16	55
9 よい結婚相手を見つけること	17	16	52	14	29
10 精神的に満たされること	32	72	136	44	205
11 その他	11	17	40	12	39
12 分からない	15	21	67	14	36
合計	236	371	802	274	916

	(b) 娘に対して				
	回答数合計				
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
1 偉大な学者になること	0	0	1	1	3
2 権力ある政治リーダーになること	1	0	2	0	2
3 経済的に大変豊かになること	4	12	55	13	48
4 愛情あふれる慈悲深い人になること	66	132	264	106	272
5 大衆に尊敬される人になること	8	19	52	24	62
6 親や保護者よりも優れた専門家になること	3	4	6	4	18
7 親や保護者の跡を継ぐこと	1	3	4	0	1
8 家族を世話する人になること	19	15	50	9	47
9 よい結婚相手を見つけること	42	62	139	46	115
10 精神的に満たされること	26	59	121	52	200
11 その他	8	13	40	7	35
12 分からない	17	25	58	12	40
合計	195	344	792	274	843

問 9 (地域)

	(a) 息子に対して			
	回答数合計			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
1 偉大な学者になること	1	13	5	9
2 権力ある政治リーダーになること	3	21	1	4
3 経済的に大変豊かになること	40	200	10	47
4 愛情あふれる慈悲深い人になること	90	518	24	103
5 大衆に尊敬される人になること	49	256	8	55
6 親や保護者よりも優れた専門家になること	4	48	6	6
7 親や保護者の跡を継ぐこと	2	41	1	8
8 家族を世話する人になること	17	94	9	22
9 よい結婚相手を見つけたこと	21	74	2	23
10 精神的に満たされること	53	349	18	52
11 その他	9	74	9	18
12 分からない	35	86	4	17
合計	324	1774	97	364

	(b) 娘に対して			
	回答数合計			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
1 偉大な学者になること	1	3	1	0
2 権力ある政治リーダーになること	1	3	0	0
3 経済的に大変豊かになること	18	86	7	17
4 愛情あふれる慈悲深い人になること	90	569	26	118
5 大衆に尊敬される人になること	17	111	8	25
6 親や保護者よりも優れた専門家になること	0	28	5	4
7 親や保護者の跡を継ぐこと	0	7	0	2
8 家族を世話する人になること	18	85	8	21
9 よい結婚相手を見つけたこと	52	272	10	63
10 精神的に満たされること	43	327	25	48
11 その他	8	64	9	17
12 分からない	29	91	3	18
合計	277	1646	102	333

**問10** 以下は、子どもが家庭で学ぶべきとされる点のリストです。あなたが最も重要だと思ふ2つを選んでください。(選択した2つの番号を右の□の中に記入)

問10 (全体)

		回答数合計
1	自立・独立	668
2	勤勉	173
3	正直	497
4	誠実	926
5	注意深さ	66
6	謙虚	303
7	信心深さ	100
8	忍耐力	455
9	競争心	83
10	お年寄りに対する尊敬	122
11	教師に対する尊敬	18
99	分からない	11
合計		3,422

注) 二つまで選択の質問。合算で表を作成している。

問10 解説

**【全体】**

家庭で学ぶべき最も重要なことで、最も多かった回答は誠実で、次に自立・独立であった。また最も少ない回答は、教師に対する尊敬であった。

**【偏差値】**

偏差値の間に差はみられなかった。

**【地域】**

地域間の間に差はみられなかった。

問 10 (偏差値)

	回答数合計			
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下
	偏差値61以上			
1 自立・独立	50	77	202	73
2 勤勉	7	17	43	11
3 正直	47	63	161	50
4 誠実	69	110	264	103
5 注意深さ	8	8	23	5
6 謙虚	18	54	88	30
7 信心深さ	11	15	32	14
8 忍耐力	49	70	160	40
9 競争心	10	18	18	13
10 お年寄りに対する尊敬	4	15	41	15
11 教師に対する尊敬	1	0	7	0
99 分からない	0	1	2	0
合計	274	448	1,041	354
				1,085

問 10 (地域)

	回答数合計			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
1 自立・独立	77	402	23	91
2 勤勉	15	107	8	21
3 正直	54	313	19	61
4 誠実	101	579	41	114
5 注意深さ	11	33	1	12
6 謙虚	33	195	9	41
7 信心深さ	14	57	4	12
8 忍耐力	68	278	10	58
9 競争心	6	56	1	11
10 お年寄りに対する尊敬	6	72	7	24
11 教師に対する尊敬	3	9	1	1
99 分からない	0	9	0	0
合計	388	2,110	124	446

**問 1 1** 次にあげる意見それぞれについて、あなたはどの程度賛成ですか。（各項目で1つ〇印）

問 11（全体）

	強く賛成	賛成	どちらでもない	反対	強く反対
A) 母親が働いていても、働いていない母親と同じように暖かくてしっかりした母子関係を築くことができる	693	666	214	117	24
B) 家庭の主婦であることはお金のために働くのと同じくらい充実している	341	670	490	182	30
C) 家庭の維持費は夫も妻もともに稼ぎだすべきだ	149	378	948	190	38
D) 一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している	123	296	712	391	184
E) 大学教育は女子より男子にとって重要である	74	167	552	488	427
F) 一般的に、男性の方が女性より経営幹部として適している	69	230	670	443	294
G) 結婚は時代遅れの制度である	24	81	428	600	576

問 11 解説

【全体】

A、Bについての賛成の回答が多かった。母親の仕事について認めつつ、専業主婦の生活も否定はしない結果となった。また C～F までの男性と女性の能力や役割の比較についての質問に対して、どちらでもないと回答した者が多い。しかし一方で結婚制度自体を否定しているわけではない。

【偏差値】

偏差値の間に差はみられなかった。

【地域】

地域間の間に差はみられなかった。

問 11 (偏差値)

	強く賛成				賛成				
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
A) 母親が働いていても、働いていない母親と同じように暖かくてしっかりした母子関係を築くことができる	59	86	223	75	220	53	94	194	207
B) 家庭の主婦であることはお金のために働くのと同じくらい充実している	31	51	104	34	98	67	88	213	197
C) 家庭の維持費は夫も妻もともに稼いだすべきだ	13	16	44	20	47	32	42	114	128
D) 一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している	9	22	40	11	29	19	45	74	113
E) 大学教育は女子より男子にとって重要である	7	15	21	6	21	18	17	52	45
F) 一般的に、男性の方が女性より経営幹部として適している	4	13	21	4	20	17	32	62	82
G) 結婚は時代遅れの制度である	5	2	5	1	7	6	8	22	28

	どちらでもない				反対				
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
A) 母親が働いていても、働いていない母親と同じように暖かくてしっかりした母子関係を築くことができる	19	19	32	63	15	6	7	39	49
B) 家庭の主婦であることはお金のために働くのと同じくらい充実している	33	33	63	146	50	5	16	51	76
C) 家庭の維持費は夫も妻もともに稼いだすべきだ	77	77	136	298	87	14	21	54	55
D) 一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している	78	78	95	236	75	23	41	127	133
E) 大学教育は女子より男子にとって重要である	64	64	88	187	52	31	63	147	167
F) 一般的に、男性の方が女性より経営幹部として適している	71	71	91	212	71	29	58	145	144
G) 結婚は時代遅れの制度である	40	40	67	141	42	47	74	185	203

	強く反対			
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下
A) 母親が働いていても、働いていない母親と同じように暖かくてしっかりした母子関係を築くことができる	1	5	3	2
B) 家庭の主婦であることはお金のために働くのと同じくらい充実している	2	5	8	3
C) 家庭の維持費は夫も妻もともに稼いだすべきだ	1	8	11	1
D) 一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している	9	18	43	16
E) 大学教育は女子より男子にとって重要である	18	40	115	46
F) 一般的に、男性の方が女性より経営幹部として適している	17	29	82	34
G) 結婚は時代遅れの制度である	39	72	169	68
				199

### 問 11 (地域)

	強く賛成				賛成			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
A) 母親が働いていても、働いていない母親と同じように暖かくてしっかりした母子関係を築くことができる	82	433	27	93	75	409	26	93
B) 家庭の主婦であることはお金のために働くのと同じくらい充実している	46	203	8	43	73	419	25	98
C) 家庭の維持費は夫も妻もともに稼いだすべきだ	13	96	2	25	41	230	20	45
D) 一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している	22	69	1	12	29	203	6	38
E) 大学教育は女子より男子にとって重要である	10	49	0	7	22	99	3	24
F) 一般的に、男性の方が女性より経営幹部として適している	8	43	0	6	24	150	7	31
G) 結婚は時代遅れの制度である	2	15	0	3	7	43	6	14

	どちらでもない					反対		
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
A) 母親が働いていても、働いていない母親と同じように暖かくしてしっかりした母子関係を築くことができる	19	129	7	28	18	73	2	8
B) 家庭の主婦であることはお金のために働くのと同じくらい充実している	51	307	23	53	20	110	6	24
C) 家庭の維持費は夫も妻もともに稼ぎだすべきだ	112	595	35	112	22	106	5	34
D) 一般的に、男性の方が女性が女性より政治の指導者として適している	85	433	27	101	41	227	16	56
E) 大学教育は女子より男子にとって重要である	69	337	14	77	55	297	20	64
F) 一般的に、男性の方が女性が女性より経営幹部として適している	83	400	22	91	47	268	21	61
G) 結婚は時代遅れの制度である	51	245	14	62	68	381	24	73

	強く反対		
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海
A) 母親が働いていても、働いていない母親と同じように暖かくしてしっかりした母子関係を築くことができる	0	15	0
B) 家庭の主婦であることはお金のために働くのと同じくらい充実している	4	19	0
C) 家庭の維持費は夫も妻もともに稼ぎだすべきだ	5	26	0
D) 一般的に、男性の方が女性が女性より政治の指導者として適している	17	121	12
E) 大学教育は女子より男子にとって重要である	38	271	25
F) 一般的に、男性の方が女性が女性より経営幹部として適している	32	192	12
G) 結婚は時代遅れの制度である	66	371	18

**問12** 人生の目標は人によって異なります。次にあげる目標それぞれについて、あなたはどの程度賛成ですか。（各項目で1つ○印）

問12（全体）

	強く賛成	賛成	どちらでもない	反対	強く反対
A) 親が私を誇りに思えるように努めることが人生目標の1つである	348	767	380	157	55
B) 他人に迎合するよりも、自分らしくありたい	486	816	345	55	6
C) 友人の期待に応えるよう努力している	160	691	629	181	48
D) 自分の人生の目標は自分で決める	860	707	126	12	4

問12 解説

**【全体】**

全ての質問項目について、賛成する選択肢を選んだ回答者が多かった。特にA、CよりもB、Dの方が反対を選択する回答者が少なかった。A、Cは他人への意識が目標に組み込まれているのに対し、B、Dは自分自身のために掲げる目標である。

**【偏差値】**

偏差値の間に差はみられなかった。

**【地域】**

地域間の間に差はみられなかった。

問 12 (偏差値)

	偏差値45以下				偏差値46以上50以下					
	強く賛成	賛成	どちらでもない	反対	強く反対	強く賛成	賛成	どちらでもない	反対	強く反対
A) 親が私を誇りに思えるように努めることが人生目標の1つである	28	51	38	16	5	45	95	63	13	7
B) 他人に迎合するよりも、自分らしくありたい	37	70	25	6	0	72	95	47	8	1
C) 友人の期待に応えるよう努力している	14	50	60	8	6	27	86	82	20	8
D) 自分の人生の目標は自分で決める	70	51	17	0	0	114	88	19	2	0

	偏差値51以上55以下				偏差値56以上60以下					
	強く賛成	賛成	どちらでもない	反対	強く反対	強く賛成	賛成	どちらでもない	反対	強く反対
A) 親が私を誇りに思えるように努めることが人生目標の1つである	105	243	105	51	15	26	96	37	17	1
B) 他人に迎合するよりも、自分らしくありたい	130	239	128	21	3	49	88	37	3	0
C) 友人の期待に応えるよう努力している	43	206	204	55	13	12	77	59	26	3
D) 自分の人生の目標は自分で決める	246	228	38	6	3	85	81	11	0	0

	偏差値61以上			
	強く賛成	賛成	どちらでもない	強く反対
A) 親が私を誇りに思えるように努めることが人生目標の1つである	118	243	115	21
B) 他人に迎合するよりも、自分らしくありたい	163	276	92	1
C) 友人の期待に応えるよう努力している	55	230	188	12
D) 自分の人生の目標は自分で決める	292	219	31	1

問 12 (地域)

	北海道、東北、甲信越・北陸						関東地方			
	強く賛成	賛成	どちらでもない	反対	強く反対	強く賛成	賛成	どちらでもない	反対	強く反対
	A) 親が私を誇りに思えるように努めることが人生目標の1つである	43	92	31	21	7	213	465	245	99
B) 他人に迎合するよりも、自分らしくありたい	52	84	46	11	1	308	503	210	32	2
C) 友人の期待に応えるよう努力している	22	72	76	20	4	108	422	388	106	32
D) 自分の人生の目標は自分で決める	99	83	10	1	1	550	420	77	7	2

	関西、東海				中国、四国、九州・沖縄					
	強く賛成	賛成	どちらでもない	反対	強く反対	強く賛成	賛成	どちらでもない	反対	強く反対
	A) 親が私を誇りに思えるように努めることが人生目標の1つである	10	30	17	4	1	42	111	49	15
B) 他人に迎合するよりも、自分らしくありたい	13	36	12	1	0	59	111	47	4	2
C) 友人の期待に応えるよう努力している	5	30	19	6	2	12	98	82	27	4
D) 自分の人生の目標は自分で決める	30	30	2	0	0	97	105	19	1	1

**問 13** あなたは次のようなことがらについて、どの程度知っていますか。(各項目で1つ○印)

問 13 (全体)

	聞いたことがあるし、 ある程度説明もできる	聞いたことはあるが、 内容はよくわからない	聞いたことがないので よくわからない
排出権取引	976	333	394
グリーン・ニューディール	501	706	495
FTA・EPA	375	574	752
ミレニアム開発目標	274	536	881
アジェンダ21	330	869	497
歴史教科書問題	1,159	443	96
日本の戦後処理	790	764	145
従軍慰安婦問題	881	483	332
築地移転問題	609	654	437
apバンク	158	550	986

問 13 解説

**【全体】**

認知度が高かった選択肢は、歴史教科書問題、排出権取引であった。一方で最も認知されていない選択肢は ap バンク、ミレニアム開発目標であった。また言葉のみの認知はアジェンダ 21 であった。

**【偏差値】**

偏差値が高くなるにつれて、聞いたこともあるしある程度説明できる、を選択した回答者が多くなった。また聞いたことがないのでよく分からない、で最も多かった選択項目は、偏差値 55 以下が FTA・EPA とミレニアム開発目標であったのに対し、偏差値 56 以上については ap バンクであった。

**【地域】**

地域間に差はほとんどみられなかった。関西、東海でミレニアム開発目標の認知度は、他の地域よりも比較的知られていた。

問 13 (偏差値)

	聞いたことがあるし、ある程度説明もできる				聞いたことはあるが、内容はよくわからない				
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
排出権取引	35	121	253	96	41	50	123	36	62
グリーン・ニューディール	24	48	122	42	63	89	243	69	191
FTA・EPA	5	27	71	24	42	73	176	70	179
ミレニアム開発目標	4	27	21	26	32	76	142	74	176
アジェンダ21	8	26	97	48	42	96	269	91	326
歴史教科書問題	69	119	331	116	53	72	164	50	76
日本の戦後処理	41	84	200	77	79	109	267	81	180
従軍慰安婦問題	26	85	212	94	52	68	176	58	103
築地移転問題	37	63	146	50	49	88	217	82	185
apバンク	6	17	39	8	51	60	171	54	182

	聞いたことがないのよ			
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下
排出権取引	62	51	145	42
グリーン・ニューディール	51	85	153	63
FTA・EPA	91	122	272	81
ミレニアム開発目標	101	118	353	74
アジェンダ21	88	98	153	33
歴史教科書問題	16	31	24	8
日本の戦後処理	17	29	51	16
従軍慰安婦問題	60	68	128	22
築地移転問題	52	70	156	42
apバンク	79	144	306	112

問 13 (地域)

	聞いたことがあるし、ある程度説明もできる			聞いたことはあるが、内容はよくわからない				
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
排出権取引	106	614	43	124	55	178	13	48
グリーン・ニューディール	51	323	26	62	102	424	19	91
FTA・EPA	33	246	25	37	79	334	24	79
ミレニアム開発目標	5	181	43	18	56	323	10	93
アジェンダ21	33	184	18	63	123	513	37	127
歴史教科書問題	112	747	48	138	75	245	11	67
日本の戦後処理	68	525	34	89	105	447	23	106
従軍慰安婦問題	69	586	41	101	73	274	15	75
築地移転問題	37	425	25	60	84	382	22	101
apバンク	8	118	11	7	61	351	20	64

	聞いたことがないのでよくわからない			
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
排出権取引	32	265	6	48
グリーン・ニューディール	38	310	17	67
FTA・EPA	80	477	12	104
ミレニアム開発目標	128	547	8	109
アジェンダ21	38	357	6	27
歴史教科書問題	5	61	2	15
日本の戦後処理	18	81	5	26
従軍慰安婦問題	49	193	5	43
築地移転問題	71	247	15	59
apバンク	122	581	31	148

**問14** 持続可能な社会の構築に向けて、どのような点がもっとも重要だと思いますか。  
 (縦の列でそれぞれ1つだけ○印)

問14 (全体)

	最も重要	二番目に重要	二番目に重要ではない	最も重要ではない
経済成長	374	267	94	82
生物多様性の維持	91	147	118	72
世代間の公平性	68	132	187	132
地球温暖化問題の緩和	181	244	107	48
先進諸国と途上国の協力	280	282	59	20
人々のモラル	509	262	95	26
情報化の進展	19	57	254	142
NGO/NPOなどの活動	13	29	78	38
国連など国際組織の強化	35	80	111	75
マスコミによる啓蒙活動	6	29	234	589
その他	31	18	6	13
わからない	22	30	247	301
合計	1,629	1,577	1,590	1,538

問14 解説

**【全体】**

最も重要なのは人々のモラル、二番目に重要なのは先進諸国と途上国の協力、二番目に重要ではないのは情報化の進展、最も重要でないのはマスコミによる啓蒙活動であった。人々の協力に重きを置いている回答であった。一方で情報を広めることについては、他の選択項目よりも重要度が低いと認識されている。

**【偏差値】**

偏差値の間に大きな差は生まれなかった。

**【地域】**

地域間に大きな差は生まれなかった。

問 14 (偏差値)

	最も重要				二番目に重要				
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
経済成長	33	54	102	39	36	47	71	35	69
生物多様性の維持	4	7	27	12	32	23	45	18	52
世代間の公平性	6	12	14	3	26	10	44	13	43
地球温暖化問題の緩和	19	34	62	17	38	24	70	34	65
先進諸国と途上国の協力	12	35	78	39	100	37	100	18	100
人々のモラル	46	65	173	52	21	28	86	37	76
情報化の進展	1	1	6	1	7	10	21	1	21
NGO/NPOなどの活動	1	0	6	1	2	2	8	1	13
国連など国際組織の強化	2	3	12	3	15	4	26	7	31
マスコミによる啓蒙活動	0	1	1	0	4	1	6	1	14
その他	1	0	11	3	15	2	7	2	5
わからない	3	3	9	1	6	4	11	3	9
合計	128	215	501	171	126	212	495	170	498

問 14 (地域)

	最も重要ではない				二番目に重要ではない				最も重要ではない				
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
経済成長	5	6	36	11	6	7	26	5	34	27	38	25	18
生物多様性の維持	12	10	43	9	5	12	25	11	18	70	40	19	46
世代間の公平性	10	23	52	19	8	15	40	19	46	26	15	4	15
地球温暖化問題の緩和	11	10	44	8	6	6	15	4	15	17	4	2	8
先進諸国と途上国の協力	4	12	17	7	2	1	4	2	8	38	5	2	9
人々のモラル	4	12	18	10	4	4	5	2	9	81	46	25	39
情報化の進展	22	35	82	22	7	15	46	25	39	34	8	3	16
NGO/NPOなどの活動	2	9	25	6	4	5	8	3	16	42	17	7	31
国連など国際組織の強化	11	13	28	13	6	10	17	7	31	65	208	57	165
マスコミによる啓蒙活動	20	42	64	34	55	77	208	57	165	0	1	1	6
その他	0	0	1	0	0	0	4	1	6	81	93	28	90
わからない	25	34	81	27	26	51	93	28	90	206	205	164	477
合計	126	206	491	166	129	205	491	164	477	511	491	164	477

**問15** アジア地域には、戦争や植民地支配といった悲惨な歴史があります。あなたはこうした歴史問題についてどの程度関心がありますか（1つだけ○印）

問15（全体）

非常に関心がある	401
それなりに関心がある	944
あまり関心がない	310
全く関心がない	40
知らない	6
合計	1,701

問15（偏差値）

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
非常に関心がある	14	50	88	40	185
それなりに関心がある	79	134	289	103	282
あまり関心がない	37	34	129	32	62
全く関心がない	6	3	11	2	14
知らない	2	1	3	0	0
合計	138	222	520	177	543

問15（地域）

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
非常に関心がある	27	270	21	42
それなりに関心がある	101	595	30	127
あまり関心がない	62	163	9	46
全く関心がない	3	23	1	6
知らない	0	4	0	2
合計	193	1,055	61	223

問15 解説

【全体】

歴史問題についての関心は、それなりには関心があるものの、強い関心は抱いていない。

【偏差値】

偏差値の間に差はみられなかった。

【地域】

地域間に差はみられなかった。

**問16** アジア諸国の間では、日本の戦争・植民地支配の歴史認識のあり方をめぐって、しばしば摩擦が生じています。そこで、このような歴史問題を解決し友好な関係を築いていくために、どのようなことが最も有効だと思いますか。(番号を右の□の中に記入。その他の場合は具体的な内容も記入してください)

問16 (全体)

心からの反省と謝罪	229
賠償問題の再検討	21
経済援助	74
人道支援	79
歴史認識を一致させるための共同研究	271
ナショナリズムの自制	53
真相の究明	126
経済関係の深まり	62
幅広い文化交流	469
時の経過	86
解決できない	159
その他	40
わからない	34
合計	1,703

問16 解説

**【全体】**

歴史問題の解決について最も有効だと思うことは、幅広い文化交流と歴史認識を一致させるための共同研究であった。また賠償問題の再検討が最も低かった。

**【偏差値】**

偏差値の間に大きな差はみられなかった。偏差値が51以上になると、歴史認識を一致させるための共同研究により重きを置く傾向がある。

**【地域】**

地域間の差はみられなかった。

問 16 (偏差値)

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
心からの反省と謝罪	22	35	58	29	73
賠償問題の再検討	0	5	6	3	7
経済援助	10	14	25	7	11
人道支援	9	7	31	11	15
歴史認識を一致させるための共同研究	17	26	90	31	90
ナショナリズムの自制	0	6	17	5	23
真相の究明	10	12	44	13	37
経済関係の深まり	6	11	15	6	21
幅広い文化交流	29	63	130	54	174
時の経過	9	9	21	6	32
解決できない	17	27	58	7	37
その他	5	4	10	2	18
わからない	4	5	15	3	4
合計	138	224	520	177	542

問 16 (地域)

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
心からの反省と謝罪	19	143	9	36
賠償問題の再検討	1	14	1	2
経済援助	11	39	2	11
人道支援	10	49	3	9
歴史認識を一致させるための共同研究	32	165	8	47
ナショナリズムの自制	6	28	3	7
真相の究明	19	74	5	18
経済関係の深まり	8	41	1	9
幅広い文化交流	47	306	18	58
時の経過	6	54	1	9
解決できない	28	92	6	12
その他	2	28	4	2
わからない	4	23	0	3
合計	193	1,056	61	223

**問17** これからアジア地域が関係を発展させる上で、最も障害になると思われる問題は何かと思いますか。

(番号を右の□の中に記入。その他の場合は具体的な内容も記入してください)

問 17 (全体)

領土問題	127
資源問題	177
歴史認識の違い	347
経済摩擦	97
貧富の格差	276
文化の違い	185
近隣諸国の軍事大国化	118
民族感情	324
その他	23
わからない	30
合計	1,704

問 17 (偏差値)

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
領土問題	19	12	46	7	31
資源問題	12	21	58	19	60
歴史認識の違い	23	47	127	30	95
経済摩擦	9	18	27	6	31
貧富の格差	29	39	79	35	80
文化の違い	16	32	48	21	59
近隣諸国の軍事大国化	9	16	32	12	40
民族感情	13	30	93	39	134
その他	3	3	2	4	9
わからない	5	6	9	4	4
合計	138	224	521	177	543

問 17 (地域)

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
領土問題	17	76	4	17
資源問題	25	105	3	27
歴史認識の違い	45	205	8	43
経済摩擦	13	62	5	6
貧富の格差	21	176	16	34
文化の違い	19	121	3	28
近隣諸国の軍事大国化	15	71	7	15
民族感情	36	208	11	45
その他	1	14	3	3
わからない	2	19	1	5
合計	194	1,057	61	223

問 17 解説

【全体】

最も障害になると思われている問題は、歴史認識の違いと民族感情であった。また一方で経済摩擦を選択する回答者は少なかった。

**【偏差値】**

歴史認識の違いについてはどのグループも強く問題視していた。偏差値が 50 以下のグループは貧富の格差を強く問題視しているのに対し、また偏差値が 51 以上のグループは民族感情をより強く問題視していた。

**【地域】**

地域間に大きな差はなかった。

**問 18** あなたの他のアジア諸国に関する歴史の知識は、何がもとになっていますか。最も影響が大きいと思うものを選んでください。(番号を右の□の中に記入。その他の場合は具体的な内容も記入してください)

問 18 (全体)

自分や家族の体験	48
友人や知人の体験	15
学校教育	974
記念館や歴史施設	22
新聞やテレビ・ラジオの報道	306
書籍や雑誌	164
インターネット	124
映画やドラマ	19
その他	21
わからない	9
合計	1,702

問 18 解説

**【全体】**

歴史の知識のもとになっているものは、学校教育が一番高かった。またその次に新聞やテレビ・ラジオの報道であった。

**【偏差値】**

偏差値の間に差はみられなかった。

**【地域】**

地域間に差はみられなかった。

問 18 (偏差値)

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
自分や家族の体験	1	7	4	6	25
友人や知人の体験	1	2	4	1	5
学校教育	67	150	317	107	279
記念館や歴史施設	2	4	7	1	7
新聞やテレビ・ラジオの報道	46	28	104	21	91
書籍や雑誌	5	8	35	16	87
インターネット	14	16	36	16	36
映画やドラマ	1	5	5	1	4
その他	0	1	6	8	6
わからない	1	3	2	0	1
合計	138	224	520	177	541

問 18 (地域)

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
自分や家族の体験	3	30	5	3
友人や知人の体験	0	8	0	3
学校教育	114	597	32	140
記念館や歴史施設	1	12	3	2
新聞やテレビ・ラジオの報道	41	202	7	27
書籍や雑誌	13	105	8	23
インターネット	17	72	4	17
映画やドラマ	2	10	2	2
その他	3	12	0	6
わからない	0	6	0	0
合計	194	1,054	61	223

**問19** 日本が国際社会で最も大きな役割を果たそうとする場合、あなたが最も大切だと思うことはなんですか。(番号を右の□の中に記入。その他の場合は具体的な内容も記入してください)

問19 (全体)

アジア近隣諸国の理解・支持を取り付ける	592
国連との協同步調	145
アメリカとの協同步調	114
平和国家としての貢献	678
自衛隊の積極的派遣	28
その他	63
わからない	75
合計	1,695

問19 解説

**【全体】**

最も大切だと思っていることは、平和国家としての貢献であった。またその次に多いのは、アジア近隣諸国の理解・支持を取り付けることであった。また対照的に自衛隊の積極的派遣については最も低かった。

**【偏差値】**

偏差値の間に差はみられなかった。

**【地域】**

地域間に差はみられなかった。

問 19 (偏差値)

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
アジア近隣諸国の理解・支持を取り付ける	44	66	175	48	224
国連との協同歩調	16	22	51	17	30
アメリカとの協同歩調	15	22	29	17	25
平和国家としての貢献	54	89	210	77	217
自衛隊の積極的派遣	4	5	11	0	5
その他	2	4	14	9	29
わからない	3	11	27	9	15
合計	138	219	517	177	545

問 19 (地域)

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
アジア近隣諸国の理解・支持を取り付ける	65	387	27	56
国連との協同歩調	21	86	3	18
アメリカとの協同歩調	10	65	1	21
平和国家としての貢献	73	419	26	106
自衛隊の積極的派遣	6	15	0	3
その他	6	35	4	10
わからない	10	46	1	8
合計	191	1,053	62	222

**問20** 国際紛争を解決する手段として何が重要と思いますか。最も重要なもの、二番目に重要なもの、最も重要でないものを、それぞれ選んでください。（縦の列でそれぞれ1つだけ○印）

問 20（全体）

	最も重要	二番目に重要	最もよくない
当事国間の外交対話	754	302	16
自国の軍事力の強化	28	63	198
軍備の縮小または撤廃	196	311	72
核の保有	22	45	628
非核化	266	223	37
武力行使	15	34	475
経済制裁	58	119	51
国連の決定の下での協調行動	163	296	34
アジア・太平洋地域の安全保障協力	90	164	22
わからない	41	62	67
合計	1,633	1,619	1,600

問 20 解説

**【全体】**

最も重要、二番目に重要も、当時国間の外交対話を重要視している。また対照的に最もよくないものとして挙げているのは、核の保有であった。軍事力を縮小し、平和的な方法で解決することを望んでいることが分かる。

**【偏差値】**

偏差値 60 以上のグループは、二番目に重要なものとして、国連の決定の下での協調行動をより重視している。その他については偏差値の間に大きな差は見られなかった。

**【地域】**

地域間に大きな差は生まれなかった。

問 20 (偏差値)

	最も重要				二番目に重要			
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下
	当事国間の外交対話	43	97	213	82	29	39	97
自国の軍力の強化	0	4	9	4	3	8	13	9
軍備の縮小または撤廃	19	25	60	25	32	49	108	25
核の保有	5	5	3	0	5	10	11	4
非核化	35	44	95	26	22	38	69	27
武力行使	4	3	3	1	4	4	12	4
経済制裁	4	7	20	6	6	17	35	15
国連の決定の下の協調行動	8	12	59	17	14	28	86	33
アジア・太平洋地域の安全保障協力	8	17	19	6	8	19	42	15
わからない	1	5	17	4	5	5	22	5
合計	127	219	498	171	128	217	495	171

	最もよくない			
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下
	当事国間の外交対話	1	3	4
自国の軍力の強化	18	24	51	17
軍備の縮小または撤廃	2	6	24	10
核の保有	46	76	217	64
非核化	1	6	15	3
武力行使	46	69	137	42
経済制裁	8	10	10	6
国連の決定の下の協調行動	0	7	11	6
アジア・太平洋地域の安全保障協力	0	4	5	3
わからない	4	11	21	11
合計	126	216	495	167

問 20 (地域)

	最も重要				二番目に重要			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
当事国間の外交対話	86	473	31	102	33	185	11	48
自国の軍事力の強化	2	13	1	6	7	31	4	10
軍備の縮小または撤廃	25	115	6	29	39	197	10	40
核の保有	2	9	0	4	5	25	1	6
非核化	30	164	6	36	30	145	4	21
武力行使	2	12	1	0	6	22	2	2
経済制裁	8	37	2	7	15	70	4	15
国連の決定の下の協調行動	21	100	7	21	27	194	8	48
アジア・太平洋地域の安全保障協力	6	69	4	3	18	106	6	14
わからない	3	31	2	3	5	43	5	6
合計	185	1,023	60	211	185	1,018	55	210

	最もよくない			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
当事国間の外交対話	5	7	1	2
自国の軍事力の強化	16	128	9	23
軍備の縮小または撤廃	11	41	0	12
核の保有	79	405	16	76
非核化	4	20	2	5
武力行使	56	297	17	63
経済制裁	4	35	1	7
国連の決定の下の協調行動	3	20	2	5
アジア・太平洋地域の安全保障協力	2	16	1	2
わからない	4	41	3	10
合計	184	1,010	52	205

**問21** 一国の法規制を越えた戦争のような人権侵害が行われる場合、これを規制するには次のどれが一番有効だと思いますか。(番号を右の口の中に記入。その他の場合は具体的な内容も記入してください)

問 21 (全体)

コミュニティ	155
NGOやNPOなどの人権団体	131
国家	263
アジア地域内の国家間組織	113
国連のような国際組織	881
その他	29
わからない	125
合計	1,697

問 21 (偏差値)

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
コミュニティ	19	23	50	18	36
NGOやNPOなどの人権団体	11	22	39	16	34
国家	26	40	80	23	74
アジア地域内の国家間組織	8	16	26	9	48
国連のような国際組織	55	101	275	99	308
その他	2	1	7	3	14
わからない	16	20	42	9	30
合計	137	223	519	177	544

問 21 (地域)

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
コミュニティ	16	90	6	26
NGOやNPOなどの人権団体	12	81	2	20
国家	34	160	7	34
アジア地域内の国家間組織	8	78	7	10
国連のような国際組織	110	540	34	122
その他	2	19	3	1
わからない	11	87	3	10
合計	193	1,055	62	223

問 21 解説

【全体】

戦争のような人権侵害については、国連のような国際組織が最も有効だと考えられている。またその次は国家であった。

【偏差値】

偏差値の間に差はみられなかった。

【地域】

地域間に差はみられなかった。

問 2 2 あなたは次のようなことがらを、誰と共有していると思いますか。(各項目で1つ○印)

問 22 (全体)

	自分のみ	家族や友人 仲間	地域コミュ ニティ	社会集団ま たは特定の 組織	国民全体	アジア地域	地球全体	その他	わからない
(a) 経済発展	62	120	26	173	644	79	435	6	106
(b) 不況対策	56	116	30	198	775	34	311	13	118
(c) 教育や福祉の充実	50	96	298	310	693	17	82	10	99
(d) 生活水準の向上	76	379	75	166	650	47	177	10	72
(e) 歴史	111	109	57	138	465	124	536	13	89
(f) 伝統	68	89	375	178	616	52	168	10	93
(g) 娯楽	176	856	80	137	178	14	160	4	47
(h) 安全	91	213	264	113	471	37	390	10	64
(i) 平和	57	96	57	71	477	43	775	11	72
(j) 環境問題	62	58	54	76	138	19	1,163	17	73

問 22 解説

【全体】

多くの選択肢の共有者は国民全体であった。また歴史、平和、環境問題については、国を超えて地球全体で共有しているという認識がある。娯楽に関しては、家族や友人仲間と共有しているという認識があった。

【偏差値】

偏差値の間に大きな差はみられなかった。

【地域】

地域間に大きな差はみられなかった。

問 22 (偏差値)

	(a) 経済発展			(b) 不況対策		
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値61以上 偏差値56以上 60以下
自分のみ	5	11	15	7	21	18
家族や友人仲間	7	9	26	21	49	48
地域コミュニティ	4	4	6	8	2	5
社会集団または特定の組織	10	16	55	10	75	76
国民全体	59	79	224	58	192	256
アジア地域	8	15	13	12	28	8
地球全体	30	74	123	45	140	90
その他	0	1	1	3	1	1
わからない	11	10	42	9	25	29
合計	134	219	505	173	533	531

	(c) 教育や福祉の充実			(d) 生活水準の向上		
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値61以上 偏差値56以上 60以下
自分のみ	6	8	6	12	13	20
家族や友人仲間	1	10	32	9	39	126
地域コミュニティ	20	41	101	37	81	23
社会集団または特定の組織	30	52	92	37	84	56
国民全体	51	85	217	61	256	202
アジア地域	2	3	4	1	7	19
地球全体	8	8	19	6	32	73
その他	1	1	2	2	1	1
わからない	16	10	32	9	22	16
合計	135	218	505	174	535	536

	(e) 歴史			(f) 伝統		
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値61以上 偏差値56以上 60以下
自分のみ	9	14	29	16	37	23
家族や友人仲間	6	15	24	20	41	31
地域コミュニティ	4	5	24	7	16	99
社会集団または特定の組織	8	16	32	9	63	76
国民全体	32	62	148	46	161	212
アジア地域	9	10	45	8	44	16
地球全体	51	81	174	51	152	45
その他	0	0	2	5	1	3
わからない	12	12	27	10	16	27
合計	131	215	505	172	531	532

	(g) 娯楽				(h) 安全					
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
自分のみ	17	26	61	15	46	13	18	26	14	18
家族や友人仲間	71	105	257	111	267	16	22	58	31	64
地域コミュニティ	6	17	27	6	19	18	40	83	34	75
社会集団または特定の組織	4	11	41	11	64	8	17	36	2	46
国民全体	16	33	56	13	55	28	59	155	45	166
アジア地域	1	3	3	1	4	2	3	8	3	18
地球全体	14	14	45	15	63	39	50	116	37	132
その他	0	1	2	0	1	1	2	2	1	3
わからない	5	8	16	1	13	9	8	22	3	15
合計	134	218	508	173	532	134	219	506	170	537

	(i) 平和				(j) 環境問題					
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
自分のみ	5	10	17	9	13	9	7	17	9	14
家族や友人仲間	10	9	24	14	29	4	3	11	14	23
地域コミュニティ	1	12	14	5	21	9	8	10	6	17
社会集団または特定の組織	10	4	20	4	32	3	6	23	4	37
国民全体	33	55	155	67	151	14	21	48	16	33
アジア地域	3	5	8	4	14	1	2	4	1	8
地球全体	62	109	249	60	260	84	160	364	115	386
その他	2	1	3	1	4	3	2	2	2	4
わからない	9	13	19	9	13	7	10	29	7	14
合計	135	218	509	173	537	134	219	508	175	536

問 22 (地域)

	(a) 経済発展				(b) 不況対策			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
自分のみ	2	42	3	7	3	40	2	3
家族や友人仲間	6	80	4	13	10	83	5	14
地域コミュニティ	2	10	0	7	7	14	1	7
社会集団または特定の組織	19	120	4	17	19	135	5	24
国民全体	82	396	21	86	100	479	26	104
アジア地域	5	50	6	13	1	26	1	4
地球全体	58	270	15	55	36	186	13	42
その他	0	3	1	2	2	7	0	0
わからない	13	65	4	15	9	68	5	18
合計	187	1,036	58	218	187	1,038	58	216

	(c) 教育や福祉の充実				(d) 生活水準の向上			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
自分のみ	2	31	1	9	8	47	3	7
家族や友人仲間	9	66	3	10	31	244	15	55
地域コミュニティ	39	182	7	41	5	55	2	10
社会集団または特定の組織	31	208	8	36	19	112	8	15
国民全体	86	427	31	96	90	388	19	93
アジア地域	2	13	1	5	5	33	0	6
地球全体	9	50	3	8	20	112	10	19
その他	1	7	0	0	2	5	0	2
わからない	8	57	5	16	6	43	3	11
合計	187	1,041	59	217	186	1,039	60	218

	(e) 歴史				(f) 伝統			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
自分のみ	12	69	6	12	8	43	4	5
家族や友人仲間	7	72	6	19	9	59	4	14
地域コミュニティ	11	32	7	9	42	216	12	74
社会集団または特定の組織	8	101	4	15	18	119	8	21
国民全体	63	284	17	62	76	406	20	65
アジア地域	17	70	5	23	8	33	1	7
地球全体	61	348	17	60	17	105	6	18
その他	1	4	0	3	1	5	0	2
わからない	6	50	3	14	9	49	4	12
合計	186	1,030	59	217	188	1,035	59	218

	(g) 娯楽				(h) 安全			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
自分のみ	24	111	5	17	7	57	3	15
家族や友人仲間	90	529	33	135	19	132	7	31
地域コミュニティ	11	49	3	8	30	167	9	39
社会集団または特定の組織	15	99	2	14	16	80	2	8
国民全体	24	116	3	18	53	307	12	58
アジア地域	2	11	0	0	1	25	3	4
地球全体	16	93	10	20	56	228	21	53
その他	1	3	0	0	1	6	0	1
わからない	5	27	3	4	4	38	4	5
合計	188	1,038	59	216	187	1,040	61	214

	(i) 平和				(j) 環境問題			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
自分のみ	4	39	1	5	5	38	1	8
家族や友人仲間	12	58	4	13	4	36	2	13
地域コミュニティ	6	37	3	6	5	38	2	6
社会集団または特定の組織	6	51	3	8	4	55	3	9
国民全体	61	296	8	75	18	79	1	24
アジア地域	2	28	1	4	0	14	1	0
地球全体	91	487	36	96	143	732	47	146
その他	2	8	0	1	2	10	0	3
わからない	5	38	4	10	7	39	3	11
合計	189	1,042	60	218	188	1,041	60	220

**問23** あらゆる社会に差別はあるでしょう。下記のどの分野で最も平等を促進すべきだと思いますか。あなたにとって最も重要な1つの項目を選んでください。  
(番号を右の口の中に記入。その他の場合は具体的な内容も記入してください)

問23 (全体)

ジェンダー	342
年齢	45
教育	369
職業	95
収入・財産	201
宗教	75
家系・出身	342
エスニシティ	131
その他	30
分からない	58
合計	1,688

問23 解説

**【全体】**

最も平等を促進すべき分野は教育であるという回答が多かった。しかしジェンダー、家計・出身の回答も多く、回答が分かれている。生まれながらの特性での差別をなくしたいという意識がみられる。

**【偏差値】**

偏差値が 50 以下のグループでは家系・出身の平等を重要視している。また偏差値が 60 以上のグループでは、教育の平等を重要視する回答が、他の選択肢よりも多くなっている。

**【地域】**

全国では教育の平等を最も促進すべきだと回答されているが、北海道、東北、甲信越・北陸ではあまり高くなく、ジェンダーと家系・出身を挙げる回答者が多かった。

問 23 (偏差値)

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
ジェンダー	17	46	113	53	98
年齢	6	5	16	1	13
教育	27	46	96	36	148
職業	16	14	29	9	18
収入・財産	23	34	85	15	33
宗教	3	7	33	9	21
家系・出身	34	50	106	33	106
エスニシティ	1	12	12	14	80
その他	4	3	9	3	6
分からない	6	7	18	4	18
合計	137	224	517	177	541

問 23 (地域)

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
ジェンダー	47	197	11	59
年齢	6	28	0	5
教育	26	241	19	46
職業	12	47	1	18
収入・財産	32	119	6	26
宗教	9	46	1	14
家系・出身	47	230	9	36
エスニシティ	3	100	10	4
その他	5	13	1	4
分からない	5	36	3	10
合計	192	1,057	61	222

**問24** あなたは日本人（留学生の方はあなたの祖国の人間）であることにどのくらい誇りを感じますか。（1つだけ○印）

問24（全体）

非常に感じる	420
それなりに感じる	860
あまり感じない	313
全く感じない	68
わからない	21
合計	1,682

問24（偏差値）

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
非常に感じる	30	49	125	37	158
それなりに感じる	67	108	243	100	304
あまり感じない	29	51	116	34	63
全く感じない	6	11	22	5	14
わからない	3	3	9	1	3
合計	135	222	515	177	542

問24（地域）

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
非常に感じる	41	271	14	63
それなりに感じる	87	548	39	113
あまり感じない	49	188	6	34
全く感じない	12	31	3	12
わからない	3	14	0	1
合計	192	1,052	62	223

問24 解説

**【全体】**

日本人であることの誇りは、それなりに感じるが最も多かった。またあまり感じない、よりも非常に感じる、の方が多かった。

**【偏差値】**

偏差値 61 以上になると、あまり感じない、の割合が減少する。

**【地域】**

地域間に差はみられなかった。

**問 2 5** グローバル化の進展とともに、世界市民や地域／民族主義などがうたわれるようになり、アイデンティティーは「国」を越えて多様化しています。このような現代の動きの中で、あなたは自分自身をどう捉えていますか。（各項目で1つ○印）

問 2 5（全体）

	非常に同意する	同意する	どちらでもない	同意しない	まったく同意しない
1. 私は世界市民である	242	574	499	231	129
2. 私はアジア人である	311	910	269	128	61
3. 私はXX国人である	681	649	242	47	54
4. 私は地元のコミュニティに属している意識がある	207	417	552	338	137
5. 私は国籍よりも民族や人種によるアイデンティティーの方が大きい	78	178	661	519	232
6. 私の国の文化は、他の国よりも優れている	149	372	723	255	177
7. 愛国心を養う教育をおこなうべきである	160	374	621	322	195

問 2 5 解説

**【全体】**

世界市民、アジア人、国籍に同意する回答が多かった。また国籍よりも民族や人種によるアイデンティティーの方が大きいという項目は、どちらでもないという回答が多かった。また他国との比較には否定的であり、積極的に愛国心を養う必要性をあまり感じていなかった。

**【偏差値】**

偏差値の間に差はみられなかった。

**【地域】**

地域間に差はみられなかった。

問 25 (偏差値)

	非常に同意する			同意する		
	偏差値46以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値46以下 50以下	偏差値46以上 55以下	偏差値56以上 60以下
1. 私は世界市民である	17	31	40	37	98	176
2. 私はアジア人である	21	39	77	74	128	289
3. 私はXX国(人)である	44	80	187	45	78	213
4. 私は地元のコミュニティに属している意識がある	10	26	46	22	54	134
5. 私は国籍よりも民族や人種によるアイデンティティーの方が大きい	6	12	16	22	25	52
6. 私の国の文化は、他の国よりも優れている	15	26	37	40	56	112
7. 愛国心を養う教育をおこなうべきである	23	19	38	37	43	91

	どちらでもない			同意しない		
	偏差値46以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値46以下 50以下	偏差値46以上 55以下	偏差値56以上 60以下
1. 私は世界市民である	42	73	177	13	21	88
2. 私はアジア人である	24	31	90	7	16	41
3. 私はXX国(人)である	30	48	84	9	6	13
4. 私は地元のコミュニティに属している意識がある	65	83	194	24	42	101
5. 私は国籍よりも民族や人種によるアイデンティティーの方が大きい	59	98	225	31	61	145
6. 私の国の文化は、他の国よりも優れている	59	91	231	16	31	84
7. 愛国心を養う教育をおこなうべきである	44	84	205	22	47	116

	まったく同意しない		
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下
1. 私は世界市民である	17	14	36
2. 私はアジア人である	11	7	18
3. 私はXX国(人)である	10	7	16
4. 私は地元のコミュニティに属している意識がある	16	13	34
5. 私は国籍よりも民族や人種によるアイデンティティーの方が大きい	19	22	74
6. 私の国の文化は、他の国よりも優れている	8	16	52
7. 愛国心を養う教育をおこなうべきである	12	26	66

問 25 (地域)

	非常に同意する				同意する			
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
1. 私は世界市民である	15	158	13	27	15	158	13	27
2. 私はアジア人である	32	211	14	26	32	211	14	26
3. 私はXX国人である	72	460	24	69	72	460	24	69
4. 私は地元のコミュニティに属している意識がある	18	123	9	27	18	123	9	27
5. 私は国籍よりも民族や人種によるアイデンティティの方が大きい	4	40	2	19	4	40	2	19
6. 私の国の文化は、他の国よりも優れている	13	100	2	17	13	100	2	17
7. 愛国心を養う教育をおこなうべきである	16	98	3	23	16	98	3	23

	どちらでもない				同意しない			
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
1. 私は世界市民である	15	158	13	27	15	158	13	27
2. 私はアジア人である	32	211	14	26	32	211	14	26
3. 私はXX国人である	72	460	24	69	72	460	24	69
4. 私は地元のコミュニティに属している意識がある	18	123	9	27	18	123	9	27
5. 私は国籍よりも民族や人種によるアイデンティティの方が大きい	4	40	2	19	4	40	2	19
6. 私の国の文化は、他の国よりも優れている	13	100	2	17	13	100	2	17
7. 愛国心を養う教育をおこなうべきである	16	98	3	23	16	98	3	23

	まったく同意しない			
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
1. 私は世界市民である	15	158	13	27
2. 私はアジア人である	32	211	14	26
3. 私はXX国人である	72	460	24	69
4. 私は地元のコミュニティに属している意識がある	18	123	9	27
5. 私は国籍よりも民族や人種によるアイデンティティの方が大きい	4	40	2	19
6. 私の国の文化は、他の国よりも優れている	13	100	2	17
7. 愛国心を養う教育をおこなうべきである	16	98	3	23

**問 2 6** 学士号を取得した後に、どの教育段階まで進みたいと思いますか？（番号を右の□の中に記入）

問 26（全体）

博士課程・博士後期課程	218
修士課程	353
学位を取得しない専門的教育・訓練	195
（学士後）教育を受けない	514
分からない	405
合計	1,685

問 26（偏差値）

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
博士課程・博士後期課程	15	20	37	22	108
修士課程	27	30	78	34	160
学位を取得しない専門的教育・訓練	14	34	71	22	45
（学士後）教育を受けない	39	75	176	47	156
分からない	43	65	155	50	71
合計	138	224	517	175	540

問 26（地域）

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
博士課程・博士後期課程	15	138	26	17
修士課程	20	224	24	46
学位を取得しない専門的教育・訓練	21	125	3	29
（学士後）教育を受けない	79	321	4	66
分からない	57	246	5	65
合計	192	1,054	62	223

問 26 解説

**【全体】**

学士後教育を受けない、という回答が最も多かった。また分からないという回答が次に多く、まだ進路に悩んでいることが見受けられる。

**【偏差値】**

偏差値の上昇と共に、より修士課程への進学を望むようになる。また偏差値が低くなるにつれて、わからない、という回答が増えていく。

**【地域】**

関西、東海地方は修士過程と博士課程・博士後期課程への進学を望む割合が高かった。また関東地方は、ばらつきが大きかった。

**問 27** 将来の留学に対する興味・関心について教えてください。(番号を右の□の中に記入)

問 27 (全体)

とても興味・関心がある	437
少し興味・関心がある	561
あまり興味・関心がない	325
まったく興味・関心がない	304
分からない	46
合計	1,673

問 27 (偏差値)

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
とても興味・関心がある	15	43	74	49	222
少し興味・関心がある	42	86	166	58	181
あまり興味・関心がない	34	48	127	36	74
まったく興味・関心がない	43	37	128	27	47
分からない	3	7	19	2	12
合計	137	221	514	172	536

問 27 (地域)

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
とても興味・関心がある	19	295	31	49
少し興味・関心がある	63	356	18	64
あまり興味・関心がない	56	204	6	45
まったく興味・関心がない	49	162	5	56
分からない	4	30	1	6
合計	191	1,047	61	220

問 27 解説

**【全体】**

海外留学への関心は、少し興味・関心があるとの回答が多かった。

**【偏差値】**

偏差値が高くなるにつれて、この傾向は強くなっていく。

**【地域】**

関東地方、関西、東海地方は、北海道、東北、甲信越・北陸と中国、四国、九州・沖縄よりも留学への関心が高いことが分かる。

[問27 で (1-3)と答えた方]

**問28** 留学先(国)として、下記の国に、どの程度興味・関心があるか教えてください。  
(各国1つだけ○印)

問28 (全体)

	とても興味・関心がある	少し興味・関心がある	あまり興味・関心がない	まったく興味・関心がない	自国である
a. オーストラリア	331	606	260	65	0
b. カナダ	322	577	306	63	0
c. 中国	231	377	400	240	21
d. フランス	311	546	325	82	1
e. ドイツ	331	486	342	94	0
f. インド	130	340	514	272	2
g. インドネシア	66	205	610	371	10
h. 日本	92	69	119	17	979
i. マレーシア	52	211	581	408	11
j. ニュージーランド	164	386	492	211	3
k. フィリピン	57	203	595	399	8
l. シンガポール	145	422	455	231	5
m. 韓国	181	346	450	275	13
n. タイ	90	236	560	359	7
o. イギリス	583	525	121	36	0
p. アメリカ合衆国	659	439	142	43	1
q. ヴェトナム	74	252	530	392	11

問28 解説

**【全体】**

英語圏の国は、興味・関心を持つとの回答が多い。一方で中国は、関心を持つ人がいる割に、全く関心を持たない人もいる。またアジアの国への留学への関心が薄いことが分かる。

**【偏差値】**

偏差値の間に差はみられなかった。

**【地域】**

地域間に差はみられなかった。

問 28 (偏差値)

	とても興味・関心がある				少し興味・関心がある					
	偏差値45以下		偏差値46以上 50以下		偏差値51以上 55以下		偏差値56以上 60以下			
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
a. オーストラリア	23	49	94	56	95	41	82	172	56	220
b. カナダ	17	40	88	50	115	30	78	162	59	214
c. 中国	9	32	50	20	105	27	48	106	36	142
d. フランス	27	44	92	33	98	36	79	161	64	183
e. ドイツ	28	56	101	31	99	28	60	148	53	180
f. インド	4	20	32	13	52	21	43	101	28	135
g. インドネシア	2	10	15	15	21	12	20	61	14	90
h. 日本	6	11	17	13	37	7	12	16	6	26
i. マレーシア	3	3	13	10	20	12	33	52	18	90
j. ニュージーランド	10	19	47	29	51	25	49	96	50	149
k. フィリピン	2	3	13	13	22	9	31	68	11	76
l. シンガポール	7	16	32	16	64	22	61	120	33	167
m. 韓国	14	22	51	31	52	24	53	113	26	113
n. タイ	2	11	16	16	41	9	34	72	22	88
o. イギリス	42	83	151	64	218	33	63	160	58	189
p. アメリカ合衆国	40	82	158	69	276	35	63	123	51	146
q. ヴェトナム	1	10	16	11	32	8	27	88	17	97

	あまり興味・関心がない				まったく興味・関心がない					
	偏差値45以下		偏差値46以上 50以下		偏差値51以上 55以下		偏差値56以上 60以下			
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
a. オーストラリア	17	31	68	24	109	5	6	18	2	33
b. カナダ	36	46	87	28	97	5	6	17	4	30
c. 中国	29	56	122	55	120	19	31	78	23	82
d. フランス	21	38	83	30	137	3	9	18	10	38
e. ドイツ	24	41	78	41	135	6	11	19	9	43
f. インド	43	77	146	56	166	17	29	70	42	101
g. インドネシア	46	97	165	63	211	26	39	107	48	131
h. 日本	10	20	29	20	31	0	4	3	2	7
i. マレーシア	43	83	173	52	197	30	46	114	55	147
j. ニュージーランド	35	78	140	44	169	14	21	69	15	84
k. フィリピン	47	84	161	64	210	27	49	105	49	151
l. シンガポール	38	64	129	57	142	18	26	67	33	82
m. 韓国	28	58	121	46	178	18	33	70	35	107
n. タイ	53	82	148	54	196	21	38	107	44	130
o. イギリス	9	18	29	17	38	4	3	11	2	13
p. アメリカ合衆国	8	22	58	17	32	3	1	18	3	16
q. ヴェトナム	45	84	134	58	185	28	45	110	48	146

	分からない				
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
a. オーストラリア	0	0	0	0	0
b. カナダ	0	0	0	0	0
c. 中国	1	0	1	2	13
d. フランス	1	0	0	0	0
e. ドイツ	0	0	0	0	0
f. インド	1	0	1	0	0
g. インドネシア	1	2	2	0	3
h. 日本	63	120	295	98	362
i. マレーシア	1	1	4	0	5
j. ニュージーランド	1	0	0	0	2
k. フィリピン	1	1	2	2	2
l. シンガポール	0	0	1	1	3
m. 韓国	1	1	1	0	10
n. タイ	0	2	2	0	3
o. イギリス	0	0	0	0	0
p. アメリカ合衆国	0	0	0	0	1
q. ヴェトナム	1	1	2	2	3

問 28 (地域)

	とても興味・関心がある			少し興味・関心がある				
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
a. オーストラリア	35	213	8	49	67	396	25	69
b. カナダ	32	206	16	42	62	372	23	70
c. 中国	22	157	5	26	43	260	9	35
d. フランス	39	195	9	38	55	353	25	68
e. ドイツ	31	214	12	42	59	311	21	61
f. インド	9	84	5	15	33	227	11	45
g. インドネシア	5	40	2	12	24	131	14	19
h. 日本	4	57	7	15	8	45	6	7
i. マレーシア	5	33	1	8	17	147	11	21
j. ニュージーランド	11	108	4	31	30	265	16	42
k. フィリピン	4	33	3	10	23	140	9	16
l. シンガポール	11	94	7	20	51	280	16	44
m. 韓国	17	116	4	35	42	230	17	30
n. タイ	5	61	4	14	29	149	13	26
o. イギリス	53	393	25	71	63	330	23	66
p. アメリカ合衆国	60	450	29	64	49	273	20	59
q. ヴェトナム	4	51	4	10	32	163	11	25

	あまり興味・関心がない			まったく興味・関心がない				
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
a. オーストラリア	24	176	12	26	9	37	7	4
b. カナダ	36	203	11	37	5	43	4	4
c. 中国	39	249	19	61	33	147	13	26
d. フランス	32	217	17	33	8	57	1	11
e. ドイツ	31	230	16	33	9	64	5	10
f. インド	59	338	23	52	30	168	14	41
g. インドネシア	59	415	18	67	44	231	19	54
h. 日本	12	70	8	17	1	12	0	0
i. マレーシア	64	379	19	62	45	260	19	60
j. ニュージーランド	57	321	18	53	35	123	14	24
k. フィリピン	61	385	21	73	44	261	19	49
l. シンガポール	49	295	16	54	21	151	12	32
m. 韓国	46	287	14	57	28	178	19	31
n. タイ	50	383	17	58	44	224	16	50
o. イギリス	14	77	4	13	5	23	1	3
p. アメリカ合衆国	21	83	4	23	4	26	3	6
q. ヴェトナム	54	353	18	58	42	250	19	54



[問27 で (1-3)と答えた方]

問29 留学先(国)を選択する時(あるいは選択した時)、下記の点についてどう思いますか。  
(各項目で1つ○印)

問29 (全体)

	とても興味・関 心がある	少し興味・関 心がある	あまり興味・関 心がない	まったく興味・ 関心がない	分からない
a. 高い教育の質	598	417	137	14	7
b. 高い研究の質	510	400	217	23	11
c. 大学の評判	441	453	228	29	7
d. 英語で学べること	535	419	180	33	5
e. 英語以外の言語で学べること	217	446	400	85	11
f. あなたの大学で交換留学プログラムが利用できること	284	435	321	82	34
g. あなたの国にとつての政治的重要性	136	275	528	204	23
h. 留学先(国)の政治的自由	254	430	376	84	14
i. あなたの国にとつての経済的重要性	187	363	432	162	14
j. 留学先(国)の将来における経済的ポテンシャル	239	450	364	97	13
k. 留学先(国)の文化に対するあなたの興味・関心	672	380	100	11	6
l. 文化的障壁(食べ物・宗教・習慣・人間関係など)が少ないこと	328	438	306	84	6
m. 出発前に奨学金を利用できること	394	395	279	65	24
n. 留学中に奨学金を獲得できる機会があること	380	430	261	69	21
o. 留学中にアルバイトをする機会があること	247	404	393	101	20
p. より低い授業料	361	428	297	56	18
q. より低い生活費	346	452	291	53	13
r. 治安	806	272	67	12	5
s. 留学生を多く受け入れていること	427	417	243	56	17

問 29 (偏差値)

	とても興味・関心がある		少し興味・関心がある		
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	
a. 高い教育の質	17	63	110	58	317
b. 高い研究の質	14	47	98	37	286
c. 大学の評判	13	38	87	29	249
d. 英語で学べること	20	59	120	63	247
e. 英語以外の言語で学べること	9	32	59	14	82
f. あなたの国にとっての政治的自由	14	29	70	36	119
g. あなたの国にとっての経済的重要性	10	20	28	13	55
h. 留学先(国)の政治的自由	15	30	62	26	104
i. あなたの国にとっての経済的重要性	9	22	45	16	84
j. 留学先(国)の将来における経済的ポテンシャル	12	33	52	24	98
k. 留学先(国)の文化に対するあなたの興味・関心	35	82	190	70	256
l. 文化的障壁(食べ物・宗教・習慣・人間関係など)が少ないこと	37	43	110	29	92
m. 出発前に奨学金を利用できること	20	49	102	34	167
n. 留学中に奨学金を獲得できる機会があること	16	48	94	32	168
o. 留学中にアルバイトをする機会があること	15	37	69	30	82
p. より低い授業料	25	52	95	33	137
q. より低い生活費	25	50	97	24	131
r. 治安	58	103	223	88	294
s. 留学生を多く受け入れていること	35	59	137	42	133

	あまり興味・関心がない		まったく興味・関心がない		
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	
a. 高い教育の質	18	19	60	16	20
b. 高い研究の質	23	32	81	42	34
c. 大学の評判	36	36	85	32	31
d. 英語で学べること	18	27	71	11	43
e. 英語以外の言語で学べること	23	48	108	58	144
f. あなたの国にとっての政治的自由	30	42	105	30	100
g. あなたの国にとっての経済的重要性	37	64	147	65	147
h. 留学先(国)の政治的自由	35	49	107	43	128
i. あなたの国にとっての経済的重要性	35	44	122	59	147
j. 留学先(国)の将来における経済的ポテンシャル	29	38	116	38	128
k. 留学先(国)の文化に対するあなたの興味・関心	10	12	33	8	33
l. 文化的障壁(食べ物・宗教・習慣・人間関係など)が少ないこと	17	30	79	35	133
m. 出発前に奨学金を利用できること	26	39	78	28	91
n. 留学中に奨学金を獲得できる機会があること	28	34	79	28	79
o. 留学中にアルバイトをする機会があること	31	50	99	41	152
p. より低い授業料	23	33	79	37	109
q. より低い生活費	20	37	72	40	105
r. 治安	3	14	17	6	25
s. 留学生を多く受け入れていること	18	35	58	16	104

	分からない			
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下
a. 高い教育の質	0	2	2	2
b. 高い研究の質	0	2	3	0
c. 大学の評判	0	2	5	0
d. 英語で学べること	0	1	1	0
e. 英語以外の言語で学べること	0	2	2	1
f. あなたの大学で交換留学プログラムが利用できること	1	6	19	0
g. あなたの国にとつての政治的重要性	1	5	11	1
h. 留学先(国)の政治的自由	0	3	6	3
i. あなたの国にとつての経済的重要性	1	2	6	1
j. 留学先(国)の将来における経済的ポテンシャル	0	3	3	0
k. 留学先(国)の文化に対するあなたの興味・関心	0	1	2	0
l. 文化的障壁(食べ物・宗教・習慣・人間関係など)が少ないこと	0	0	2	1
m. 出発前に奨学金を利用できること	0	5	11	2
n. 留学中に奨学金を獲得できる機会があること	0	4	11	0
o. 留学中にアルバイトをする機会があること	1	4	8	0
p. より低い授業料	0	3	7	0
q. より低い生活費	0	2	6	0
r. 治安	0	2	2	0
s. 留学生を多く受け入れていること	1	2	8	0

問 29 (地域)

	とも興味・関心がある				少し興味・関心がある			
	北海道・東北 甲信越・北陸	関東地方	関西・東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道・東北 甲信越・北陸	関東地方	関西・東海	中国、四国、 九州・沖縄
a. 高い教育の質	36	416	38	61	55	257	11	59
b. 高い研究の質	27	357	38	48	52	251	10	50
c. 大学の評判	28	307	35	32	52	287	13	65
d. 英語で学べること	51	357	23	54	51	264	20	57
e. 英語以外の言語で学べること	29	134	9	22	46	297	29	49
f. あなたの大学で交換留学プログラムが利用できること	25	195	6	33	42	284	24	55
g. あなたの国にとつての政治的重要性	12	89	3	17	37	185	9	29
h. 留学先(国)の政治的自由	24	165	7	31	53	275	17	59
i. あなたの国にとつての経済的重要性	16	135	7	13	47	211	9	47
j. 留学先(国)の将来における経済的ポテンシャル	23	160	8	25	49	282	17	57
k. 留学先(国)の文化に対するあなたの興味・関心	74	449	20	73	40	234	26	54
l. 文化的障壁(食べ物・宗教・習慣・人間関係など)が少ないこと	47	216	5	37	36	280	21	60
m. 出発前に奨学金を利用できること	43	280	25	33	40	247	20	60
n. 留学中に奨学金を獲得できる機会があること	37	257	27	31	45	266	21	63
o. 留学中にアルバイトをする機会があること	31	161	11	23	41	262	21	48
p. より低い授業料	44	234	17	36	45	271	17	62
q. より低い生活費	44	224	18	32	47	288	18	67
r. 治安	90	527	28	99	23	176	19	34
s. 留学生を多く受け入れていること	63	266	13	51	32	263	21	71

	あまの興味・関心がない			まったく興味・関心がない		
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海
a. 高い教育の質	25	76	2	5	8	0
b. 高い研究の質	32	128	3	7	14	0
c. 大学の評判	34	136	3	6	18	0
d. 英語で学べること	17	113	7	4	24	0
e. 英語以外の言語で学べること	38	238	13	8	38	0
f. あなたの大学で交換留学プログラムが利用できること	39	205	13	7	51	5
g. あなたの国にとっての政治的重要性	49	338	25	17	132	15
h. 留学先(国)の政治的自由	33	250	18	9	55	10
i. あなたの国にとっての経済的重要性	41	266	22	14	106	13
j. 留学先(国)の将来における経済的ポテンシャル	37	236	19	9	58	8
k. 留学先(国)の文化に対するあなたの興味・関心	7	66	5	1	6	0
l. 文化的障壁(食べ物・宗教・習慣・人間関係など)が少ないこと	29	199	24	8	58	3
m. 出発前に留学金を獲得できること	26	188	5	7	45	0
n. 留学中に奨学金を獲得できる機会があること	29	172	3	9	46	0
o. 留学中にアルバイトをする機会があること	36	257	16	12	66	2
p. より低い授業料	27	199	13	2	42	2
q. より低い生活費	26	199	8	1	35	4
r. 治安	7	44	4	6	8	0
s. 留学生を多く受け入れていること	20	176	12	5	41	3

	分からない		
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海
a. 高い教育の質	1	3	1
b. 高い研究の質	4	4	1
c. 大学の評判	1	3	1
d. 英語で学べること	0	2	1
e. 英語以外の言語で学べること	0	7	1
f. あなたの大学で交換留学プログラムが利用できること	8	18	4
g. あなたの国にとっての政治的重要性	6	13	1
h. 留学先(国)の政治的自由	1	9	1
i. あなたの国にとっての経済的重要性	2	8	1
j. 留学先(国)の将来における経済的ポテンシャル	1	7	2
k. 留学先(国)の文化に対するあなたの興味・関心	1	3	1
l. 文化的障壁(食べ物・宗教・習慣・人間関係など)が少ないこと	0	4	1
m. 出発前に留学金を獲得できること	5	13	2
n. 留学中に奨学金を獲得できる機会があること	4	12	2
o. 留学中にアルバイトをする機会があること	2	12	2
p. より低い授業料	4	8	2
q. より低い生活費	3	7	2
r. 治安	0	3	1
s. 留学生を多く受け入れていること	2	7	3

## 問 29 解説

【全体】

最も興味・関心があるのは、留学先(国)の文化に対するあなたの興味・関心であった。また治安も非常に重視していることがわかる。一方で興味・関心がないのは、あなたの国にとっての政治的重要性であった。

[問27 で (1-3)と答えた方]

問30 もし留学する場合、留学後の生活についてお聞かせください。(番号を右の□の中に記入)

問30 (全体)

留学後、自分の国に帰る	809
留学後、数年間、留学先(国)に住んだ後に、自分の国に帰る	194
留学後、10年以上、留学先(国)に住んだ後に、自分の国に帰る	26
留学後ずっと、留学先(国)に住む	12
留学後、留学先(国)以外の国に住む	10
分からない	138
合計	1,189

問30 解説

【全体】

もし留学した場合は、自分の国に帰ることを前提に計画を立てていることがわかる。自国を離れて将来的に生活することはほとんど視野にいれて。

【偏差値】

どの偏差値グループでも将来的に自国に帰ることを前提に留学を考慮している。自国を離れて生活することを望む回答者の大半は偏差値61以上であった。

【地域】

どの地域グループでも将来的に自国に帰ることを前提に留学を考慮している。自国を離れて生活することを望む回答者の大半は関東地方であった。

問 30 (偏差値)

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
留学後、自分の国に帰る	70	99	243	93	280
留学後、数年間、留学先(国)に住んだ後に、自分の国に帰る	7	30	52	15	73
留学後、10年以上、留学先(国)に住んだ後に、自分の国に帰る	0	2	3	2	17
留学後ずっと、留学先(国)に住む	1	2	5	2	2
留学後、留学先(国)以外の国に住む	0	0	0	0	9
分からない	9	17	29	16	57
合計	87	150	332	128	438

問 30 (地域)

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
留学後、自分の国に帰る	94	525	27	113
留学後、数年間、留学先(国)に住んだ後に、自分の国に帰る	15	124	13	18
留学後、10年以上、留学先(国)に住んだ後に、自分の国に帰る	0	16	4	3
留学後ずっと、留学先(国)に住む	1	10	0	1
留学後、留学先(国)以外の国に住む	0	9	1	0
分からない	14	87	7	13
合計	124	771	52	148

**問31** 一般的に「教育」から得られる利益・恩恵とは何だと思いますか。（各項目で1つ〇印）

問31（全体）

	非常に同意する	同意する	どちらでもない	同意しない	まったく同意しない	わからない
1. 人間性を養う	810	674	109	61	18	5
2. 希望する職を得られる	349	777	352	156	33	7
3. より多く稼げる	303	666	461	181	52	9
4. 外国に住める	79	233	737	438	150	32
5. より高い社会的地位が望める	258	703	448	190	63	11
6. 自国の発展と繁栄に貢献する	295	658	464	184	56	12
7. 国際的な職業に就ける	229	546	562	224	93	23

問31 解説

**【全体】**

教育によって人間性が養われることに、非常に同意する回答が多かった。また所得、希望する職、高い社会的地位が望めることに同意する回答も多かった。また外国に住める、については同意しない回答が多かった。

**【偏差値】**

偏差値の間に差はみられなかった。

**【地域】**

地域間に差はみられなかった。

問 31 (偏差値)

	非常に同意する				同意する					
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
1. 人間性を養う	64	116	224	89	276	59	81	219	74	211
2. 希望する職を得られる	25	29	103	42	132	68	99	235	85	257
3. より多く稼げる	22	32	81	33	121	51	65	190	78	243
4. 外国に住める	4	9	19	10	32	15	27	49	23	102
5. より高い社会的地位が望める	14	22	64	24	119	56	78	195	72	266
6. 自国の発展と繁栄に貢献する	16	39	65	32	129	48	77	194	66	240
7. 国際的な職業に就ける	11	35	43	23	105	38	56	151	54	219

	どちらでもない				同意しない					
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
1. 人間性を養う	7	13	42	10	28	6	11	23	2	17
2. 希望する職を得られる	26	63	117	26	98	16	21	46	18	46
3. より多く稼げる	41	88	151	42	117	16	25	74	17	43
4. 外国に住める	68	100	220	70	240	31	61	153	55	123
5. より高い社会的地位が望める	43	74	157	44	109	18	31	74	27	30
6. 自国の発展と繁栄に貢献する	55	61	165	46	110	12	26	72	26	42
7. 国際的な職業に就ける	57	79	197	63	138	23	26	81	23	61

	まったく同意しない				わからない					
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
1. 人間性を養う	2	1	6	0	6	0	0	3	0	2
2. 希望する職を得られる	3	8	11	2	6	0	0	5	2	0
3. より多く稼げる	6	10	13	7	12	1	0	7	0	1
4. 外国に住める	13	21	57	16	35	5	3	16	1	6
5. より高い社会的地位が望める	5	15	22	6	12	2	1	5	2	1
6. 自国の発展と繁栄に貢献する	4	12	17	3	16	1	2	4	3	1
7. 国際的な職業に就ける	7	21	36	11	13	2	4	10	2	4

問 31 (地域)

	非常に同意する				同意する			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	関東地方	北海道、東北、 甲信越・北陸	関西、東海	関東地方	中国、四国、 九州・沖縄
1. 人間性を養う	84	28	102	522	84	27	412	95
2. 希望する職を得られる	40	9	49	224	81	31	497	106
3. より多く稼げる	31	11	35	205	71	25	425	86
4. 外国に住める	8	4	11	50	12	9	154	36
5. より高い社会的地位が望める	28	4	29	176	77	30	451	94
6. 自国の発展と繁栄に貢献する	25	10	46	188	66	33	421	88
7. 国際的な職業に就ける	15	10	31	154	51	23	363	70

	どちらでもない				同意しない			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	関東地方	北海道、東北、 甲信越・北陸	関西、東海	関東地方	中国、四国、 九州・沖縄
1. 人間性を養う	15	4	14	65	8	2	43	5
2. 希望する職を得られる	45	15	44	215	23	4	99	14
3. より多く稼げる	48	18	71	283	37	4	105	20
4. 外国に住める	74	27	90	477	69	16	265	56
5. より高い社会的地位が望める	58	19	56	268	23	4	111	33
6. 自国の発展と繁栄に貢献する	63	12	60	288	33	4	111	21
7. 国際的な職業に就ける	72	15	76	345	43	9	131	22

	まったく同意しない				わからない			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	関東地方	北海道、東北、 甲信越・北陸	関西、東海	関東地方	中国、四国、 九州・沖縄
1. 人間性を養う	3	0	3	8	0	0	3	1
2. 希望する職を得られる	2	2	4	18	2	1	1	3
3. より多く稼げる	3	2	8	30	4	0	3	1
4. 外国に住める	23	4	24	86	7	17	17	2
5. より高い社会的地位が望める	7	3	5	41	1	0	6	3
6. 自国の発展と繁栄に貢献する	6	1	4	34	0	1	5	3
7. 国際的な職業に就ける	10	3	21	47	3	1	13	3

**問32** 次のような意見に対して、あなたの意見をお聞かせください。(各項目で1つ○印)

問32 (全体)

	非常に同意する	同意する	どちらでもない	同意しない	まったく同意しない	わからない
1. 政府は自国民の利益を守るため、外国人労働者の移入を制限すべきである	128	359	585	477	100	30
2. 男女平等を達成するため、女性への雇用機会拡大を進めるべきである	381	878	307	69	30	13
3. 経済成長が停滞するとしても、人権の平等を先に尊重すべきである	290	658	497	155	39	34
4. 政府は市場を用いて経済成長を重視する	200	565	636	204	38	30
5. 一般大衆は、政策に影響を与える力を持っていない	139	378	367	551	219	17

問32 解説

**【全体】**

平等に関する質問については、どちらでもない、を挙げる回答者が一定割合存在している。特に自国民の利益を守るため、外国人労働者の移入を制限すべきである、は回答が別れた。女性の雇用機会への拡大は同意する人が多かった。また経済成長と人権の平等では、人権の平等をより重視している。

**【偏差値】**

偏差値の間に差はみられなかった。

**【地域】**

地域間に差はみられなかった。

問 32 (偏差値)

	非常に同意する						同意する																																											
	偏差値45以下		偏差値46以上 50以下		偏差値51以上 55以下		偏差値56以上 60以下		偏差値61以上		偏差値45以下		偏差値46以上 50以下		偏差値51以上 55以下		偏差値56以上 60以下		偏差値61以上																															
	1. 政府は自国民の利益を守るため、外国人労働者の移入を制限すべきである	15	23	38	10	34	31	54	109	37	116	29	46	103	43	134	63	123	288	91	275	28	45	87	22	90	47	89	200	81	211	18	27	69	23	53	41	63	185	72	179	14	23	37	15	38	42	44	118	46
2. 男女平等を達成するため、女性への雇用機会拡大を進めるべきである																																																		
3. 経済成長が停滞するとしても、人権の平等を先に尊重すべきである																																																		
4. 政府は市場を用いて経済成長を重視する																																																		
5. 一般大衆は、政策に影響を与える力をもっていない																																																		

	どちらでもない																																																	
	偏差値45以下		偏差値46以上 50以下		偏差値51以上 55以下		偏差値56以上 60以下		偏差値61以上		偏差値45以下		偏差値46以上 50以下		偏差値51以上 55以下		偏差値56以上 60以下		偏差値61以上																															
	1. 政府は自国民の利益を守るため、外国人労働者の移入を制限すべきである	59	78	189	68	167	26	55	148	43	175	37	40	82	39	97	4	5	30	3	26	43	63	165	47	155	13	15	36	18	62	52	96	201	61	194	18	28	42	14	92	34	58	126	32	101	33	67	167	52
2. 男女平等を達成するため、女性への雇用機会拡大を進めるべきである																																																		
3. 経済成長が停滞するとしても、人権の平等を先に尊重すべきである																																																		
4. 政府は市場を用いて経済成長を重視する																																																		
5. 一般大衆は、政策に影響を与える力をもっていない																																																		

	まったく同意しない																																																	
	偏差値45以下		偏差値46以上 50以下		偏差値51以上 55以下		偏差値56以上 60以下		偏差値61以上		偏差値45以下		偏差値46以上 50以下		偏差値51以上 55以下		偏差値56以上 60以下		偏差値61以上																															
	1. 政府は自国民の利益を守るため、外国人労働者の移入を制限すべきである	7	5	24	14	41	0	5	11	5	8	4	3	9	1	7	1	3	7	0	2	7	1	14	3	13	0	5	15	6	8	6	3	8	2	15	2	2	12	5	7	15	20	65	30	81	0	5	5	0
2. 男女平等を達成するため、女性への雇用機会拡大を進めるべきである																																																		
3. 経済成長が停滞するとしても、人権の平等を先に尊重すべきである																																																		
4. 政府は市場を用いて経済成長を重視する																																																		
5. 一般大衆は、政策に影響を与える力をもっていない																																																		

問 32 (地域)

	非常に同意する					同意する						
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
1. 政府は自国民の利益を守るため、外国人労働者の移入を制限すべきである	12	83	5	14	45	230	9	47				
2. 男女平等を達成するため、女性への雇用機会拡大を進めるべきである	42	247	18	41	104	548	30	125				
3. 経済成長が停滞するとしても、人権の平等を先に尊重すべきである	38	184	11	25	81	409	29	90				
4. 政府は市場を用いて経済成長を重視する	24	125	8	28	67	346	28	76				
5. 一般大衆は、政策に影響を与える力をもっていない	18	75	6	18	48	242	10	48				

	どちらでもない					同意しない						
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
1. 政府は自国民の利益を守るため、外国人労働者の移入を制限すべきである	65	353	21	101	61	309	20	40				
2. 男女平等を達成するため、女性への雇用機会拡大を進めるべきである	32	190	10	48	13	42	2	4				
3. 経済成長が停滞するとしても、人権の平等を先に尊重すべきである	50	315	15	74	15	97	3	23				
4. 政府は市場を用いて経済成長を重視する	79	399	19	86	21	140	3	24				
5. 一般大衆は、政策に影響を与える力をもっていない	48	229	11	50	54	359	26	62				

	まったく同意しない					わからない						
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
1. 政府は自国民の利益を守るため、外国人労働者の移入を制限すべきである	10	58	5	15	1	21	1	5				
2. 男女平等を達成するため、女性への雇用機会拡大を進めるべきである	3	15	0	4	0	11	1	0				
3. 経済成長が停滞するとしても、人権の平等を先に尊重すべきである	7	23	0	4	1	23	3	6				
4. 政府は市場を用いて経済成長を重視する	1	23	0	6	1	18	3	2				
5. 一般大衆は、政策に影響を与える力をもっていない	24	134	6	42	1	11	2	0				

**問33** あなたが就職活動を行う際に重要視するだろう条件についてお答えください。  
(各項目で1つ○印)

問 33 (全体)

	非常に 重要である	重要である	どちらでも ない	重要でない	まったく 重要でない
1. 給与レベル	501	962	135	52	7
2. 職業の安定	779	719	103	44	10
3. 昇進の機会	338	791	398	115	14
4. トレーニングの機会	419	797	347	76	12
5. 職場の雰囲気	976	594	69	15	7
6. 勤務時間の長さ	385	801	340	109	17
7. 会社の知名度	218	585	488	291	77
8. 福利厚生	516	851	229	40	10
9. 仕事内容	1,040	542	64	10	2
10. 専攻分野との関連性	317	509	519	243	67
11. 家族の反応・アドバイス	173	570	563	243	101
12. 学閥	36	199	682	433	303

問 33 解説

**【全体】**

就職活動に対して、給与レベルよりも仕事内容と職場の雰囲気、職業の安定について非常に重視していることが分かる。また勤務時間の長さ、福利厚生などの条件なども重要視している。学閥が最も重要視されていなかった。

**【偏差値】**

偏差値 51 以上は、非常に重要である、の項目では仕事内容に最も多く回答しているが、偏差値 50 以下は職場の雰囲気を重要視していることが分かる。

**【地域】**

北海道、東北、甲信越・北陸のみが、重要でない、の項目のうち、会社の知名度を最も多く回答している。

問 33 (偏差値)

	非常に同意する				同意する					
	偏差値45以下		偏差値46以上 50以下		偏差値51以上 55以下		偏差値56以上 60以下			
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下		
1. 給与レベル	36	67	158	49	162	77	127	295	103	316
2. 職業の安定	77	122	269	75	194	54	80	216	77	260
3. 昇進の機会	25	49	85	33	117	68	98	240	84	269
4. トレーニングの機会	19	58	100	38	173	68	87	242	100	272
5. 職場の雰囲気	90	134	295	105	309	40	71	185	63	203
6. 勤務時間の長さ	39	54	126	46	98	60	106	257	90	253
7. 会社の知名度	14	26	48	24	92	31	56	166	71	236
8. 福利厚生	32	57	155	65	181	65	111	271	87	278
9. 仕事内容	67	127	304	110	385	62	72	187	58	134
1.0. 専攻分野との関連性	21	34	85	27	132	50	70	140	75	158
1.1. 家族の反応・アドバイス	15	31	55	19	41	42	62	181	66	194
1.2. 学園	5	7	9	4	7	16	24	52	31	60
	どちらでもない									
	偏差値45以下		偏差値46以上 50以下		偏差値51以上 55以下		偏差値56以上 60以下		偏差値61以上	
1. 給与レベル	17	15	45	14	38	5	7	14	4	19
2. 職業の安定	3	10	17	14	54	2	2	10	4	22
3. 昇進の機会	30	61	137	44	107	10	6	47	12	39
4. トレーニングの機会	40	55	133	34	63	6	12	33	1	22
5. 職場の雰囲気	3	9	25	6	20	1	2	8	0	3
6. 勤務時間の長さ	25	36	104	30	126	12	15	20	6	51
7. 会社の知名度	50	75	160	54	124	30	47	119	16	66
8. 福利厚生	32	39	73	17	54	5	6	10	0	18
9. 仕事内容	6	16	22	2	13	1	1	2	2	3
1.0. 専攻分野との関連性	41	72	191	51	129	19	34	77	15	91
1.1. 家族の反応・アドバイス	47	79	178	52	173	21	30	67	21	98
1.2. 学園	72	102	241	68	162	28	44	119	38	193
	まったく同意しない									
	偏差値45以下		偏差値46以上 50以下		偏差値51以上 55以下		偏差値56以上 60以下		偏差値61以上	
1. 給与レベル	2	0	1	0	3					
2. 職業の安定	2	2	0	0	5					
3. 昇進の機会	3	1	3	1	5					
4. トレーニングの機会	3	2	2	0	5					
5. 職場の雰囲気	3	1	0	0	2					
6. 勤務時間の長さ	1	4	2	0	9					
7. 会社の知名度	13	11	20	10	18					
8. 福利厚生	2	2	1	0	3					
9. 仕事内容	1	0	0	0	1					
1.0. 専攻分野との関連性	6	6	18	6	26					
1.1. 家族の反応・アドバイス	12	13	30	12	29					
1.2. 学園	16	39	88	33	114					

問 33 (地域)

	非常に重要である				重要である			
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
1. 給与レベル	66	314	8	63	107	606	47	126
2. 職業の安定	112	480	18	100	71	456	32	98
3. 昇進の機会	39	210	5	43	91	512	40	89
4. トレーニングの機会	30	292	13	37	92	493	40	115
5. 職場の雰囲気	114	643	29	112	70	350	31	87
6. 勤務時間の長さ	54	228	6	53	93	502	34	109
7. 会社の知名度	18	158	3	20	63	361	28	85
8. 福利厚生	64	309	15	76	99	545	39	107
9. 仕事内容	118	669	42	125	68	324	19	81
10. 専攻分野との関連性	20	199	20	43	39	329	24	80
11. 家族の反応・アドバイス	18	102	5	25	72	349	22	77
12. 学閥	4	17	0	6	12	126	8	31
	どちらでもない							
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
1. 給与レベル	15	88	3	15	3	34	2	8
2. 職業の安定	6	72	7	9	3	30	3	4
3. 昇進の機会	42	243	14	60	17	70	1	23
4. トレーニングの機会	50	202	5	55	17	44	3	7
5. 職場の雰囲気	5	39	2	14	3	8	0	3
6. 勤務時間の長さ	35	217	18	44	7	83	3	7
7. 会社の知名度	50	297	20	77	50	185	10	25
8. 福利厚生	25	149	5	25	2	31	1	3
9. 仕事内容	6	42	0	7	1	5	0	4
10. 専攻分野との関連性	86	309	11	62	37	164	5	23
11. 家族の反応・アドバイス	65	360	23	72	26	168	8	24
12. 学閥	101	408	20	89	36	298	20	52
	まったく同意しない							
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
1. 給与レベル	1	2	0	2	2	2	0	2
2. 職業の安定	0	3	1	1	2	2	1	2
3. 昇進の機会	1	6	1	3	3	3	1	3
4. トレーニングの機会	1	6	0	3	3	3	0	3
5. 職場の雰囲気	0	2	0	2	2	2	0	2
6. 勤務時間の長さ	0	10	1	3	3	3	1	3
7. 会社の知名度	10	42	1	11	11	11	0	11
8. 福利厚生	0	3	0	3	3	3	0	3
9. 仕事内容	0	0	0	0	0	0	0	0
10. 専攻分野との関連性	8	42	0	10	10	10	0	10
11. 家族の反応・アドバイス	9	62	2	16	16	16	2	16
12. 学閥	35	192	13	41	41	41	13	41

**問 3 5** 昨今、日本では非正規雇用の拡大が論じられていますが、若者がフリーターになる理由をどのように考えていますか。（各項目で1つ〇印）

問 3 5（全体）

	非常に同意する	同意する	どちらでもない	同意しない	まったく同意しない	わからない
1. 仕事以外にしたいことがあるため	144	614	314	444	122	28
2. つきたい仕事の準備や勉強をするため	139	631	343	420	111	22
3. つきたい仕事の就職機会を待ったため	133	678	337	357	129	27
4. つきたい仕事パートやアルバイトでできるため	66	395	400	558	206	38
5. 自分に合う仕事を見つけたため	123	637	386	375	120	16
6. 正社員として採用されなかったため	614	787	158	71	27	10
7. 学費などを稼ぐため	200	745	361	254	73	28
8. なんとなくフリーターを選んだため	451	585	237	191	180	26
9. 正社員として働くのがいやなため	278	463	322	356	211	36

問 3 5 解説

**【全体】**

若者がフリーターになる理由は、正社員として採用されなかったこと、が非常に同意する、の中で最も回答数が多く、なんとなくフリーターを選んだため、も次に多かった。一方で、つきたい仕事他パートやアルバイトのできるため、正社員として働くのがいやなため、といった自発的にフリーターになる理由は、まったく同意しない、の回答数が多かった。

**【偏差値】**

偏差値の間に差はみられなかった。

**【地域】**

地域間に差はみられなかった。

問 35 (偏差値)

	非常に同意する				同意する					
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
1. 仕事以外にしたいことがあるため	18	21	44	11	35	52	79	177	68	211
2. つきたい仕事の準備や勉強をするため	16	20	41	10	41	48	75	192	78	206
3. つきたい仕事の就職機会を待ったため	15	14	45	16	32	48	76	206	79	239
4. つきたい仕事がパートやアルバイトでできるため	9	6	16	8	19	39	49	115	40	137
5. 自分に合う仕事を見つけたため	15	16	42	11	26	58	85	199	71	195
6. 正社員として採用されなかつたため	60	92	197	57	179	56	87	233	80	292
7. 学費などを稼ぐため	26	34	72	14	46	63	76	235	83	243
8. なんとなくフリーターを選んだため	33	59	133	36	165	46	71	169	79	198
9. 正社員として働くのがいやなため	30	37	67	32	96	31	64	128	47	166

	どちらでもない				同意しない					
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
1. 仕事以外にしたいことがあるため	31	28	108	39	95	25	57	144	50	148
2. つきたい仕事の準備や勉強をするため	32	43	119	41	92	29	55	122	42	154
3. つきたい仕事の就職機会を待ったため	31	52	115	41	83	29	47	106	34	123
4. つきたい仕事はパートやアルバイトでできるため	37	62	128	38	109	33	66	182	70	186
5. 自分に合う仕事を見つけたため	31	45	127	43	120	18	50	107	39	148
6. 正社員として採用されなかつたため	10	21	55	23	43	6	12	22	13	17
7. 学費などを稼ぐため	25	54	109	45	112	14	32	74	29	97
8. なんとなくフリーターを選んだため	19	32	82	26	70	13	27	66	12	60
9. 正社員として働くのがいやなため	23	38	101	38	109	29	45	130	33	105

	まったく同意しない			わからない		
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値61以上 60以下
1. 仕事以外にしたいことがあるため	12	26	32	8	41	8
2. つきたい仕事の準備や勉強をするため	12	22	30	4	39	7
3. つきたい仕事の就職機会を待ったため	15	23	28	4	54	8
4. つきたい仕事パートやアルバイトでできるため	18	30	59	18	72	15
5. 自分に合う仕事を見つけるため	15	20	30	7	42	5
6. 正社員として採用されなかったため	4	3	7	2	7	2
7. 学費などを稼ぐため	7	14	16	4	30	12
8. なんとなくフリーターを選んだため	23	26	58	22	41	5
9. 正社員として働くのがいやなため	21	34	77	21	50	12

問 35 (地域)

	非常に同意する				同意する			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
1. 仕事以外にしたいことがあるため	15	79	5	25	70	399	21	67
2. つきたい仕事の準備や勉強をするため	17	89	2	14	77	383	29	91
3. つきたい仕事の就職機会を待ったため	18	71	2	25	86	423	28	88
4. つきたい仕事パートやアルバイトでできるため	5	36	1	13	41	263	14	49
5. 自分に合う仕事を見つけるため	14	65	6	19	75	399	27	80
6. 正社員として採用されなかったため	75	383	17	80	80	506	39	96
7. 学費などを稼ぐため	34	127	5	21	81	462	27	105
8. なんとなくフリーターを選んだため	45	302	12	52	66	363	25	90
9. 正社員として働くのがいやなため	21	173	9	41	47	310	15	61

	どちらでもない					同意しない					
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海
1. 仕事以外にしたいことがあるため	37	188	15	56	53	279	18	58			
2. つきたい仕事の準備や勉強をするため	35	206	10	54	48	273	19	50			
3. つきたい仕事の就職機会を待ったため	39	207	11	52	36	229	17	43			
4. つきたい仕事にパートやアルバイトでできるため	45	245	14	50	68	346	26	83			
5. 自分に合う仕事を見つけるため	38	238	12	62	50	246	15	42			
6. 正社員として採用されなかったため	25	95	6	23	11	41	0	15			
7. 学費などを稼ぐため	41	227	15	49	28	159	13	32			
8. なんとなくフリーターを選んだため	28	150	14	28	24	111	7	22			
9. 正社員として働くのがいやなため	32	197	18	47	48	212	15	44			

	まったく同意しない					わからない					
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海
1. 仕事以外にしたいことがあるため	14	82	3	13	3	20	0	2			
2. つきたい仕事の準備や勉強をするため	14	80	1	7	2	16	1	3			
3. つきたい仕事の就職機会を待ったため	9	98	3	9	4	19	1	2			
4. つきたい仕事にパートやアルバイトでできるため	25	135	3	21	9	22	3	3			
5. 自分に合う仕事を見つけるため	13	83	2	10	2	11	0	3			
6. 正社員として採用されなかったため	2	17	0	2	0	7	0	2			
7. 学費などを稼ぐため	5	49	1	9	3	19	1	3			
8. なんとなくフリーターを選んだため	27	107	4	26	2	17	0	4			
9. 正社員として働くのがいやなため	38	135	4	20	6	19	1	7			

**問36** 現在、ヨーロッパの統合のように、アジア地域での統合を模索する議論や試みがなされています。こうした「アジア地域統合」に対して、あなたは肯定的な立場ですか、否定的な立場ですか。(1つだけ○印)

問36 (全体)

大変同意する	139
おおむね同意できる	799
あまり同意できない	474
全く同意できない	130
わからない	136

問36 (偏差値)

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
大変同意する	4	16	30	12	66
おおむね同意できる	65	104	225	91	284
あまり同意できない	40	65	171	46	133
全く同意できない	15	14	44	12	35
わからない	14	25	50	16	22

問36 (地域)

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
大変同意する	16	87	7	12
おおむね同意できる	82	518	35	110
あまり同意できない	64	300	9	63
全く同意できない	16	69	3	21
わからない	15	82	7	17

問36 解説

**【全体】**

「アジア地域統合」に対しては、おおむね同意できるが最も多かった。一方であまり同意できないという回答も多く、積極的に同意はされていないことがわかる。

**【偏差値】**

偏差値の間に差はみられなかった。

**【地域】**

地域間に差はみられなかった。

**問37** アジア地域統合はヒトの交流や文化的な側面等で、既に進んできているとする意見もありますが、あなたは以下のことがらが、アジア地域統合にとってどの程度重要な役割をもつと思いますか？  
(各項目で1つ○印)

問 37 (全体)

	非常に重要である	重要である	どちらでもない	重要でない	まったく重要でない	わからない
漫画・アニメ	284	777	385	146	51	27
音楽	301	818	351	140	34	23
映画・テレビドラマ	291	832	348	144	31	23
市民活動 (NGO・ボランティア)	543	848	193	45	17	20
親善・文化交流 (観光・旅行を含む)	730	752	122	39	9	18
インターネットによる情報提供	400	783	359	81	21	25

問 37 解説

**【全体】**

親善・文化交流 (観光・旅行を含む) が最も重要であると認識されている。またインターネットによる情報も重要視されている。生活上で触れるマンガ・アニメ、音楽、映画・テレビドラマは、ある程度重要であると認識されている。

**【偏差値】**

偏差値の間に差はみられなかった。

**【地域】**

地域間に差はみられなかった。

問 37 (偏差値)

	非常に重要である				重要である				
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下
漫画・アニメ	33	37	75	33	88	56	105	218	88
音楽	32	43	93	38	82	61	105	239	95
映画・テレビドラマ	32	41	74	42	87	55	102	246	93
市民活動 (NGO・ボランティア)	47	81	176	59	156	65	103	258	97
親善・文化交流 (観光・旅行を含む)	52	100	223	84	241	64	90	238	80
インターネットによる情報提供	38	48	95	45	150	56	101	254	85

	どちらでもない				重要でない				
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下
漫画・アニメ	28	51	137	39	107	10	14	58	16
音楽	28	45	116	30	111	10	17	46	12
映画・テレビドラマ	30	54	118	33	90	14	13	58	9
市民活動 (NGO・ボランティア)	14	23	58	21	62	6	5	11	0
親善・文化交流 (観光・旅行を含む)	15	21	32	9	37	3	4	15	4
インターネットによる情報提供	31	46	124	39	95	5	16	27	6

	まったく重要でない				わからない				
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下
漫画・アニメ	7	10	19	1	11	4	2	10	0
音楽	3	8	15	0	8	4	1	8	0
映画・テレビドラマ	3	7	12	0	7	4	2	9	0
市民活動 (NGO・ボランティア)	1	4	5	0	5	4	3	7	0
親善・文化交流 (観光・旅行を含む)	0	1	4	0	2	4	3	6	0
インターネットによる情報提供	2	3	8	2	6	6	4	9	0

問 37 (地域)

	非常に重要である				重要である			
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
漫画・アニメ	24	180	6	45	83	512	29	91
音楽	27	187	9	51	95	528	27	105
映画・テレビドラマ	22	181	6	52	97	543	36	101
市民活動 (NGO・ボランティア)	54	359	15	70	111	518	36	117
親善・文化交流 (観光・旅行を含む)	83	470	27	92	90	460	31	109
インターネットによる情報提供	38	258	17	51	98	493	31	105

	どちらでもない				重要でない			
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
漫画・アニメ	45	230	15	64	29	82	7	16
音楽	40	208	18	47	22	90	4	13
映画・テレビドラマ	41	204	12	51	27	82	6	16
市民活動 (NGO・ボランティア)	23	113	7	28	1	33	2	3
親善・文化交流 (観光・旅行を含む)	13	77	2	15	5	27	0	4
インターネットによる情報提供	38	215	8	54	13	53	4	6

	まったく重要でない				わからない			
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
漫画・アニメ	11	29	2	2	0	17	3	3
音楽	8	22	1	1	0	14	3	2
映画・テレビドラマ	4	24	0	0	1	15	2	1
市民活動 (NGO・ボランティア)	2	11	0	2	0	13	2	1
親善・文化交流 (観光・旅行を含む)	1	4	0	1	0	11	2	1
インターネットによる情報提供	4	13	0	4	1	16	2	1

**問38** 映画を見るときに、特に何に興味がありますか？（1つだけ○印）

問38（全体）

俳優	140
監督	36
ストーリー	1,377
映画はほとんど見ない	121

問38（偏差値）

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
俳優	10	24	53	8	41
監督	2	4	8	6	14
ストーリー	111	180	417	156	444
映画はほとんど見ない	14	16	40	6	40

問38（地域）

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
俳優	20	96	3	7
監督	2	23	1	7
ストーリー	157	855	53	197
映画はほとんど見ない	15	77	4	12

問38 解説

**【全体】**

映画を見るときにはストーリーが最も重視されている。

**【偏差値】**

偏差値の間に差はみられなかった。

**【地域】**

地域間に差はみられなかった。

**問39** 次にあげた形容詞のうち、友人の人格的要素としてあなたが最も高く評価するもの1つに○をつけてください。(1つだけ○印)

問 39 (全体)

陽気な楽道家の	65
洗練された	39
良心的な	195
穏健な	29
社交的な	72
風変わりな	51
愉快的な	146
芸術家肌の	10
意志の強い	106
活動的な	44
しつけのよい	19
気品のある	16
愛想がよい	35
思いやりがある	517
心の広い	164
優しい	103
賢い	44

問 39 解説

**【全体】**

思いやりがあることが、最も高く評価されている。また良心的な、心の広い、なども高く評価されており、他者に対する配慮ができる人が評価されていることが分かる。

**【偏差値】**

偏差値の間に差はみられなかった。

**【地域】**

地域間に差はみられなかった。

問 39 (偏差値)

	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上
陽気な楽天家の	6	11	21	10	14
洗練された	2	3	8	4	18
良心的な	15	26	51	31	61
穏健な	4	1	14	0	8
社交的な	3	21	21	5	19
風変わりな	5	5	14	6	14
愉快的な	16	24	54	9	34
芸術家肌の	1	0	0	3	6
意志の強い	8	11	37	8	36
活動的な	3	6	11	5	18
しつけのよい	1	2	10	2	2
気品のある	1	3	6	2	4
愛想がよい	6	6	7	5	9
思いやりがある	39	62	163	57	178
心の広い	12	22	51	14	61
優しい	10	12	37	13	27
賢い	0	6	9	2	24

問 39 (地域)

	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
陽気な楽天家の	10	41	1	7
洗練された	1	22	2	8
良心的な	16	122	9	33
穏健な	4	12	2	6
社交的な	10	51	1	6
風変わりな	3	27	1	13
愉快的な	26	94	2	13
芸術家肌の	0	8	0	2
意志の強い	12	63	6	12
活動的な	5	30	1	4
しつけのよい	4	10	0	2
気品のある	3	10	1	1
愛想がよい	4	18	0	9
思いやりがある	62	326	24	66
心の広い	16	119	3	17
優しい	14	58	5	18
賢い	2	33	3	2

**問 40** 以下の問いにお答えください。(どちらかに○印)

問 40 (全体)

	そう思う	そう思わない
幼稚園、小学校の頃家族が本をよく読んでくれた	1,004	667
家でよくクラシック音楽のレコードを聞いたり、クラシックのコンサートに何度か出かけた	396	1,278
家族と一緒に美術展や博物館へ何度か出かけた	806	861

問 40 解説

**【全体】**

本の読み聞かせは多くの家庭が行っているが、クラシックコンサートは特別な家庭のみが行っていたことがわかる。また美術展や博物館は半々である。

**【偏差値】**

偏差値が 55 以下のグループは本の読み聞かせが半々の割合であるが、偏差値 56 以上になると、本の読み聞かせを行っている割合の方が大きくなる。またクラシックコンサートを聞く家庭の割合は、どのグループでも低かった。

**【地域】**

地域間の差はみられなかった。

問 40 (偏差値)

	そう思う				そう思わない					
	偏差値45以下		偏差値46以上 50以下		偏差値51以上 55以下		偏差値56以上 60以下		偏差値61以上	
幼稚園、小学校の頃家族が本をよく読んでくれた	73	120	293	122	349	103	225	55	186	
家でよくクラシック音楽のレコーズを聞いたり、クラシックのコンサートに何度か出かけた	16	28	91	60	175	195	428	117	363	
家族と一緒に美術館や博物館へ何度か出かけた	53	96	234	91	296	127	282	86	238	

問 40 (地域)

	そう思う				そう思わない			
	北海道、東北、 甲信越・北陸		関東地方		関西、東海		中国、四国、 九州・沖縄	
幼稚園、小学校の頃家族が本をよく読んでくれた	103	630	43	143	90	420	19	80
家でよくクラシック音楽のレコーズを聞いたり、クラシックのコンサートに何度か出かけた	26	254	22	57	168	798	40	166
家族と一緒に美術館や博物館へ何度か出かけた	66	542	30	104	127	505	31	119

**問41** あなたが大学入学前に暮らしていた町は、10年後にどのようなになっていると思いますか。

問41（全体）

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	わからない
町の活気がなくなる	224	502	641	288	14
住環境（公園、道路、治安）の悪化が進む	95	314	846	395	19
人々のつながりが希薄になる	227	652	541	217	32

問41 解説

**【全体】**

町の活気が徐々になくなり人々のつながりが希薄になることを予想している回答者が多い。また一方で治安の悪化はあまり同意されていない。

**【偏差値】**

偏差値の間に差はみられなかった。

**【地域】**

地域間に差はみられなかった。

問 41 (偏差値)

	とてもそう思う		ある程度そう思う		偏差値61以上					
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下		偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	
町の活気がなくなる	14	35	75	32	54	43	61	177	49	146
住環境(公園、道路、治安)の悪化が進む	11	17	24	12	25	23	31	126	47	64
人々のつながりが希薄になる	18	35	69	27	62	43	81	208	60	227

	あまりそう思わない		全くそう思わない		偏差値61以上					
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下		偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	
町の活気がなくなる	57	92	192	52	223	22	33	70	41	110
住環境(公園、道路、治安)の悪化が進む	73	105	263	77	295	28	68	99	39	147
人々のつながりが希薄になる	49	65	169	63	174	26	40	55	24	66

	わからない		偏差値61以上	
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下		偏差値51以上 55以下
町の活気がなくなる	0	1	5	3
住環境(公園、道路、治安)の悪化が進む	1	1	6	2
人々のつながりが希薄になる	0	1	17	3

問 41 (地域)

	とてもそう思う				ある程度そう思う			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
町の活気がなくなる	27	124	4	47	64	296	25	75
住環境(公園、道路、治安)の悪 化が進む	4	61	2	16	49	160	11	61
人々のつながりが希薄になる	33	135	6	28	74	417	25	75

	あまりそう思わない				全くそう思わない			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
町の活気がなくなる	77	422	26	64	22	202	6	35
住環境(公園、道路、治安)の悪 化が進む	101	542	34	103	37	275	14	40
人々のつながりが希薄になる	61	334	24	82	18	147	5	35

	わからない			
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄
町の活気がなくなる	4	3	1	2
住環境(公園、道路、治安)の悪 化が進む	3	9	1	2
人々のつながりが希薄になる	7	14	2	3

**問43** 自分の国や世界で何が起きているかを知るために利用する情報源は人によってさまざまです。次のような情報源について、先週、情報を得るために、利用したか、利用しなかったかをお答えください。

(各項目で1つ○印)

問43 (全体)

	先週利用した	先週利用しなかった
1. 新聞	1,040	618
2. ラジオやテレビのニュース	1,558	99
3. 雑誌	737	923
4. ラジオやテレビの報道番組	1,473	182
5. 本	734	919
6. インターネット、電子メールの情報	1,490	169
7. 友人との会話	1,327	326

問43 解説

**【全体】**

ラジオやテレビのニュース、ラジオやテレビの報道番組、が最も利用されている。一方で雑誌、本はほとんど利用されていなかった。

**【偏差値】**

偏差値の間に差はみられなかった。

**【地域】**

地域間に差はみられなかった。

問 43 (偏差値)

	先週利用した						先週利用しなかった					
	偏差値45以下		偏差値46以上 50以下		偏差値51以上 55以下		偏差値56以上 60以下		偏差値61以上		偏差値61以上	
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値61以上	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値61以上
1. 新聞	76	114	278	120	407	105	236	56	131			
2. ラジオやテレビのニュース	133	211	482	166	495	8	31	10	41			
3. 雑誌	52	86	208	79	275	86	306	97	263			
4. ラジオやテレビの報道番組	123	202	456	153	471	13	56	23	66			
5. 本	30	74	197	86	315	106	316	89	221			
6. インターネット、電子メールの情報	106	193	460	156	509	30	55	19	28			
7. 友人との会話	102	161	395	143	469	34	116	33	67			

問 43 (地域)

	先週利用した						先週利用しなかった							
	北海道、東北、 甲信越・北陸		関東地方		関西、東海		中国、四国、 九州・沖縄		北海道、東北、 甲信越・北陸		関東地方		中国、四国、 九州・沖縄	
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	中国、四国、 九州・沖縄	
1. 新聞	112	654	41	146	80	392	21	75						
2. ラジオやテレビのニュース	185	986	56	203	6	63	6	18						
3. 雑誌	67	490	29	88	125	559	33	134						
4. ラジオやテレビの報道番組	175	938	51	188	17	108	11	32						
5. 本	53	484	37	96	139	561	25	123						
6. インターネット、電子メールの情報	170	952	60	193	23	95	2	27						
7. 友人との会話	132	863	50	180	59	182	12	40						

**問44** 次のような情報源について、どの程度信用できると思いますか。（各項目で1つ○印）

問44（全体）

	信用 できる	やや信用 できる	あまり信用 できない	信用 できない
1. 新聞	753	780	117	17
2. ラジオやテレビのニュース	496	870	262	35
3. 雑誌	169	783	618	90
4. ラジオやテレビの報道番組	402	856	344	59
5. 本	397	987	262	11
6. インターネット、電子メールの情報	169	719	648	127
7. 友人との会話	108	945	544	62

問44 解説

**【全体】**

最も信用できる媒体は新聞であり、最も信用できないのはインターネットだと認識されている。一方でインターネットの利用は前質問の通り、信用はあまりされていないが利用はよくされているようである。

**【偏差値】**

偏差値の間に差はみられなかった。

**【地域】**

地域間に差はみられなかった。

問 44 (偏差値)

	信用できる			やや信用できる		
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値61以上 60以下
1. 新聞	64	104	230	81	240	247
2. ラジオやテレビのニュース	57	77	153	53	137	298
3. 雑誌	19	27	43	15	59	279
4. ラジオやテレビの報道番組	52	61	122	53	98	290
5. 本	25	51	111	55	142	329
6. インターネット、電子メールの情報	30	34	35	18	46	247
7. 友人との会話	11	13	31	9	40	326

	あまり信用できない			信用できない		
	偏差値45以下	偏差値46以上 50以下	偏差値51以上 55以下	偏差値56以上 60以下	偏差値61以上	偏差値61以上 60以下
1. 新聞	7	12	30	12	47	3
2. ラジオやテレビのニュース	22	36	76	26	88	12
3. 雑誌	58	93	201	61	172	27
4. ラジオやテレビの報道番組	24	41	100	39	125	23
5. 本	31	38	86	27	60	3
6. インターネット、電子メールの情報	40	77	208	73	223	21
7. 友人との会話	45	94	167	52	160	12

問 44 (地域)

	信用できる				やや信用できる			
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
1. 新聞	88	484	29	96	95	482	29	105
2. ラジオやテレビのニュース	58	325	19	61	104	545	34	117
3. 雑誌	15	123	5	10	85	499	35	104
4. ラジオやテレビの報道番組	49	254	12	60	102	538	36	108
5. 本	41	258	16	49	105	639	41	130
6. インターネット、電子メールの情報	8	124	4	20	86	452	24	92
7. 友人との会話	12	70	5	10	104	618	37	119

	あまり信用できない				信用できない			
	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄	北海道、東北、甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、九州・沖縄
1. 新聞	11	71	4	20	0	12	0	2
2. ラジオやテレビのニュース	28	157	8	41	3	21	0	4
3. 雑誌	83	368	21	93	9	57	1	13
4. ラジオやテレビの報道番組	37	216	14	46	5	39	0	7
5. 本	44	145	4	39	2	3	1	2
6. インターネット、電子メールの情報	82	404	30	90	18	66	4	20
7. 友人との会話	69	334	18	73	8	25	2	16

**問 4 5** では、次のような情報源について、どの程度役に立つと思いますか。（各項目で1つ〇印）

問 45（全体）

	役に立つ		やや役に立つ		あまり役に立たない		役に立たない	
	偏差値45以下	偏差値46以上50以下	偏差値51以上55以下	偏差値56以上60以下	偏差値61以上65以下	偏差値66以上70以下	偏差値71以上75以下	偏差値76以上80以下
1. 新聞	93	147	347	133	353	36	155	167
2. ラジオやテレビのニュース	92	124	266	117	277	35	221	218
3. 雑誌	37	57	123	58	168	65	271	282
4. ラジオやテレビの報道番組	82	102	221	103	220	40	246	245
5. 本	44	87	214	97	304	68	237	206
6. インターネット、電子メールの情報	70	81	175	75	229	46	257	239
7. 友人との会話	41	54	142	49	188	62	280	283

問 45 解説

【全体】

最も役に立つと考えられているのは新聞であった。またラジオやテレビのニュースも役立つと考えられている。またあまり役に立たないと考えられているのは、友人との会話であった。

【偏差値】

偏差値の間に差はみられなかった。

【地域】

地域間に差はみられなかった。

問 45（偏差値）

	役に立つ		役に立つ		やや役に立つ		やや役に立つ	
	偏差値45以下	偏差値46以上50以下	偏差値51以上55以下	偏差値56以上60以下	偏差値61以上65以下	偏差値66以上70以下	偏差値71以上75以下	偏差値76以上80以下
1. 新聞	93	147	347	133	353	36	155	167
2. ラジオやテレビのニュース	92	124	266	117	277	35	221	218
3. 雑誌	37	57	123	58	168	65	271	282
4. ラジオやテレビの報道番組	82	102	221	103	220	40	246	245
5. 本	44	87	214	97	304	68	237	206
6. インターネット、電子メールの情報	70	81	175	75	229	46	257	239
7. 友人との会話	41	54	142	49	188	62	280	283

	あまり役に立たない				役に立たない			
	偏差値45以下		偏差値46以上 55以下		偏差値51以上 60以下		偏差値56以上 60以下	
	偏差値45以下	偏差値46以上 55以下	偏差値51以上 60以下	偏差値56以上 60以下	偏差値45以下	偏差値46以上 55以下	偏差値51以上 60以下	偏差値56以上 60以下
1. 新聞	6	8	14	16	1	0	2	2
2. ラジオやテレビのニュース	8	10	25	35	1	1	5	1
3. 雑誌	30	55	108	80	6	5	13	4
4. ラジオやテレビの報道番組	13	25	41	60	3	1	7	1
5. 本	23	23	59	27	2	1	5	0
6. インターネット、電子メールの情報	16	38	72	65	4	5	12	3
7. 友人との会話	27	48	80	57	5	6	15	0

問 45 (地域)

	役に立つ				やや役に立つ									
	北海道、東北、 甲信越・北陸		関西、東海		中国、四国、 九州・沖縄		北海道、東北、 甲信越・北陸		関東地方		関西、東海		中国、四国、 九州・沖縄	
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄			
1. 新聞	135	689	43	161	52	323	18	57						
2. ラジオやテレビのニュース	103	575	41	126	82	406	18	83						
3. 雑誌	41	297	25	56	100	546	25	105						
4. ラジオやテレビの報道番組	83	480	29	112	95	448	27	81						
5. 本	69	506	33	105	92	458	24	83						
6. インターネット、電子メールの情報	70	427	25	87	91	471	27	102						
7. 友人との会話	52	320	20	56	93	571	30	130						

	あまり役に立たない				役に立たない									
	北海道、東北、 甲信越・北陸		関西、東海		中国、四国、 九州・沖縄		北海道、東北、 甲信越・北陸		関東地方		関西、東海		中国、四国、 九州・沖縄	
	北海道、東北、 甲信越・北陸	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄	北海道、東北、 甲信越・北陸	関東地方	関西、東海	中国、四国、 九州・沖縄			
1. 新聞	6	31	1	4	0	5	0	1						
2. ラジオやテレビのニュース	5	57	3	12	2	10	0	2						
3. 雑誌	47	187	11	51	3	21	1	10						
4. ラジオやテレビの報道番組	12	104	6	23	2	19	0	3						
5. 本	28	82	5	28	3	2	0	4						
6. インターネット、電子メールの情報	29	134	9	27	3	14	1	5						
7. 友人との会話	41	142	10	28	7	15	2	6						

## 第二部：学生による論考

2-1 学生の留学選択に影響する要因の分析 ～「Asia-Vision サurvey 学生の意識に関する国際比較調査」をもとに～

**石山 怜子 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 修士課程)**

2-2 両親の社会的特性と子どもの価値観形成の関係性について

**川口 純 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 修士課程)**

2-3 「アジア地域統合」に関係する帰属意識とそれに影響を及ぼす要因について

**上見 郁子 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 修士課程)**

2-4 ミクロ計量モデルを用いた少子化の決定要因の分析

**福谷 周 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 修士課程)**

2-5 「アジア地域統合」の立場形成の決定要因についての分析と比較 —日本人学生を中心に—

**劉 曙麗 (早稲田大学グローバルCOE GIARIフェロー)**

2-6 Asian Integration: Agreeability of students amidst unresolved historical issues

**Jacinta Bernadette I. Rico (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 修士課程)**

石山怜子  
アジア太平洋研究科 修士課程 2年  
[reikoishiyama@hotmail.com](mailto:reikoishiyama@hotmail.com)

学生の留学選択に影響する要因の分析  
～「Asia-Vision サーベイ 学生の意識に関する国際比較調査」の調査結果をもとに～

## 1. はじめに

グローバル化の進展に伴い、高等教育の分野では留学生移動が活発になっている。OECDによれば、世界の留学生の総数は1990年の130万人から2000年には190万、2007年には300万と増加の一途をたどっている（OECD, 2009）。

このような留学生数増加の背景には、留学に関する「多様性」が特徴として挙げられる。1つ目は、留学する学生の多様化である。かつて、選ばれたエリートに限定されていた留学は大衆化され、多様な人々が留学に関心をもち、実際に留学するようになったのである。

2つ目は、留学生が選ぶ留学先の多様化である。依然として、アメリカをはじめとする欧米諸国は留学生受け入れ国として多くの留学生を受け入れているが、留学先として欧米諸国以外を選択する学生も増加しているのである。とくに、アジア地域においては「対欧米への留学生移動だけではなく、アジア地域内の留学生移動ルートが新たに増え、より多様な移動がみられるようになってきている」（杉村, 2008）。留学生のニーズの多様化にくわえ、留学生の送り出し国であったアジア諸国が受け入れ国への転換をめざし、留学生受け入れ強化の政策を展開した結果といえる。

3つ目は、留学形態の多様化である。旧来からの学生が国境を越えて移動するタイプの留学にくわえ、今日ではプログラムが国境を越えて移動するタイプ、高等教育機関が国境を越えて移動するタイプの留学も拡大している（Knight, 2008, 太田, 2008）。このような学生本人は自国にいながら他国の教育を受けるタイプの留学は、とくに東南アジアや中国を中心に拡大している（太田, 2008）。

以上のような留学生市場の拡大と留学に関する多様性は、留学生にとって選択肢の多様化につながっていると見える。では、実際に留学生はどのような基準で留学を決め、行き先を選んでいるのだろうか。また、どのような要素が学生の留学への興味・関心を高めているのだろうか。本稿では、「Asia-Vision サーベイ 学生の意識に関する国際比較調査」から得られた回答データをもとに、アジア諸国の学生の留学に対する興味・関心を高めている要因を明らかにする。

## 2. 分析の方法

### 2-1. 使用データの概略

分析にあたり、本稿では早稲田大学「アジア地域統合のための世界的人材育成拠点（GIARI）」が2009年に実施した「Asia-Vision サーベイ 学生の意識に関する国際比較調査（以下、「A-Vision サーベイ」と記す）」の調査結果を用いる。サンプルの総数は1725件で、異常値を除外したうえで分析を行った。

被説明変数には学生の留学への関心度を表す変数を用いる。「A-Vision サーベイ」には「将来の留学に対する興味・関心について教えてください」という質問が設けられている。これに対して「1：とても興味・関心がある」「2：少し興味・関心がある」「3：あまり興味・関心がない」「4：まったく興味・関心がない」「9：分からない」の5つから選択して回答

されたデータを留学に対する関心度を表す変数として扱う。ただし、「A-Vision サーベイ」では前述の質問に対して 4 と 9 を選択した場合は説明変数となる留学先を選択する基準となりえる項目についての回答を得ていない。このため、本稿では 4 と 9 の回答を対象外とし、1～3 の 3 つの尺度を変数として扱うこととする。

説明変数には、学生が留学先を選択する基準となりえる項目を変数として取り上げ、被説明変数である留学への関心度との関連性を分析する。「A-Vision サーベイ」では、前述の留学への関心を問う質問に対して 1～3 のいずれかを回答した学生のみを対象に、「留学先（国）を選択するとき（あるいは選択した時）、下記の点についてどう思いますか」という質問を設けており、次の 19 項目それぞれについて「1：とても興味・関心がある」「2：少し興味・関心がある」「3：あまり興味・関心がない」「4：まったく興味・関心がない」「9：分からない」の 5 つ選択肢を設けている。

- a. 高い教育の質
- b. 高い研究の質
- c. 大学の評判
- d. 英語で学べること
- e. 英語以外の言語で学べること
- f. あなたの大学で国間留学プログラムが利用できること
- g. あなたの国にとっての政治的重要性
- h. 留学先（国）の政治的自由
- i. あなたの国にとっての経済的重要性
- j. 留学先（国）の将来における経済的ポテンシャル
- k. 留学先（国）の文化に対するあなたの興味・関心
- l. 文化的障壁（食べ物・宗教・習慣・人間関係など）が少ないこと
- m. 出発前に奨学金を利用できること
- n. 留学中に奨学金を獲得できる機会があること
- o. 留学中にアルバイトをする機会があること
- p. より低い授業料
- q. より低い生活費
- r. 治安
- s. 留学生を多く受け入れていること

以上の 19 項目に対してそれぞれ、回答された 5 つの選択肢のうち「9：わからない」を除いた 4 種のデータを被説明変数として用いる。これらの項目への関心の高さと留学への関心の高さがどのように関連しているかを推定する。

推定に用いる被説明変数、説明変数の基本統計量は表 1 のとおりである。

表 1. 推定に用いる変数の基準統計量

変数	サンプル数	平均	標準誤差	最小値	最大値
<b>被説明変数</b>					
留学に対する興味・関心	1323	1.915344	0.7544716	1	3
<b>説明変数</b>					
高い教育の質	1096	1.627737	0.7341113	1	4
高い研究の質	1082	1.790203	0.8157652	1	4
大学の評判	1082	1.859519	0.8119408	1	4
英語で学べること	1089	1.745638	0.8035661	1	4
英語以外の言語で学べること	1081	2.309898	0.8559076	1	4
交換留学プログラムの利用	1077	2.182916	0.8913909	1	4
自国での政治的重要性	1088	2.69761	0.8943829	1	4
留学先の政治的自由	1081	2.248844	0.8819492	1	4
自国での経済的重要性	1080	2.487963	0.9182747	1	4
留学先での経済的ポテンシャル	1084	2.273063	0.8707695	1	4
留学先の文化への興味・関心	1088	1.52114	0.6846415	1	4
文化的障壁の少なさ	1083	2.125577	0.8961416	1	4
出発前の奨学金の利用	1079	2.010195	0.9029368	1	4
留学中の奨学金の獲得	1083	2.012927	0.8976345	1	4
留学中のアルバイトの機会	1081	2.306198	0.9045402	1	4
より低い授業料	1081	2.043478	0.8771569	1	4
より低い生活費	1079	2.040778	0.8594157	1	4
治安	1082	1.369686	0.6248964	1	4
留学生受け入れの多さ	1080	1.937037	0.8800742	1	4

註) 被説明変数=1: とても興味・関心がある、2: 少し興味・関心がある、3: あまり興味・関心がない

説明変数=1: とても興味・関心がある、2: 少し興味・関心がある、3: あまり興味・関心がない、  
4: まったく興味・関心がない

## 2-2. 使用モデル

本稿では留学への興味・関心を高める要因を順序ロジットモデル (ordered logit model) を用いて分析する。3段階で示された留学への興味・関心の度合い  $Y^*$  は次のように記述することができる。

$$Y_i^* = bx_i + u_i \quad i = 1, 2, \dots, n$$

ここでは、 $x$  は説明変数であり、前節で述べた 19 項目の留学先を決定する基準になりうる項目を表す。 $u$  は誤差項を表す。

### 3. 実証分析

推定結果は表2のとおりとなった。

表2. 推定結果

	係数	標準誤差
高い教育の質	0.2781868	0.1247612 **
高い研究の質	0.115812	0.1088204
大学の評判	0.2731767	0.0951303 ***
英語で学べること	0.5553854	0.084752 ***
英語以外の言語で学べること	0.3180571	0.0750393 ***
交換留学プログラムの利用	0.0913026	0.0799413
自国での政治的重要性	-0.1775638	0.0950997 *
留学先の政治的自由	-0.0065194	0.083576
自国での経済的重要性	-0.0334538	0.0959009
留学先での経済的ポテンシャル	0.1381409	0.0854265
留学先の文化への興味・関心	0.3415597	0.0943849 ***
文化的障壁の少なさ	-0.3853186	0.0741691 ***
出発前の奨学金の利用	-0.0305639	0.1369662
留学中の奨学金の獲得	0.1066819	0.1397949
留学中のアルバイトの機会	-0.1153974	0.0818841
より低い授業料	-0.1502284	0.1405535
より低い生活費	0.0610759	0.1387126
治安	-0.1557102	0.1151087
留学生受け入れの多さ	-0.0462108	0.0794254
/cut1	1.0834	0.337101
/cut2	3.227444	0.3527783
サンプル数	1028	
対数尤度	221.68	
Prob > chi2	0.0000	
疑似決定係数	0.1002	

註1) 優位水準 「\*\*\*」 : 1%有意、「\*\*」 : 5%有意、「\*」 : 10%有意

註2) すべての説明変数が「1 : とても興味・関心がある」「2 : 少し興味・関心がある」「3 : あまり興味・関心がない」「4 : まったく興味・関心がない」のいずれかをとる

「高い教育の質」、「大学の評判」、「英語で学べること」、「英語以外の言語で学べること」、「留学先の文化への興味・関心」の 5 項目において正の有意、「自国での政治的重要性」、「文化的障壁の少なさ」の 2 項目が負の有意となった。つまり、教育の質が高いことや大学の評判がよいこと、学生が希望する言語が授業で使用されていること、留学先の文化に興味をもてることを重視する学生と、母国での政治的重要性や留学先で文化の障壁が少ないかどうかを意識しない学生ほど留学に興味・関心をもつ結果となった。

一方で、受け入れ機関の研究の質、送り出し国や受け入れ国の経済的な要因、奨学金や授業料や生活費といった留学に関するコストに関する要因については有意でないという結果となった。

#### 4. 考察

「A-Vision サーベイ」のデータを使用した推定の結果から、留学への興味・関心に影響を与える要因として次の 5 点の特徴が明らかとなった。

1 点目は、教授言語が学生の留学への興味・関心に強い影響力をもつことである。

「A-Vision サーベイ」の調査では、英語と英語以外の言語、どちらもが強い影響力を持つ結果となった。学生にとっては、留学先でどのような言語で学べるかということが強い関心事項となっているのであり、留学を検討する際の重要な基準となっているのである。

2007 年には世界の留学生総数の 19.7%をアメリカ、11.6%をイギリス、7.0%をオーストラリア、4.4%をカナダが受け入れているという状況から、依然として英語圏の国々が留学生の受け入れ大国となっていることがわかる (OECD, 2009)。こうした現状からも留学生の英語で学べることへの関心の高さがうかがえる。くわえて、教授言語として英語以外の言語にも高い関心が寄せられていることも特徴的である。本調査では、「英語以外の言語」が具体的に何にあたるのかまでは言及していないため詳細は不明であるが、留学生の言語に関する興味・関心が多様化してきていることは明らかである。

2 点目は、受け入れ国の文化に関する要因が学生の留学への興味・関心に強い影響力をもつことである。受け入れ国の文化が学生にとって興味深いものであることが、その国への留学を促進する要因になりえる。さらに、留学先の文化が学生にとって障壁が少ないものであることを重視する学生ほど、留学への興味・関心は低くなるという結果からは、文化の障壁が留学の阻害要因になりえることがわかる。逆にいえば、文化面で共通性があり障壁の少ない国への留学は抵抗感が少ないことが考えられる。いずれも、受け入れ国の文化が留学の決定の過程で重要な位置付けとなっていることがわかる。

アジア域内での留学生移動が活発化している背景には、アジア諸国間の経済交流の進展やポップ・カルチャーの影響によって、近隣諸国の文化をより身近に感じる機会が増えた影響があると考えられる。

3 点目は、受け入れ機関の評判と教育の質が学生の留学への興味・関心に強い影響力をも

っていることである。学生にとっては、実際の教育の質だけでなく、受け入れ機関がどのような評価を受けているかが重要な判断要因となっている。また、教育の質が留学を決定する要因として影響を与えているのに対して、研究の質の影響は影響力をもたないことが明らかになった。

4点目は、留学にかかるコストに関する要因は学生の留学への興味・関心に影響力をもたないことである。授業料や留学先での生活費等の留学にかかるコストは留学を検討する際に強い影響力をもつことが考えられるが、本調査ではこれらの影響力は認められなかった。こうした結果は、本調査の回答者と実際に留学にかかる費用負担者が異なることによって表れていることが予想される。本調査の回答者は大学学部生、大学院生であり、その平均年齢は21.4歳となっている。そのため、回答者自身が留学費用を負担するケースは少ないと考えられる。その結果、留学にかかる費用と、留学への興味・関心の度合いの間に強い関連性がみられない結果となったことが推察される。

5点目は、政治的・経済的な要因が留学への興味・関心に与える影響力がそれほど大きくないことである。学生を送り出す国にとっての政治的な重要性の影響力は見られたものの、送り出し国と受け入れ国の経済的な要因や受け入れ国の政治的な要因は影響しないことが明らかになった。

以上の5点が、「A-Vision サーベイ」の調査結果から明らかになった特徴である。

## 5. おわりに

本稿では、「A-Vision サーベイ」の調査結果を用いて留学の選択に影響を与える要因の分析を行った。推定結果からは、学生は留学を考える際に、教授言語や教育の質といった留学によって得られる教育の内容に関する事柄のほかに受け入れ国の文化や受け入れ機関の評判といった事柄の影響を受けることが示された。各国の政府や教育機関が留学生政策を強化している中、教育を受ける側である学生自身がどのようなことを重視しどのような事柄の影響を受けながら留学を選択しているのかを知ることは、教育を提供する側である政府や教育機関にとっても有益であると考えられる。

しかし、本稿にはいくつかの課題も残されている。まず、本調査の調査結果は大学学部生、大学院生が混在した状態でまとめられている。しかし、留学を選択する際の観点は大学学部生と大学院生では異なる可能性が高い。2つを分けて分析することによって、より詳細な影響要因を示すことができると考えられる。

さらに、本稿の分析では所得水準に関する条件が細分化されていない。本稿では留学にかかるコストは留学の選択に影響をもたないという結果が導き出されたが、所得水準を考慮することでより構造的な検証が可能となる。

これらの残された課題については別稿での議論とする。

### 【参考文献】

太田浩 (2008) 「アジアの外国人留学生政策と諸課題～シンガポールと韓国を事例に～」『アジア研究』54 (4) , pp. 26-43

杉村美紀 (2008) 「アジアにおける留学生政策と留学生移動」『アジア研究』54 (4) , pp. 10-25

平野健一郎 (2008) 「新しいアジアの留学生地図とその意味」『アジア研究』54 (4) , pp. 3-9

Knight, Jane (2008) *Higher Education in Turmoil*, Sense Publishers

OECD(2009)*Education at a Glance : 2009*, Paris:OECD

Asia-Vision Survey

「両親の社会的特性と子どもの価値観形成の関係性について」

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

修士2年 川口 純

## 目次

1. はじめに
2. 分析方法
3. 分析結果
  - 3-1. 親の学歴と経済的所得の関係性
  - 3-2. 子どもが感じている親の期待
  - 3-3. 子どもが家庭で学ぶべきと感じている教育徳目
4. 考察
5. おわりに
6. 参考文献一覧

## 1. はじめに

本稿は、2009年秋に早稲田大学で実施された「Asia-Vision サーベイ」により収集されたデータを基に、学生の価値観について分析し、考察を加えたものである。当該調査は、アジアにおける学生の相互理解を深めるために、学生を対象とした意識調査として実施された。本稿は、数ある調査項目の中でも、学生が持つ価値観に関する設問に着目し、親の社会的特性と子どもの価値観形成の関係性について、調査結果に基づき、データ分析を実施した。

調査の中では、子どもが持つ多様な価値観の中でも、教育・結婚・就職といった人生設計の根幹に関わる事項を中心に、調査項目が設定されている。調査方法としては、学生自身に、「子どもの時に親から期待されていたと思われる身に付けるべき価値観」や「家庭で学ぶべきとされる教育的徳目」を尋ねている。そのため、本分析結果は、厳密には、実際に親が子どもに習得して欲しいと考えていた価値観ではなく、子ども側が感じていた、親が期待する価値観を示したものである。

子どもは、日々の生活の中で、親が意図的・無意図的に子どもが習得することを期待する価値観を統合し、感受していると考えられる。そして、子どもが自意識の中であれ、無意識の中であれ、感受した「親の期待する価値観」は、大きく本人の価値観形成に寄与するものと考えられる。本稿では、「子どもが感受している親の期待する価値観は、親の社会的特性によって大きく異なっているのではないか」という仮説を立て、分析を実施した。

更に、分析結果を基に、近代化が進み、物質的・経済的に豊かになっているアジア諸国において、アジアにおける若い世代の価値観形成が、今後、どのような変化を見せるのか、推測と考察を加えていく。

## 2. 分析方法

まず、親の社会的特性を明らかにするために、両親の学歴や経済状況について便宜的に分類した。学歴に関しては、父親と母親のそれぞれの最終学歴に関する直接の設問が設けられているため、その回答を直接、採用した。両親の経済状況に関しては、直接、家庭の収入を問う設問は設けられていないため、次の方法で便宜的に分類した。学生に大学受験の際に、家庭内にあった所有物(家財道具や株券)\*1を問う設問がある。その所有物の数により、経済所得区分を低所得・中所得・高所得の3区分にした。以下の表が、本稿で便宜的に設定した所有物の数と経済所得区分の分類である。

表 1. 家庭の所有物による経済所得区分

所有物の数	所有物による経済所得区分
0~4	低所得
5~9	中所得
10~13	高所得

親の最終学歴と家庭の経済所得区分に関する分析を試みた後、親の社会的特性が子どもの価値観

<sup>1</sup> 持ち家、自動車、ピアノ、楽器、文学全集、テレビ、別荘、パソコン、建物・土地、株券・債権、美術品・骨董品、書斎の13項目

形成にどのような影響を与えているのか、その関係性について分析し、考察を加えた。

### 3. 分析結果

#### 3-1. 親の学歴と経済的所得の関係性

まず、父親の最終学歴と家庭の経済所得区分の関係性について述べる。従来、教育収益率分析を用いた、学歴と収入の関係性を研究した既存研究によると、学歴が高くなるに従って、所得もなだらかに上昇すると考えられている(例えば G.Psacharopoulos 1994 や H.Patrisons 2006, H.Patrisons ら 2009)。しかしながら、本分析においては、父親の最終学歴と家庭の経済所得区分を分類すると表 2 の様な結果になった。

表 2. 父親の最終学歴と家庭の経済所得区分の関係性

	低所得	中所得	高所得	計
1. 小学校	57%	36%	7%	100% (N=14)
2. 中学校	63%	35%	2%	100% (N=48)
3. 高校	47%	52%	1%	100% (N=408)
4. 実業学校	47%	53%	0%	100% (N=30)
5. 短大・高専	32%	65%	3%	100% (N=81)
6. 大学	33%	63%	4%	100% (N=824)
7. 大学院	27%	63%	10%	100% (N=78)

N=1564

表の見方としては、小学校が最終学歴の父親の中で、低所得に分類される人の割合が、57%、中所得が 36%、高所得が 7%という様になっている。

本分析でも、先行研究と同様に、父親の学歴が上昇すると、それに伴い、家庭の所得も上昇すると考えられる。しかしながら、その上昇率はサカロポロスやパトリノスが示す様な、学歴の上昇に伴いつつ、なだらかな収益率の上昇曲線を示しているかと言えば、必ずしも曲線を示していないと判断できる。では、本分析結果からは、どのような収益率傾向が読み取れるのだろうか。

まず、上記の結果から、所得の上昇傾向を学歴によって、以下の 3 段階(集団)に分類することが出来る。小学校と中学校で 1 つの集団、そして、高校と実業学校で 1 つの集団、更に、高校以上でもう 1 つの集団である。各集団内においては、学歴の上昇が、所得の向上に繋がっているとは言えない。つまり、学歴の上昇に伴って、曲線的に所得は上昇するのではなく、段階的(集団毎)に所得が上昇していると判断することが出来る。

同様に、母親の最終学歴と家庭の経済所得区分の関係性においても、学歴段階毎に所得が上昇していることが判明した。結果は、表 3 に示した通りである。

表 3. 母親の最終学歴と家庭の経済所得区分の関係性

	低所得	中所得	高所得	計
1. 小学校	73%	18%	9%	100% (N=11)
2. 中学校	73%	23%	0%	100% (N=26)
3. 高校	45%	53%	2%	100% (N=571)
4. 実業学校	25%	71%	4%	100% (N=24)
5. 短大・高専	31%	65%	4%	100% (N=436)
6. 大学	33%	63%	4%	100% (N=381)
7. 大学院	35%	65%	0%	100% (N=20)

N=1754

母親の場合も父親の場合と同様に、学歴の区分は3集団に分類される。しかし、その内訳は父親の際とは少し異なる。小学校と中学校で1集団、高校は1つの独立した集団、それ以上で1集団と考えられる。その集団内では、学歴の上昇が、所得の上昇に寄与しているとは言えない。つまり、従来の教育収益率分析で述べられている様な、なだらかな収益率の上昇曲線を描くことは、本分析結果からは出来ない。この結果から、教育収益率を分析する際には、個別の事例を注意深く検証する必要があるという示唆を得られる。そして、マクロレベルのみで、教育収益率を算出することの限界を示していることにもなる。

また、上記の2つの表(表2と表3)によると、父親、母親共に、集団の学歴が上昇すると共に、所得が増加する傾向にあるということは、確認出来る。しかしながら、その内訳は、低所得者層が減少し、中所得者層が増加するのみであり、高所得者層が増加するわけではないことが読み取れる。

尚、父親と母親共に、学歴と所得の関係については、正の相関関係を示したものの、相関係数<sup>\*2</sup>は、母親の方が、父親よりも強く出現した。

### 3-2. 子どもが感じている親の期待

本項では、子どもが感じている親の期待について分析結果を述べる。まず、回答を男女別に分類し、それぞれの項目における回答割合を示す。その後、男女別に分類したデータに、前項で示した親の経済的所得別区分を加えて、分析結果を示す。

表4は、男女別に子どもが感受している親の期待を項目毎に示したものである<sup>\*3</sup>。

表 4. 子どもが感じている親の期待(男女別)

	息子に対して	娘に対して
1. 偉大な学者になること	1.05%	0.22%
2. 権力ある政治リーダーになること	1.33%	0.19%

<sup>2</sup> 父親の学歴と所得の相関係数(0.223)に対して母親は(0.362)であった。

<sup>3</sup> 設問では、上記の項目からそれぞれの性別で2つまで選択出来る。

3. 経済的に大変豊かになること	11.61%	5.39%
4. 愛情あふれる慈悲深い人になること	28.50%	34.20%
5. 大衆に尊敬される人になること	14.14%	6.61%
6. 親や保護者よりも優れた専門家になること	2.56%	1.45%
7. 親や保護者の跡を継ぐこと	2.04%	0.34%
8. 家族を世話する人になること	5.66%	5.81%
9. よい結婚相手を見つけること	4.89%	16.94%
10. 精神的に満たされること	18.19%	18.55%
計	100%	100%

息子 N=1561 , 娘 =1442

全体としては、「愛情あふれる慈悲深い人になること」が重要だと感じている回答者が、最も多いことが分かる。女性では、全体の 35%を占めている。以下、男性では、「精神的に満たされること(18.19%)」、「大衆から尊敬される人になること(14.14%)」、「経済的に豊かになること(11.61%)」と続く。女性では、「精神的に満たされること(18.55%)」、「よい結婚相手を見つけること(16.94%)」となっている。

次に、親の所得区分毎に、子どもが感受している親の期待を分類した。以下の表 5 は、息子が感じている親の期待である。

表 5. 息子が感じている親の期待(家庭の所得別)

	息子に対して			
	全体	低所得	中所得	高所得
1. 偉大な学者になること	1.05%	1.38%	0.82%	0%
2. 権力ある政治リーダーになること	1.33%	1.54%	1.31%	0.38%
<b>3. 経済的に大変豊かになること</b>	11.61%	<b>10.9%</b>	<b>11.89%</b>	<b>14.1%</b>
<b>4. 愛情あふれる慈悲深い人になること</b>	28.50%	<b>29.07%</b>	<b>28.30%</b>	<b>24.05%</b>
5. 大衆に尊敬される人になること	14.14%	13.35%	14.83%	14.1%
6. 親や保護者よりも優れた専門家になること	2.56%	2.93%	2.22%	3.79%
7. 親や保護者の跡を継ぐこと	2.04%	1.95%	2.09%	0.25%
8. 家族を世話する人になること	5.66%	5.71%	5.62%	3.79%
<b>9. よい結婚相手を見つけること</b>	4.89%	<b>5.61%</b>	<b>4.24%</b>	<b>2.53%</b>
10. 精神的に満たされること	18.19%	17.18%	19.01%	19.23%

N=1561

特徴的な点は、所得が上昇する毎に、愛情の側面が軽視され、経済的な観点が大きな割合を占める点である。また「よい結婚相手を見つけること」も、高所得層になるにつれて、徐々に重視されなくなることが、窺える。その他の項目では、高所得者層においては、家の中での個人としての役割よりも、

社会全体を意識した項目が、優先順位が高くなる傾向を示している。

次に、家庭の所得別に分類した、娘が感じている親の期待である。分析結果は、表 6 に示した。

表 6. 娘が感じている親の期待(家庭の所得別)

	娘に対して			
	全体	低所得	中所得	高所得
1. 偉大な学者になること	0.22%	0.27%	0.20%	0%
2. 権力ある政治リーダーになること	0.19%	0.27%	1.31%	0%
3. 経済的に大変豊かになること	5.39%	<b>5.27%</b>	<b>5.24%</b>	<b>8.64%</b>
4. 愛情あふれる慈悲深い人になること	34.20%	<b>36.21%</b>	<b>34.77%</b>	<b>26.92%</b>
5. 大衆に尊敬される人になること	6.61%	5.27%	7.69%	6.17%
6. 親や保護者よりも優れた専門家になること	1.45%	1.27%	1.61%	0.12%
7. 親や保護者の跡を継ぐこと	0.34%	0.27%	0.34%	0.12%
8. 家族を世話する人になること	5.81%	6.05%	5.36%	9.27%
9. よい結婚相手を見つけること	16.94%	<b>18.2%</b>	<b>16.23%</b>	<b>13.58%</b>
10. 精神的に満たされること	18.55%	18.19%	18.81%	19.75%

娘 = 1442

娘が感じている親の期待に関しても、息子の場合とほぼ同様の傾向が見られた。中でも「経済的豊かさを得ること」、「よい結婚相手を見つけること」という項目に関しては、その変化の割合が息子の変化よりも顕著に出現している。その他の項目に関しては、「家族を世話する人になること」という項目で、所得間で多少のばらつきはあるものの、全体的に所得間の差異は見られない。また、全体、男女別、所得別、全ての分類において、「精神的に満たされること」という価値観が、経済的豊かさよりも上位に来ている。そして、家庭の所得状況に関わらず、常に 20% 近くの人が「精神的充足」が重要な価値観だと考えていることが分かる。

### 3-3. 子どもが家庭で学ぶべきと感じている教育徳目

最後に、子どもが家庭で学ぶべきだと、感じている教育的徳目についての分析結果である\*4。本項目に関しても、表 7 の様に家庭の所得別に分類した。

\*4 設問では、回答者が重要だと思うもの 2 つまで選択出来る。

表 7. 子どもに家庭で習得して欲しい教育的徳目(家庭の所得別)

	全体	低所得	中所得	高所得
1. 自立・独立	19.58%	20.61%	18.51%	23.86%
2. 勤勉	5.07%	4.68%	5.37%	5.68%
3. 正直	14.57%	14.01%	14.88%	14.77%
4. 誠実	27.15%	26.13%	28.01%	29.55%
5. 注意深さ	1.93%	1.90%	1.95%	1.14%
<b>6. 謙虚さ</b>	<b>8.88%</b>	<b>8.81%</b>	<b>9.12%</b>	<b>5.68%</b>
7. 信心深さ	2.93%	2.91%	2.93%	3.41%
8. 忍耐力	13.34%	13.31%	13.57%	9.09%
9. 競争力	2.43%	3.25%	1.90%	0%
10.お年寄りに対する尊厳	3.58%	3.58%	3.42%	6.82%
<b>11.教師に対する尊厳</b>	<b>0.53%</b>	<b>0.25%</b>	<b>0.33%</b>	<b>0%</b>

N=1710

まず、顕著な結果として、「教師に対する尊厳」を家庭で学ぶべきだと回答した対象者は、ほぼ皆無である。全体を通して分類した結果でも、所得別に分類した際でも、全てにおいて 1%未満の回答者のみが、学ぶべき優先事項と挙げている。所得別に分類した際に、1 番大きな差異が出現しているのは、「謙虚さ」である。高所得になればなる程、謙虚さが相対的に軽視されていることが窺える。

#### 4. 考察

まず、親の学歴と経済力に関する点について考察する。既存研究において、繰り返し言及されているが、学歴が高度化するに伴い、所得も上昇傾向にあることが、本分析でも実証された。しかし、学歴が所得に影響する層は、低所得者層と中所得者層のみで、高所得者層に関しては、学歴は有意に影響していないことも判明した。本結果から、人的資本としての労働者の育成という観点を踏まえ、高学歴であればある程、仕事のパフォーマンスが高い人材を養成することが出来るということが窺える。その一方で、会社の役員や社長、成功している自営業主といった高所得者層においては、個人の才能や、パフォーマンスが大きく影響しており、学歴はほとんど意味を為していないという示唆も得た。

次に、子どもが感じている親の期待である。単純に男女別で分類すると、息子に対しては、「経済的

に豊かになること」を重要視し、娘には比較的、優しい人間に育ち、よい結婚をして欲しいという古典的な親の願望が窺えた。しかし、興味深いことには、全体の分類をさらに家庭の所得別に分類すると、様々な傾向が明らかになった。

まず、男女共に、家庭の所得が上昇すれば、子どもが感じる「経済的価値観」の優先順位も上昇することが判明した。そして、反対に、所得が高い家庭に育った子ども程、「愛情溢れる慈悲深い人になること」が重要だとする価値観が、相対的に軽視される傾向が窺えた。

ブルデューの再生産理論に代表される様に、親の所得や社会階層は、教育という再生産機能を通じて、次世代へ大きな影響を与えているという理論があるが、無意図的であれ、意図的であれ、親の経済的価値観を子どもは敏感に感じ取っている事が、読み取れた。

そして、所得が低い層程、結婚に対して強い期待と関心を持っていることが窺えた。本分析結果は、先進国で、結婚率が低下し、途上国では比較的結婚率が高いという世界の現状に適合している。つまり、経済的に豊かになると、パートナーに頼るのではなく、自分自身で経済力を確保し、自立しようという想いが強くなると考えられる。この様な結果は、現在、経済発展が目覚ましいアジア諸国において、今後、結婚率が低下することを予測させる。しかし、その一方で、「精神的に満たされることが重要」と考えている回答者は非常に多かった。この回答傾向は、ある意味矛盾しているとも言える。回答者は、20代前半を中心とした学生であるために、精神的充足をもたらすものは、経済的豊かさであるという考えに陥り易いのではないだろうか。しかし、実際に人生を長期的な視野で捉えた場合、老後の精神的充足をもたらすのは、よい結婚相手であり、家族が重要な位置を占めることは否定出来ない。

また、表 7 の結果からは、所得が高い層になるにつれ、徐々に他者に対する謙虚さ、思いやりが失われていくと推測される。他者との関わりを疎んじ、個人主義、経済中心主義が、今後アジアで広まるのではないかと、という悲観的な予測も成り立つ。

上記の様な社会変化を予測し、今後益々、教育場面において、学力増進のみならず、人間形成に関する領域が注視されるべきであろう。

## 5. おわりに

本稿では、親の所得を中心とした社会的特性と子どもの価値観形成について、考察してきた。しかしながら、実際の子どもの価値観形成には、当人の国や宗教、社会、文化といった様々な要因に大きく影響され、親の所得は、その中の 1 つに過ぎない。他の要因を考慮した子どもの価値観形成に関する研究を今後の課題としたい。

## 6. 参考文献一覧

猪口孝編 2007 年「アジア・バロメーター躍動するアジアの価値観 アジア世論調査(2004)の分析と資料」明石書店

ブルデュー&パスロン著 宮島喬訳 2001 年「教育・社会・文化 再生産」藤原書店

ブルデュー著 丸山茂他訳 2007 年「結婚戦略 家族と階級の再生産」藤原書店

H. Patrinos and C. Sakellariou (2006). "Economic Volatility and Returns to Education in Venezuela." *Applied*

*Economics* 38 (17), pp. 1991-2005.

H. Patrinos, C. Ridaio-Cano and C. Sakellariou (2009). "A note on schooling and wage inequality in the public and private sector." *Empirical Economics*, Vol. 37 (2):383-392.

Psacharopoulos (1994) Return to Investment in Education: A Global Update. *World Development* 22 (9):1325-43

「アジア地域統合」に関する帰属意識とそれに影響を及ぼす要因について  
—順序プロビットモデルによる男女別の検討—

上見郁子

## 1. 研究背景

ヨーロッパ地域統合ではヨーロッパ人意識の形成が重要だったと言われている。先行研究では、ヨーロッパの例から類推し、アジアでも「アジア地域統合」のために「アジア人意識」<sup>5</sup>が必要であると指摘されることがある。そして、アジアでは共通のアイデンティティが確立されていないことが「アジア地域統合」への障害になっていると言われている。

複数の国と地域を対象とした「アジア人意識」に関する先行研究は、「アジア人意識」に影響を及ぼすいくつかの要因を挙げている。しかし、日本に限っては、「アジア人意識」が他の国や地域よりも低く、また、「アジア人意識」に影響を及ぼす要因も明らかになっていない。

## 2. 研究目的

本稿は、先行研究で「アジア人意識」に影響を及ぼす要因が明らかにならなかった日本を対象地域とし、大学生(学部)、大学院生(修士課程、博士課程)を対象とし、以下の2つについて検討する。一つ目は、「アジア地域統合」はどのような帰属意識と関係があるのかを明らかにすることである。アジアでも「アジア地域統合」と「アジア人意識」は関係があるかどうかを検討する。また、ほかに関係のある帰属意識があるかどうかも検討する。2つ目は、「アジア地域統合」と関係する帰属意識に影響を及ぼす要因を明らかにすることである。先行研究で挙げられた要因と新たに加えた要因について検討する。

## 3. 先行研究

ヨーロッパ人意識がヨーロッパ地域統合にとって重要であったため、複数の先行研究は、アジア地域統合に必要なもののひとつとして「アジア人意識」が形成されているかどうか注目している。

福島安紀子、岡部美砂(2007)は、2004年のアジア・バロメーターの資料を用い、カンボジア、ベトナム、フィリピン、タイ、ミャンマー、シンガポール、ブルネイ、マレーシア、韓国、ラオス、インドネシア、日本の12カ国を対象に、自分を「アジア人」とみなす『「アジア人」意識』(p.375)について検討している。これらの国のうちもっとも『「アジア人」意識』が低かった日本に関して、その要因は英語を流暢に話せるかどうかに関係していると指摘している。また、年齢別の『「アジア人」意識』では、若い世代で『「アジア人」意識』が強まっている傾向があると述べている。一方、宗教は『「アジア人」意識』とは無関係であるとしている。

園田茂人(2007a)は、同じく2004年のアジア・バロメーターの資料を用い、旧英米植民地(マレーシア、シンガポール、フィリピン、ブルネイ)と旧英米植民地以外(日本、韓国、中国、タイ、ベトナム、インドネシア)に分け、「新中間層」<sup>6</sup>の「アジア人アイデンティティ」(p.293)について分析している。「新中間層」は「労働者層」と比較すると、英語の能力が高い、インターネットの利用に熱心である、グローバルゼーションへの接触度が大きくなっている、という特徴がある。このうち、旧英米植民地では「新中間層」は英語の能力が高いほど「アジア人アイデンティティ」を持つ傾向が見られるが、旧英米植民地以外で

<sup>5</sup> 先行研究においては「アジア人意識」や「アジア人アイデンティティ」など複数の表現があるが、本稿では「私はアジア人である」ということを「アジア人意識」として統一して表記する。

<sup>6</sup> 「新中間層」は「上級管理職」「雇用された専門職」「事務職」によって構成されると操作的に定義している(園田2007a、p.289)

はこれらは無関係である。旧英米植民地以外では「新中間層」はインターネットの利用に熱心であるほど「アジア人アイデンティティ」を持たない傾向がみられるが、旧英米植民地ではこれらは無関係である。

さらに園田(2007b)は、アジア・バロメーターの資料を用い、2006年の日本、韓国、中国、ベトナム、シンガポール、2005年のモンゴル、2004年のフィリピン、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー、マレーシア、インドネシア、香港、台湾の16の国と地域を対象に、「アジア人意識(Asian Consciousness)」(p.1)について分析している。「アジア人意識」の有無を決定する要因として、グローバリゼーションへの接触度、自国民としての誇り、英語能力を上げている。これら3つそれぞれが高まると、「アジア人意識」も高まる傾向がある。しかし、自国民としての誇りと「アジア人意識」の有無について統計的に有意な関係を見出せない国や地域もある。その一つとして、2004年のアジア・バロメーターで「アジア人意識」が最も低かった日本を取り上げている。日本はグローバリゼーションへの接触度、自国民としての誇り、英語能力、世代は、「アジア人意識」の有無について統計的に有意な結果を示さなかった。

そこで本稿では、先行研究で「アジア人意識」の有無を決定する要因が不明だった日本を対象地域とし、対象を学生とする。「アジア人意識」の有無を決定する要因の候補として、先行研究と同様に、世代の代わりに年齢、自国民としての誇り、英語能力、インターネットの利用を使用する。また、新たに、性別、偏差値、他国文化に対する優越感、愛国心教育を要因の候補とする。なお、グローバリゼーションへの接触度はAsia-Visionに該当する設問がなかったため使用できない。

#### 4. 研究方法

本稿で使用するデータは、早稲田大学「アジア地域統合のための世界的人材育成拠点(GIARI)」が2009年11月、12月に学生を対象に実施した「Asia-Vision サーベイ 学生の意識に関する国際比較調査」の日本語質問票のデータである。対象は大学生(学部)、大学院生(修士課程、博士課程)である。

まず、「アジア地域統合」に対する立場と帰属意識の関係を順序プロビットモデルで推計する。被説明変数は「アジア地域統合(問36)」を使用し、変数は「アジア地域統合」に対して「1.大変同意する」、「2.概ね同意できる」、「3.あまり同意できない」、「4.全く同意できない」の4段階の回答を使用する。なお、「9.わからない」はデータからはずした。説明変数は、以下の5つである。「世界市民意識」は「私は世界市民である(問25.1)」を使用し、「アジア人意識」は「私はアジア人である(問25.2)」を使用し、「xx国人<sup>7</sup>」は「私はxx国人である(問25.3)」を使用し、「コミュニティ帰属意識」は「私は地元のコミュニティに属している意識がある(問25.4)」を使用し、「エスニシティ帰属意識」は「私は国籍よりも民族や人種によるアイデンティティのほうが大きい(問25.5)」を使用する。変数は「1.非常に同意する」、「2.同意する」、「3.どちらでもない」、「4.同意しない」、「5.全く同意しない」の5段階の回答を使用する。

次に、「アジア地域統合」に関係のある帰属意識を被説明変数とし、帰属意識を決定する要因を順序プロビットモデルで推計する。説明変数として先行研究と同様のものは以下の4つである。世代の代わりに「年齢(問F2)」を使用し、対象は17歳から61歳である。「英語能力(問F4)」は「1.流ちょうに会話ができる」、「2.日常会話程度なら大丈夫」、「3.あまり話せない」、「4.ほとんど話すことが出来ない」の4

<sup>7</sup> xxには国籍が入る。

段階の回答を使用する。なお、「5.わからない」はデータからはずした。「ネットダミー」は「インターネット、電子メールの情報(問 43.6)」を使用し、「1.先週利用した」、「0.先週利用しなかった」とした。「自国民としての誇り(問 24)」は「1.非常に感じる」、「2.それなりに感じる」、「3.あまり感じない」、「4.全く感じない」の4段階の回答を使用する。なお、「9.わからない」はデータからはずした。さらに新たに、以下の4つを説明変数として使用する。「他国文化に対する優越感」は「私の国の文化は、他の国よりも優れている(問 25.6)」を使用し、「愛国心教育」は「愛国心を養う教育を行うべきである(問 25.7)」を使用し、「1.非常に同意する」、「2.同意する」、「3.どちらでもない」、「4.同意しない」、「5.全く同意しない」の5段階の回答を使用する。「偏差値」情報は「所属大学と学部名(問 F3)」を使用し、「1.偏差値 45 以下」、「2.偏差値 46 以上 50 以下」、「3.偏差値 51 以上 55 以下」、「4.偏差値 56 以上 60 以下」、「5.偏差値 61 以上」の5段階とする。「男性ダミー」は「性別(問 F1)」を使用し、「1.男性」、「0.女性」とする。男女比<sup>8</sup>は男性 66.3%、女性 33.4%である。帰属意識を決定する要因については、男女全体、男性、女性に分けて検討する。なお、先行研究で使用していた「グローバリゼーションへの接触度」は Asia-Vision に該当する設問がなかったため使用できなかった。

## 5. 結果

### (1)「アジア地域統合」に対する立場と帰属意識

表 1 は、「アジア地域統合」に対する立場を被説明変数とし、「世界市民意識」、「アジア人意識」、「エスニシティ帰属意識」、「xx 国人」、「コミュニティ帰属意識」の 5 つを説明変数とし、順序プロビットモデルで推計した結果である。

表1 「アジア地域統合」に関係する帰属意識：順序プロビットモデルでの推計結果

被説明変数「アジア地域統合」 説明変数	係数	標準誤差	有意
世界市民意識	0.161	0.028	***
アジア人意識	0.169	0.034	***
エスニシティ帰属意識	-0.007	0.029	
xx国人	0.016	0.032	
コミュニティ帰属意識	0.025	0.026	
Prob > chi2		0.000	
対数尤度		107.31	
擬似決定係数		0.032	
サンプル数		1489	

(注)\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的に有意であることを示す。

「世界市民意識」と「アジア人意識」を持つほど「アジア地域統合」に肯定的な立場を取ることが、1%水準で統計的に有意であった。先行研究ではヨーロッパ人意識がヨーロッパ地域統合にとって重要であったため、「アジア地域統合」に必要なもののひとつとして「アジア人意識」に注目していたが、統計

<sup>8</sup> 総務省統計局による大学・大学院の学生数の男女比は男性 60%、女性 40%である。「22-12 高等専門学校・短期大学・大学・大学院の学科別学生数」『日本の統計 2009』総務省統計局刊行、総務省統計研修所編集、2009年3月、p.318、<http://www.stat.go.jp/data/nihon/pdf/n2200000.pdf>、2010年3月5日アクセス。

的にも有意であることが明らかになった。しかし、係数の大きさから見て、「世界市民意識」も「アジア人意識」と同程度の説得力を持っている。

### (2)「世界市民意識」に影響を及ぼす要因

表 2 は「世界市民意識」を被説明変数とし、それらを決定する要因として「男性ダミー」、「年齢」、「英語能力」、「ネットダミー」、「自国民としての誇り」、「他国文化に対する優越感」、「愛国心教育」、「偏差値」の 8 つを説明変数とし、順序プロビットモデルで推計した結果である。

まず、女性のほうが「世界市民意識」を持っていることが 1%水準で統計的に有意だった。そこで、男女全体、男性、女性と分けて分析することにする。

表2 「世界市民意識」に影響を及ぼす要因：順序プロビットモデルでの推計結果

被説明変数:「世界市民意識」 説明変数	男女全体			男性			女性		
	係数	標準誤差	有意	係数	標準誤差	有意	係数	標準誤差	有意
男性ダミー	0.287	0.059	***						
年齢	-0.020	0.009	**	-0.022	0.011	*	-0.014	0.013	
英語能力	0.237	0.037	***	0.224	0.045	***	0.242	0.065	***
インターネットの利用	-0.059	0.093		-0.089	0.110		0.040	0.171	
自国民としての誇り	0.078	0.039	**	0.048	0.045		0.196	0.077	**
他国文化に対する優越感	-0.053	0.028	*	-0.028	0.033		-0.111	0.053	**
愛国心教育	0.035	0.027		0.015	0.032		0.087	0.054	
偏差値	0.067	0.024	***	0.098	0.028	***	-0.051	0.048	
Prob > chi2		0.000			0.000			0.000	
対数尤度		91.96			36.24			44.94	
擬似決定係数		0.021			0.012			0.034	
サンプル数		1483			986			497	

(注)\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的に有意であることを示す。

男女全体、男性、女性ともに統計的に有意だったものは、「英語能力」が高いほど「世界市民意識」を持つようになることのみだった。これは先行研究で指摘されている「アジア人意識」に影響を及ぼす要因と同じである。

「年齢」が高いほど「世界市民意識」を持つようになることが、男女全体において 5%水準で、男性において 10%水準で統計的に有意だった。「自国に対する誇り」を持っているほど「アジア人意識」を持つようになることが、男女全体と女性において 5%水準で統計的に有意だった。「他国文化に対する優越感」が低いほど「世界市民意識」を持つようになることが、男女全体において 10%水準で、女性において 5%水準で統計的に有意だった。「偏差値」が低くなるほど「世界市民意識」を持つようになることが、男女全体と男性において 1%水準で統計的に有意であった。

日本の大学生、大学院生の「世界市民意識」に影響を及ぼす要因は男女によって違いがある。男性のみで有意だったのは属性のひとつである「年齢」と能力のひとつである「偏差値」であった。女性のみで有意だったのは信条を表す「自国民としての誇り」と「他国文化に対する優越感」であった。

### (3)「アジア人意識」に影響を及ぼす要因

表 3 は「アジア人意識」を被説明変数とし、それらを決定する要因として「男性ダミー」、「年齢」、「英語能力」、「ネットダミー」、「自国民としての誇り」、「他国文化に対する優越感」、「愛国心教育」、「偏差値」

の8つを説明変数とし、順序プロビットモデルで推計した結果である。

まず、女性のほうが「アジア人意識」を持っていることが1%水準で統計的に有意だった。そこで、男女全体、男性、女性と分けて分析することにする。

表3 「アジア人意識」に影響を及ぼす要因：順序プロビットモデルでの推計結果

被説明変数:「アジア人意識」 説明変数	男女全体			男性			女性		
	係数	標準誤差	有意	係数	標準誤差	有意	係数	標準誤差	有意
男性ダミー	0.375	0.062	***						
年齢	-0.032	0.009	***	-0.037	0.012	***	-0.024	0.014	*
英語能力	0.179	0.038	***	0.239	0.046	***	0.027	0.068	
インターネットの利用	-0.087	0.095		-0.109	0.113		-0.040	0.178	
自国民としての誇り	0.094	0.040	**	0.087	0.046	*	0.099	0.081	
他国文化に対する優越感	-0.013	0.029		0.015	0.034		-0.104	0.056	*
愛国心教育	0.085	0.028	***	0.052	0.033		0.189	0.056	***
偏差値	0.037	0.025		0.057	0.029	**	-0.028	0.050	
Prob > chi2		0.000			0.000			0.001	
対数尤度		110.28			55.98			25.20	
擬似決定係数		0.030			0.022			0.023	
サンプル数		1487			990			497	

(注)\*\*\*は1%、\*\*は5%、\*は10%水準で統計的に有意であることを示す。

男女全体、男性、女性ともに統計的に有意だったものは、「年齢」が高いほど「アジア人意識」を持つようになることのみだった。これは、福島、岡部(2007)が12カ国を対象とし、若い世代で『アジア人』意識が強いと分析したものと逆の結果である。日本の大学生、大学院生に限定し、20代が中心であれば、「年齢」が高いほど「アジア人意識」を持つようになる。

男女全体と男性において、「英語能力」が高いほど「アジア人意識」を持つようになることが1%水準で、「自国に対する誇り」を持っているほど「アジア人意識」を持つようになることが5%水準で統計的に有意だった。男女全体と女性において、「愛国心教育」に賛成であるほど「アジア人意識」を持つようになることが1%水準で統計的に有意であった。さらに、男性のみで「偏差値」が低くなるほど「アジア人意識」を持つようになることが、5%水準で統計的に有意であった。女性のみで「他国に対する優越感」が低くなるほど「アジア人意識」を持つようになることが、10%水準で統計的に有意であった。

園田(2007b)によると、日本全体では、世代、英語能力、自国民としての誇りは「アジア人意識」の有無について統計的に有意な結果を示さなかった。しかし、日本の大学生、大学院生に限ると、「年齢」、「英語能力」、「自国民としての誇り」は統計的に有意な結果を示した。園田(2007a)によると、英米植民地以外である日本の「新中間層」はインターネットを利用しているほど「アジア人意識」を持たない傾向があるが、日本の大学生、大学院生に限ると、「アジア人意識」と「ネットダミー」は無関係である。

男性のみで「偏差値」が、女性のみで「他国に対する優越感」が統計的に有意であったことから、日本の大学生、大学院生の「アジア人意識」に影響を及ぼす要因は男女によって違いがあることが明らかになった。先行研究で挙げられていた「アジア人意識」に影響を及ぼす要因のうち、「年齢」は逆の結果であり、「ネットダミー」は無関係であった。「自国民としての誇り」と「英語能力」はともに、男女全体と男性で有意だったことから、男女全体の結果は、男性の結果に近いことが明らかになった。

## 6. 結論

本稿では日本の大学生、大学院生における「アジア地域統合」に関する帰属意識について検証を行った。推計結果からは、「世界市民意識」と「アジア人意識」が統計的に有意であり、同程度の説得力があることが分かった。「世界市民意識」と「アジア人意識」の両方で、「英語能力」は正の影響がある。「世界市民意識」と「アジア人意識」の両方で、男性のみで「偏差値」が、女性のみで「他国に対する優越感」が統計的に有意であった。男性は個人の能力が、女性は個人の信条が帰属意識に影響を及ぼす。

そして、日本の大学生、大学院生における「アジア人意識」に影響を及ぼす要因を男女別に検討した。その結果、男女によって違いがあることが明らかになった。先行研究で挙げられていた「アジア人意識」に影響を及ぼす 4 つの要因のうち、「年齢」は逆の結果であり、「ネットダム」は無関係であった。「自国民としての誇り」と「英語能力」はともに男女全体と男性で有意であり、男女全体の結果は男性の結果に近いことが明らかになった。

本稿は、日本の大学生、大学院生に限った場合、他国で有意とされた要因を用いると女性の「アジア人意識」の要因を見落とすことが分かった。先行研究で日本の「アジア人意識」に影響を及ぼす要因が明らかにならなかったのは、日本の男女差の大きさが原因のひとつである可能性がある。

本稿では男女に分けて推計したが、大学生、大学院生の専攻別には検討していない。専攻別に検討した場合、男女での違いではなく専攻による違いが出ることも予想される。今後は、大学生、大学院生の専攻別に検討することが必要である。

#### 参考文献

福島安紀子、岡部美砂「東アジアの地域統合への道を探る」猪口孝、田中明彦、園田茂人、ティムール・ダダバエフ編著『アジア・バロメーター 躍動するアジアの価値観—アジア(世論調査 2004)の分析と資料—』明石書店、2007年、371-392頁。

園田茂人「都市中間層の台頭と新たなアイデンティティの形成?」西川潤、平野健一郎『東アジア共同体の構築 3 国際移動と社会変容』岩波書店、2007年 a、287-301頁。

園田茂人「東アジア共同体成立の心理的基盤を探る—アジア人意識への社会的アプローチ—」Global Institute for Asian Regional Integration(GIARI)『GIARI Working Paper Vol.3』Waseda University Global COE program Global Institute for Asian Regional Integration、2007年 b。

# マイクロ計量モデルを用いた 少子化の決定要因の分析

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

国際関係学

4009R075-8

福谷周

## 目次

はじめに.....	128
第1章 少子化とは.....	129
1.1 少子化がもたらす社会問題.....	129
1.2 少子化の現状.....	130
1.3 少子化問題の本質.....	131
第2章 出生意向の決定要因.....	132
2.1 理論的背景.....	132
2.2 夫婦の役割合意の理論.....	132
2.3 妻の仕事と家族の役割の不両立.....	133
第3章 累積ロジットモデルによる出生意向の分析.....	134
3.1 Stata とは.....	134
3.2 二値選択モデル.....	134
3.3 ロジット分析(Logit Analysis).....	135
3.4 最尤法.....	135
3.5 モデルの概要.....	136
3.6 結果.....	138
3.7 考察.....	139
終わりに.....	140
関連図書.....	140

## はじめに

わが国で少子化を促進してきた主な原因については女性の非婚化と晩婚化であるというのが人口学者の結論である。非婚化・晩婚化は急激な少子化を経験してきた韓国や南欧諸国にも当てはまる。日本を含めてこれらの国々は米国や他の西欧諸国に比べ家庭での妻の家事育児の負担度が高く、「家族に優しい」職場環境も比較的整わず、出産による離職後の再就職にハンディの大きい国々でもある。少子化はこういった既婚女性を取り巻く社会環境にも大きく影響される。このような環境下にある日本において、大学生の少子化に対する意識はどのようなものであるのかというのが私の問題意識である。このたび早稲田大学 G-COE「アジア地域統合のための世界的人材育成拠点」では、アジア各国の相互理解の現状、並びに今後の共存の道を模索するべく、学生を対象とした意識調査「Asia-Vision サーベイ」を実施した。既婚者の出生意向などを分析するモデルはこれまでも数多く行われてきたが、学生を対象にした出生意向の分析はまだ事例が少ない。こうした背景下、この統計データを元に、マイクロ計量モデルを用いて学生の少子化に対する意識を分析する。

# 第1章 少子化とは

## 1.1 少子化がもたらす社会問題

少子化は日本的表現であるが英語では「置換水準以下の出生率 (Below Replacement Fertility)」で通常合計特殊出生率TFRが2.1程度以下の場合をいう。各年のTFRはその年の各歳別出生率から推定した女性が一生に産む子供の数の推定値である。現在わが国が経験しているTFR 1.29という少子化は極度のものでこのまま現状が継続すれば様々な社会経済的弊害をもたらす。現在の年齢別の出生率と死亡率のレベルがそのまま継続し移民が無ければ日本人口は2100年には現在の人口のほぼ3分の1の4千万人になると予測されている。過激な人口減少とその結果として起こる逆さピラミッド型の人口分布は、他の条件が同じならば、以下のような様々な社会経済問題を引き起こすと考えられる。

1. 労働力人口比率が下がることにより労働力人口負担が増す。
2. 年金の納付者の比率が低下することにより納付者の年金支払い負担が増し、また年金負担率の世代間格差を生み出す。
3. 国内消費が次第に先細りになり、主として国内消費に依存する生産業者や教育産業や他のサービス産業に打撃を与える。
4. 組織の階層構造はピラミッド型(上位の地位が相対的に少ない)なのに人口が逆ピラミッド型になることにより、年齢に依存しない能力実力主義によって機会が与えられない限り、若者が相対的に社会的に高い地位や影響力を持つ地位を得る可能性が大きく減少し若い世代の社会的上昇意欲を損なわせる。
5. 逆ピラミッド型の人口分布は、高齢の介護必要者の数に比べて介護できる人たちの人口の割合を減少させ、高齢者の介護問題を深刻化させる。(図1参照)
6. 技術革新や学問、芸術、スポーツ国際競技などは比較的少数の秀でた人達によって推進されてきた部分が多いが、人口の絶対数の減少は秀でた才能を持つ人達の出現の可能性を減少させ、これらの活動を低迷化させる。一方少子化に伴う人口減少は、食糧問題や資源・エネルギー問題上は有利と考えられるが、現在の過激なレベルの少子化はそのコストがベネフィットを大きく上回ると考えられる。

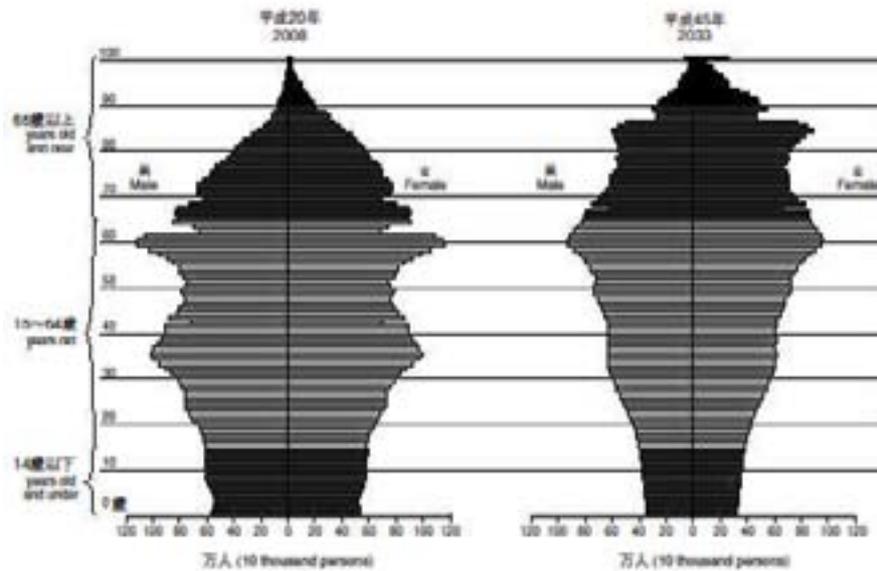


図 1 日本の人口ピラミッド

## 1.2 少子化の現状

少子化傾向の原因の一つとして、晩婚化や非婚化(生涯未婚化)の影響が大きいとされているが、少子化対策を考える上でこの結論は極めて重要である。晩婚化や非婚化が少子化の主な原因であるという議論自体は、それなりに根拠のあるもので十分考慮すべきである。岩澤(2002)が反事実的コーホート出生率シミュレーションモデルを用いて最近の少子化傾向の約7割は結婚行動(非婚化および晩婚化)によるもので残りの約3割がそれと独立な出生行動に基づくと結論している。日本を含むこれらの国々の共通点である晩婚化・非婚化が少子化の原動力という結論を、少子化対策の観点から見ると、女性の結婚行動がまず問題であるという結論に飛躍しかねない。女性の高学歴化や出産育児の機会コスト増加などに伴う晩婚化や、結婚が女性の幸せにとって必須の条件ではなく選択肢の一つに過ぎないという女性の現代的価値観への変化による非婚化傾向を逆転せねばならないとするならば少子化対策は極めて難しいと言える。しかし現代の学生意識を変えることができればそれは、十分に少子化対策に有効となる。一例をあげれば、民主党の掲げる子ども手当である。15歳以下の子どもの保護者に対し手当を支給することを主な内容とする。15歳の4月1日の前日までの子どもの保護者に毎月2万6千円を支給する予定である。ただし、初年度(2010年度)のみ月1万3千円となる。現在の類似制度には児童手当があるが、児童手当には所得制限があるのに対して子ども手当にはそのような制限はない。しかし、扶養控除・配偶者控除の廃止が示唆されており、15歳以下や公立高校に通う子どもがいない家庭では当然増税となり、子どもがいない専業主婦の世帯、大学生以上の子どもを持つ世帯、子どもが成人し、親の介護のために働けない世帯にとっては大きな痛手になる。

### 1.3 少子化問題の本質

こうした結婚行動重視論は以下の3点で再考の余地があると思われる。

第一に日本、韓国、南欧諸国などは少子化と晩婚化だけでなく、米国や他の西欧の経済的先進国に比べ、家庭内の伝統的分業が強く残り女性にとって就業と家庭の役割の両立が難しく、また有業の母親のための政策支援も不十分という点である。

第二に出生はあくまで女性(あるいは夫婦)の選択行為であり、意志決定の結果であると考えられるが、出生行動は、年齢という生理的な制約はあるものの、その制約の範囲内での意志決定の変化による出生率の変動可能性は大きく、また実際には出生を望みながら様々な理由で実現しない多くの女性がいるという事実である。一方出生を望まない女性はその意図をほぼ実現しているのである。このことは出生を望みながら実現できない女性に対しその障害がとり除かれれば出生率が高まることを示唆する。

第三に結婚行動や出生行動は、他の社会行動と同様社会的伝播行動で人々の行動は互いに影響し合い、個人の行動モデルでは説明できない点である。本論文では、出生行動の伝播に直接関連した分析を提示することで、少子化対策への可能性としてその問題点を議論する。

## 第2章 出生意向の決定要因

### 2.1 理論的背景

少子化問題を考える際に重要となるのは、意志と行動の区別である。そして統計データの出生意向が選好を意味するのか、あるいは社会的制約下での態度を表すものなのかということを考える必要がある。ここでは「行動に理論的に影響すると考えられる要因は意向にも影響し、意向は行動予定を意味する」との仮定をおき、議論する。

出生についての経済学理論(Becker 1960, 1981; Becker and Lewis 1973)では、子供を他と同様消費財と考え通常出生行動は以下の4要素の結果であると考えられている。第1は予算制約である。これは通常家族収入で測る。第2は子供にかかるコストであるが通常の財と異なり費用は $\pi NQ$ で表される。ここで $N$ は子供の数であり、 $Q$ は子供の「質」であって子供一人当たりにかかる予定の出費を意味する。収入が高いと親は子供一人当たりにより高い教育費や養育費を出費する傾向が見られるので $\partial Q/\partial I > 0$ と仮定されている。 $\pi$ は子供1人当たり質1単位当たりの価格であるが、与えられた社会的制度の基で例えば初等・中等教育や高等教育にどれほど費用がかかるかになどに依存するが、その大きさは第3番目の要素である出産と育児の機会コストにも依存する。ここで機会コストは出産と子育てをすることで失われるであろう収入や時間が他に振り向けられれば得られたであろう期待収入で、収入が高ければ機会コストも高い。第4番目は子供から得る効用であるが、これは $N$ と $Q$ の双方に依存し正常財として、効用は $N$ および $Q$ の単調増加関数と考えられている。

これらのモデルで収入の影響については、直接の収入効果に加えて収入に伴って大きくなる質のコストの効果がある。「質の価格」は $Q_p = \pi N$ で与えられるのでこれは子供の数に比例して大きくなる。収入効果が子供の数に依存しないのに、価格効果は子供が増えると増大するので、収入と子供の数との効用への負の交互作用が導かれ( $\partial Q/\partial I$ が $N$ の増加と共に減少し)、高収入は例えば第1子目の出生率には(収入効果が価格効果を上回って)正の効果を与えるが、第3子目やそれ以降の多産傾向には(価格効果が収入効果を上回って)負の効果を与えると期待されている。

### 2.2 夫婦の役割合意の理論

既婚夫婦の出生について子供は夫婦にとっての集合財(collective goods)であるとみると妻からみて夫の「ただ乗り」は出生意欲を減少させると考えられる。夫婦の間で家族形成の合意があることが出生の大きな条件となる。この合意については理想的には二つの異なったタイプが考えられる。一つは、「伝統的役割合意」である。即ち夫は家計収入を支え妻は家事育児に専念するという合意である。もう一つは「非伝統的役割合意」である。これは夫も妻も共に経済的役割も家事育児の役割も担うという合意である。非伝統的役割合意のもとで夫婦が同じ役割を持つと夫婦の機能が代替的になる。このことは夫婦の絆を弱めかねないので夫婦の補完性を高めるために、会話や家庭内協業や共有体験を通して役割を協力分担しサポートしあっているという確認が必要になる。少子化は、高学歴化などに伴う前述した子供の質のコストの増大とともに、伝統的役割合意が崩れる一方、非伝統的役割合意が未成熟であることが一つの大きな原因であると考えられる。伝統的役割合意が崩れるのは離婚率の増大や女性の高学歴化な

どによる出産・育児の機会コストの増大、またわが国の場合には夫の就業継続の不確定性の増大、などが要因として考えられる。一方非伝統的役割合意は通常、家事育児分担率の夫婦平等度や、夫婦の会話や他の共有行動の多さやその時間の大きさを測られるが、わが国の場合後述するように夫の家事育児分担度はほとんど一様にといいほど低い。そのような状況では非伝統的役割合意は基本的に成り立たず、また妻のそういった合意への期待もほとんど無いと考えられる。

## 2.3 妻の仕事と家族の役割の不両立

夫婦の状況以外に、出生意向や出生態度に次に大きく影響すると考えられるものは妻の就業状態と育児に関する職場環境である。本論文では、学生を対象とした調査のため、両親の就業状態にのみ着目することにする。一般に女性の就業参加が少子化を促進したという説があるが、実証的根拠は少ない。わが国の既婚女性の就業率は平均的には歴史的に変化がほとんど無いが、少子化傾向は近年大きく進んできた。また一時点に見られる女性の就業と子供の数の強い負の相関は、主として女性が子供を産めば一時的に離職して労働力人口を離れる傾向と、子供の手を早く離れた女性がより早く労働力参加をする傾向、即ち少子化が女性の就業参加を促進する傾向の結果である。しかし、自営業や家族従業員など就業場所が家族の住居に近い場合を除き、女性の就業は出生率を低めるという理論的仮説は存在する。女性にとって仕事の役割と母親の役割の両立は難しいので、一部の女性は仕事の役割を軽減(常勤の仕事を離れてパートで働くか専業主婦になる)することでこの問題を解決し、また他の一部の女性は母親の役割を軽減すること(子供に自らかける手間を減らすか、子供を少なく産む)で、この問題を解決すると考えられるからである。しかしここで重要なのが第3の可能性である。それは、仕事の役割と母親の役割を両立しやすい条件を職場と社会が提供すれば、有業既婚女性が上記のどちらか一方の役割を軽減するという二つの選択肢をどちらも選択せず、仕事の役割も母親の役割も軽減しない選択をすることが可能になるという仮説である。特に職場の条件としては、育児休業制度、フレックスタイム、在宅勤務、上司の育児に理解ある態度など、職場が「家族に優しい(ファミリー・フレンドリー)」か否かが問題となる。家族に優しい職場環境があれば、二つの役割が両立可能で母親の役割を軽減する人が減り、常勤の就業継続者は、専業主婦やパートの人に比べ出生率が低まることは無い、という仮説が成り立つ。この仮説に関しては山口(2004)によって家計研のデータを元に分析しており、24-35歳の既存の子供の数が0から2の既婚女性について当然影響すると思われる既存の子供の数を除けば、出生意向に影響するのは会話を通じた心理的な夫婦の共有体験や勤め先の育児休業制度の有無、夫の収入という結果となっている。共働きをするのが一般化しつつある昨今では、親世代とは異なる価値観をもつ学生が非常に多い。戦後の高度経済成長期には、父親が働き、母親は家事に専念する時代であったが、経済がグローバル化するに伴い生活様式も和式から洋式に変化している。また、高学歴化が進み男女に平等な機会が与えられ自由な進路の選択ができるようになった。一方で、大学あるいは大学院に進学したものの自分が将来やりたい仕事が見つからない学生もいる。今回の調査対象の学生に限っていえば、ほとんどの学生は将来やりたい仕事が決まっていなくても関わらず子供は欲しいと考えていることである。つまり、自分自身の仕事と子供の数は無関係である可能性は非常に高い。それでは学生の出生意向を決定するのはどういった要因なのか。次章では出生意向を統計的に明らかにすることで学生の出生意向を決定する要因分析を行う。

## 第3章 累積ロジットモデルによる出生意向の分析

### 3.1 Stata とは

本論文では、Stataを用いて3つのモデルを用いて推計する。Stataは標準的な手法がほとんど組み込まれており、複雑な収束計算をプログラミングすることなく分析をすすめることができる。計量経済学の分野では、TSP、SHAZAM、E-views やSPSS、SASなどのソフトもよく知られている。行列言語のMatlabやGAUSSもよく用いられる。行列言語は推定手法の自由度が非常に高い。一方、TSPやE-viewsは時系列解析には有効である。Stataは対照的にマイクロデータの処理に非常に強みがある。Stataの特徴として以下の点が挙げられる。

- ・ サンプル数に制限がない
- ・ メインプログラムが大きくない

Stataは変数の数も2000程度まで用意できる。したがってメモリの許す限りいくらかでもデータを扱うことが可能である。また、Stataはメインプログラムが大きくない代わりに統計手法がadoファイルで提供されweb上で入手できる。この仕組みにより、Stataは高い拡張性を持っている。本論文においても、膨大なデータ量になるため、Stataを用いてマイクロデータを取り扱うことによりマイクロ計量分析を試みる。

### 3.2 二値選択モデル

被説明変数が連続でないケースを検討する場合、質的変数モデルを用いる。今回のケースは出生意向という順序のついた従属変数を用いるため、質的変数モデルであるロジットモデルを用いて分析を行う。質的変数モデルの推定にあたっては、連続変数としての潜在変数(latent variable) を想定する。すなわち、潜在変数がある範囲の値を取れば質的変数がある値を取ると考える。本論文では、潜在変数と説明変数の間に線形の関係があることを想定する。簡単に説明するために、説明変数が定数とひとつの変数 $x_i$  であるケースを考える。観測される質的変数 $y_i$ を潜在変数 $y_i^*$ として、潜在変数と説明変数の間に線形関係を仮定すれば、

$$y_i^* = \beta_0 + \beta_1 x_i + \varepsilon_i$$

と表現できる。ここで、誤差項 $\varepsilon_i$ は、古典的な仮定をみたとする。また、 $x_i$ はスカラーの場合を考えるがベクトルの場合も同様である。 $y_i^*$ については、

$$y_i = \begin{cases} 1 & y_i^* > 0 \\ 0 & y_i^* \leq 0 \end{cases}$$

となる。 $y_i^*$ は0あるいは1を取る二値確率変数である。このときのモデルを二値選択モデルと呼ぶ。選択肢の数を任意の有限個にしたモデルは、離散選択モデル(discrete choice model) と呼ばれる。このような設定の下で、観測される変数が1あるいは0であるか確率を求めてみる。それぞれの観測値につ

いて質的変数が観測される確率(=尤度)を求めることができれば、最尤法によって係数の推定を行うことができるからである。観測される変数が1、0である場合の確率はそれぞれ以下のように表される。

$$P(y_i^* = 1) = \Pr(y_i^* > 0) = \Pr(\beta_0 + \beta_1 x_i + \varepsilon_i > 0)$$

同様に、観測される変数が0である確率は、

$$P(y_i^* = 0) = \Pr(y_i^* \leq 0) = \Pr(\beta_0 + \beta_1 x_i + \varepsilon_i \leq 0)$$

と表わされる。

### 3.3 ロジット分析(Logit Analysis)

選択確率がロジスティック分布を用いて以下のように表わされる。

$$p_i = P(y_i^* = 1) = F(\beta_0 + \beta_1 x_i) = \frac{e^{\beta_0 + \beta_1 x_i}}{1 + e^{\beta_0 + \beta_1 x_i}}$$

またロジスティック分布の密度関数は、

$$f(z) = F'(z) = \frac{e^z}{1 + e^z}$$

であり、オッズ比(odds ratio)は

$$\frac{p_i}{1 - p_i} = e^{\beta_0 + \beta_1 x_i}$$

と表わされる。観測値間の独立性を仮定すれば、全体の尤度は各観測値の尤度の積で表現することができるので、尤度Lは、

$$L(\beta_0, \beta_1) = \prod p_i^{y_i^*} (1 - p_i)^{1 - y_i^*}$$

ここで尤度関数を最大化する係数推定値 $\beta_0$ 、 $\beta_1$ の値は誤差項の分散 $\sigma$ には依存しないことになる。

### 3.4 最尤法

最尤法とはパラメータ推定を行う際にデータの組み合わせが起きる確率を最大にするよう推定値を求めるという方法である。これは数学的には尤度関数を最大にする解を求めるということになる。最尤推定はパラメータを $\theta$ とし、尤度関数 $L(\theta)$ を定めてそれを最大にすることで求められる。最尤推定量の特徴は以下のとおりである。

- ・ 一貫性
- ・ 漸近的な不偏性
- ・ 漸近的な正規性
- ・ 漸近的有効性
- ・ 不変性

### 3.5 モデルの概要

将来子供が欲しいかという出生意向(「欲しい」もしくは「欲しくない」)「plan」という順序のついたカテゴリ一変数を従属変数とする累積ロジットモデルを用いる。基本的なモデル(Model 1)としてまず以下の説明変数を用いる。

- ・ 民主党の子ども手当「chic」
- ・ 祖国の誇り「jap」
- ・ 留学意向「go」
- ・ アルバイト経験「partjob」

その後、このModel 1に母親が働いていても良好な母子関係を構築できるか(はい、いいえ)「mo1」、専業主婦が社会に出て働くことと同等に満足できるか(はい、いいえ)「mo2」というダミー変数を加えたモデル(Model 2)の推計を行う。そして、家庭の維持費は夫婦で稼ぎ出すべきか(はい、いいえ)「mo3」という変数をModel 2に加えてModel 3として推計を行う。ここで説明変数について補足しておく。民主党の子ども手当についてどう思うかという問いに対して、「非常に賛成」、「おおむね賛成」と答えた場合に1を割り当て、そうでない場合には0を割り当てた。祖国に誇りを感じるかという問いに対して、「非常に感じる」、「それなりに感じる」と答えた場合に1を割り当て、そうでない場合には0を割り当てた。将来の留学に対する興味・関心があるかという問いに対して、「とても興味・関心がある」、「少し興味・関心がある」と答えた場合に1を割り当て、そうでない場合には0を割り当てた。現在アルバイトをしているかという問いに対して、「している」と答えた場合に1を割り当て、「していない」と答えた場合に0を割り当てた。以下、同様に質問に対して「はい」と答えた場合に1を割り当て、「いいえ」と答えた場合に0を割り当てた。以下の数式は今回用いたモデルの推計式である。

$$\text{Model 1: } \text{plan} = \beta_0 + \beta_1 \text{chic} + \beta_2 \text{jap} + \beta_3 \text{go} + \beta_4 \text{partjob} + u_i$$

$$\text{Model 2: } \text{plan} = \beta_0 + \beta_1 \text{chic} + \beta_2 \text{jap} + \beta_3 \text{go} + \beta_4 \text{partjob} + \beta_5 \text{mo}_1 + \beta_6 \text{mo}_2 + u_i$$

$$\text{Model 3: } \text{plan} = \beta_0 + \beta_1 \text{chic} + \beta_2 \text{jap} + \beta_3 \text{go} + \beta_4 \text{partjob} + \beta_5 \text{mo}_1 + \beta_6 \text{mo}_2 + \beta_7 \text{mo}_3 + u_i$$

変数	観測者数	平均	標準偏差	最小値	最大値
plan	1485	0.93	0.25	0	1
chic	1478	0.54	0.50	0	1
jap	1475	0.77	0.42	0	1
go	1465	0.59	0.49	0	1
partjob	1478	0.69	0.46	0	1
mo1	1485	0.80	0.40	0	1
mo2	1484	0.60	0.49	0	1
mo3	1476	0.30	0.46	0	1

図 2 各種変数の概要

	plan	chic	jap	go	partjob	mo1	mo2	mo3
plan	1							
chic	0.073	1						
jap	0.114	0.050	1					
go	0.093	0.085	0.069	1				
partjob	0.092	0.053	0.003	0.041	1			
mo1	0.092	0.074	0.037	0.009	0.001	1		
mo2	0.085	0.035	0.026	-0.059	0.014	0.054	1	
mo3	-0.033	0.025	0.008	0.039	0.042	0.117	-0.079	1

図 3 変数の相関関係

### 3.6 結果

以下にロジットモデルによる推定結果を示す。<sup>9</sup>

	Model 1	Model 2	Model 3
chic	0.46 **	0.41 *	0.43 **
jap	0.84 ***	0.79 ***	0.82 ***
go	0.61 ***	0.67 ***	0.71 ***
partjob	0.67 ***	0.65 ***	0.70 ***
mo1	-	0.65 ***	0.75 ***
mo2	-	0.67 ***	0.62 ***
mo3	-	-	-0.44 *
定数	1.10 ***	0.29	0.33
疑似決定係数	0.056	0.082	0.090

図 4 推定係数の分析結果

	Model 1	Model 2	Model 3
chic	1.59 **	1.50 *	1.54 **
jap	2.32 ***	2.21 ***	2.26 ***
go	1.83 ***	1.95 ***	2.03 ***
partjob	1.95 ***	1.92 ***	2.01 ***
mo1	-	1.92 ***	2.11 ***
mo2	-	1.95 ***	1.85 ***
mo3	-	-	0.64 *

図 5 オッズ比

<sup>9</sup>\*\*\*、\*\*、\*はそれぞれ有意水準1%、5%、10%で統計的に有意であることを示している。

### 3.7 考察

図3からわかるように、**plan**と**mo3**はわずかではあるが、負の相関がみられる。これは、子供が欲しいと考えている学生は、家庭の維持費は夫婦で稼ぎ出す必要はないと考えていることになる。本論文では、夫が稼ぐべきか、妻が稼ぐべきかということについては言及できないが共働きは出生意向と負の相関があることが確認できる。現代社会で一般化しつつ共働きが、出生意向を左右する一因であることを明示しているともいえる。また、**mo2**と**go**にも負の相関がみられる。これは、専業主婦が働くことと同等の満足ができると考えている学生は、留学意向があまりないということの意味する。換言すれば将来的には専業主婦(専業主夫)として生きていく学生と留学をして自らの学識を深めたいと考えている学生に分類されることが明らかになった。そして**mo2**と**mo3**も負の相関がみられる。これは当然の結果といえるかもしれないが、専業主婦に満足する学生は夫婦で共働きをする必要はないと考える傾向があるということである。個人の価値観が明らかに学生の間でも異なる傾向を示しており、この価値観が学生時代の経験によるものなのか、もしくは育った環境などによるものなのかはわからないが、学生が個々で明確な価値観を持っていることは明らかである。

図4はロジットモデルによる推定係数を表わしている。現代の学生は子ども手当にはある程度、肯定的な考えであることがわかる。

図5は各説明変数のオッズ比を表わしている。この結果から非常に興味深いことがわかる。**mo3**は家庭の維持費は夫婦で稼ぎ出すべきかという変数だが、「はい」と答えた人は「いいえ」と答えた人の0.64倍程度しかいないということである。また図4からも分かるように、**mo3**は有意に符号が負である。これは、家庭の維持費を夫婦で稼ぎ出すべきと考えている人は、出生意向が低下傾向であることを意味する。つまり、夫もしくは妻のどちらか一方が働くべきと考えている人は出生意向が増加傾向であるということになる。また**chic**変数のオッズ比は他の説明変数と比較してオッズ比が小さい。子供手当は賛成という人が多いものの、反対している人もかなりいるということがわかる。**jap**変数のオッズ比をみると、日本人であることに誇りをもっている人は非常に多い。これは民族意識、高い生活水準等、個人によって様々な理由が考えられると思われる。**go**変数のオッズ比も非常に高い。近年の教育への関心の高まりが学生にも浸透しているということであろう。

## 終わりに

今回の学生意識調査を通じてわかったのは、日本が少子高齢化であるという現状下においても、夫婦のどちらかが働く意向を示す学生と比較して共働きをする意向を示す学生は少ないということである。これは、学生の間で二極化が進行していることに起因すると私は考えている。一つは自身のキャリア形成の成功を望む学生であり、もう一つは家庭を築くことで幸せを望む学生である。学生が結婚を意識して生活をしていると考えるのは早計ではあるが、将来をしっかりと見据えて生活をしているということは明確になった。またここでの課題として残るのは社会人になって働き始めてからの出生意向がどのように変化するかということである。現在の日本の企業の福利厚生制度は非常に充実しており、産休や育児休暇などの制度は利用することが可能である。実際にこのような制度がどの程度活用されているのかを調査し実証分析することで学生と社会人の出生意向の比較分析をすることで、より広範な出生意向分析が可能である。

## 関連図書

- [1] 総務省統計局 <http://www.stat.go.jp/data/nenkan/02.htm>.
- [2] 山口一男、「少子化の決定要因と対策について: 夫の役割、職場の役割、政府の役割、社会の役割」、『RIETI Discussion Paper』、2004
- [3] 岩澤美帆、「近年の期間TFR変動における結婚行動および夫婦の出生行動の変化の寄与について」、『人口問題研究』、2002

「アジア地域統合」の立場形成の決定要因  
についての分析と比較  
——日本人学生を中心に——

劉 曙麗 (LIU Shuli)

早稲田大学アジア太平洋研究科・国際関係学専攻・博士課程

早稲田大学グローバルCOEプログラム・アジア地域統合フェロー

## 目次

1.	問題意識	143
2.	実証分析の枠組み	145
3.	データと変数	147
	(1) データ	147
	(2) 被説明変数	147
	(3) 説明変数	147
4.	推定結果	151
	(1) 日本人学生全体に関する推定	151
	(2) 男女、出身の違いに関する推定	152
5.	おわりに	154
	参考文献	155

## 図表一覧

図表 1	日本人学生の帰属意識と文化優越感及び保守的な意識の概要	156
図表 2	日本人学生の国民意識と文化優越感及び保守的な意識の関係	157
図表 3	アジア地域統合に対する学生の立場	158
図表 4	基本統計量	158
図表 5	相関関係	159
図表 6	推定結果－全体	160
図表 7	推定結果－グループ別	161

## 1. 問題意識

東アジア共同体設立の動きは、日中韓と ASEAN を中心に地域経済統合を進めようとする動きであり、アジアの経済危機のさなかの 1997 年 12 月に開催された ASEAN+3 首脳会議に端を発する。この地域における経済の相互依存関係は急速な進展を見せており、域内諸国にとって経済連携の推進が大きな利益となることは疑いを得ない。経済分野に限って言えば、すでに東アジアには大きな共通実態が存在しており、さらなる経済関係の深化を考慮すれば、東アジアにおける経済共同体の構築は決して夢物語ではない。しかしながら、地域協力での大きな進展が着々とある一方で、自由貿易協定の締結を超えた実質的な統合成果はまだ見られていない。東アジアでは、国家の戦略的発想や、あるいは市場原理、マーケットの利害が共同体構想の中心となりがちで、社会、市民レベルでの国境を越えた活動や交流は非常に限定的であり、地域協力・統合の動きとなると極めて低調である。それでは、社会、市民レベルのアジア地域統合に対する立場の形成に影響を与える要因にはどのようなものがあるのだろうか。

西川吉光は、「東アジアは統合に対する反対ベクトルとなる民族主義やナショナリズムの伸張が著しい」と指摘している<sup>10</sup>。また舒旻によれば、「個人の国民アイデンティティが強ければ強いほど、地域統合に対する支持が弱くなる」という<sup>11</sup>。その一方、「アジア・バロメーター<sup>12</sup>」の調査データでは、「若い世代でアジア人としてのアイデンティティが強まっている傾向があり」、地域統合に支持する可能性が高く、「自分の国籍にも強い帰属意識を持っており、国籍とアジア人という 2 つのアイデンティティが共存し」「お互いに排除し合うものではない」という統計結果<sup>13</sup>も出ている。

以上の先行研究に述べられている知見はそれぞれに妥当性があると思われるが、これらの議論に関しては、それぞれ矛盾している所もみられる。第一に、市民レベルの意識と地域統合への意見形成の関わり（意識がいかに地域統合に対する意見の形成に影響を与えているか、与えているとすれば、どのような影響—positiveかnegativeか—を与えているかなど）について論じる前に、民族主義、ナショナリズム、国民アイデンティティ、アジア人アイデンティティなどの、個人意識についての概念を整理する必要がある。第二に、これらの意識に関する要因以外に、その他の要因も存在するのか、もしあるならば、それはいかに影響を与えているのか、を論じる必要がある。最後に、これらの論点に関しては、叙述にとどまらず、計量分析を通して実証的に検証する必要がある<sup>14</sup>。ただし、統計データの制限のため、データに裏打ちされた着実な議論を積み上げてゆくことは容易ことではない。前述したアジアを網羅する最大の比較世論調査『アジ

<sup>10</sup>西川吉光 (2006) pp. 126~128 参考

<sup>11</sup>舒旻(2009) pp. 30 参考

<sup>12</sup> アジア・バロメーターとは東・東南・南・中央アジアを網羅するアジア最大の比較世論調査。詳細は以下のリンクでチェックできる。<https://www.asiabarometer.org/ja/profile>

<sup>13</sup>福島安紀子・岡部美砂 (2007) pp. 373-375 参考

<sup>14</sup>園田茂人(2007)にも同じ指摘がある。「政治や経済に着目した派手な東アジア共同体論が盛んでだが、重要なのは、これを構成する人々の意識や行動に関わる実証的なデータを丹念に集め、データに裏打ちされた着実な議論を積み上げてゆくこと」。pp.299 参照。

ア・バロメーター』では一部の帰属意識調査データがあるが、アジア統合に対する立場に関する質問データは存在しない。これも多くの先行研究での議論において、それぞれに妥当性を有しつつ、矛盾も顕在するという欠点を生じる要因の一つと思われる。

幸いに GIARI（早稲田大学グローバルCOEプログラム・アジア地域統合のための世界的人材育成拠点）は、この難題を取り込む分析可能なデータを提供してくれた。データは「Asia-Vision サーベイ：学生の意識に関する国際比較調査」（以下 A-vision）<sup>15</sup>の個票データを用いる。この調査は、次世代のアジアを形成するアジアの大学生・大学院生を対象として実施された意識調査であり、調査対象国は今後3年間でアジア十数カ国を予定しているが、その第一弾として行われた、日本での各大学の男女学生を対象とした調査はすでに完了している。本稿では日本人学生のアジア地域統合に対する立場の形成要因を中心として、分析を行う。

本稿の構成は以下のとおりである。本節では問題意識と先行研究を提示した。第二節では、実証分析の枠組みを構築する。第三節で実証分析のデータと変数を詳しく紹介してから、第四節で①日本学生全体と、②男女、出身地グループに分けた分析とを比較し、推定結果を述べる。最後に、結果を踏まえて政策的インプリケーションももたらしたい。

---

<sup>15</sup> 「Asia-Vision サーベイ：学生の意識に関する国際比較調査」の概要に関しては、以下のホームページ [http://www.waseda-giari.jp/jpn/research/achievements\\_detail/867.html](http://www.waseda-giari.jp/jpn/research/achievements_detail/867.html) を参照。

## 2. 実証分析の枠組み

前節で述べたように、まず市民レベルの意識と地域統合への意見形成の関わりについて論じる前にいくつかの概念を整理し、これらの概念について、データ上のどのような裏づいているかをも見てみたい。それにその他の要因の有無をも論じながら、分析の枠組みを構築したい。

グローバル化の進展とともに、世界市民や地域／民族主義などがうたわれるようになり、個人の帰属意識（アイデンティティー）は「国」を越えて多様化している。東アジア地域においては、主に世界市民意識（私は世界市民である）、アジア人意識、国民意識（本稿では、＝日本人意識）、地元意識（私は地元のコミュニティに属している）という帰属意識がある。

本来、国民意識（XX 人アイデンティティー）、地元意識を含め、これらの帰属意識は、自分が所属している集団とその他の集団が異なるということを認識する中立的な概念である。しかし、帰属意識が集団だけの利益を重視し、その他の集団に対し排他的な意味合いを帯びたら、非中立的立場に転じるであろう。

排他的な帰属意識には基本的に二つの傾向がある。ひとつは、自分が所属している集団を中心とした優越感である。たとえば、自国の文化を他国よりも優れているとする文化的優越感が一つの例である。もうひとつの傾向は、所属している集団が現在、または過去の時点で保持している（いた）利益を守ろうとする意識が強いため、論者の立場は基本的に保守的になるということである。「政府は自国民の利益を守るため、外国人労働者の移入を制限すべきである」というような論調が主に保守派とされる人々から主張されるのは、その一例と言えよう。

問題意識で言及した「個人の国民アイデンティティーが強ければ強いほど、地域統合に対する支持が弱くなる」という場合の「国民アイデンティティー」には、中立な帰属意識という立場からではなく、非中立な立場のナショナリズムという意味合いで用いられていると思われる。「東アジアは統合に対する反対ベクトルとなる民族主義やナショナリズムの伸張が著しい」という場合の、「ナショナリズム」の意味と近いだろう。その一方、「自分の国籍にも強い帰属意識を持っており、国籍とアジア人という2つのアイデンティティーが共存し」「お互いに排除し合うものではない」という自分の国籍に対するアイデンティティーは、中立的な帰属意識として使われているだろう。すなわち、先行研究で使われている「国民アイデンティティー」という言葉は、中立的な帰属意識を意味するものとして使われている場合もあれば、排他的なナショナリズムの意味合いを帯びる時もある。

本稿で分析対象とした日本人学生の帰属意識の概要をみると、図表1に示したように、日本人意識に対して「大変同意」の回答数は40.66%を占め、「おおむね同意」が、38.75%である。両者を合わせて日本人意識をもっている学生は80%弱に上る。「あまり同意できない」と「まったく同意できない」という回答はわずか6%程度である。

開かれた世界市民意識に関しては、「おおむね同意できる」という回答が、日本人意識の比率とほぼ同じレベルだが、「大変同意できる」という回答が14.45%、日本人意識（40.66%）と比

べ、大きな開きが見られる。

アジア人としての意識は、「大変同意」と比べ、54.33の日本人学生は、「おおむね同意」の意識をもっている。その一方、地元意識は、「どちらでもない」という回答が一番多い。

また日本人意識と文化の優越感、保守的な意識の関係をみるため、図表2に示したように、日本人学生の国民意識と文化優越感及び保守的な意識との関係をグループに分けて比率を計算した。日本人意識が高いグループでは、文化の優越感も高い、保守的な意識が強いという傾向はない（それぞれ13.84%、9.88%しかない）また逆の傾向も確認されていない（11.16%、7.19%）。むしろ「どちらでもない」グループにおいて、文化優越感と保守的意識の比率が最も高い。またその他のグループもそれぞれバラツキ度が大きく、相関関係がないとも言える。つまり、国民アイデンティティー〈国民意識〉は文化の優越感と保守的な意識とまったく違う意識であることが裏付けられる。さらに言えば、本稿での実証分析において、帰属意識（世界市民意識、アジア人意識、国民意識、地元意識）と文化の優越感、保守的な意識が、お互いに独立している要因になると考える。それぞれに説明変数として検証すべきである。

以上に述べた要因以外に、その他の要因と考えられるのは、FTA/EPAの知識の有無、国際交流能力と応用である。また個人属性と所在学校、両親などもアジア地域統合の立場の形成に一定の影響を与えている可能性があると考えられる。これらの属性をコントロールし、実証分析を行う。

最後に、日本人学生の特徴を現時点で他の国と比較分析するのは不可能だが、日本人学生の帰属意識や、文化的優越感と保守的意識、FTA/EPAの知識の有無、国際交流能力などのアジア統合の立場形成に重要な要因に関しては、男女、出身地（都市圏か地方）により大きな差があるので、実証分析する際、最初に日本人学生全体に関する推定を行い、その結果を踏まえて、次に日本人学生をそれぞれ男女別、都市圏と地方出身別にグループ分け、それぞれアジア地域統合に対する立場の形成の決定要因を推定し比較を行う必要がある。

### 3. データと変数

#### (1) データ

本稿では、2009年に早稲田大学グローバルCOEプログラム・アジア地域統合のための世界的人材育成拠点が実施した「Asia-Vision サーベイ：学生の意識に関する国際比較調査」（以下A-vision）<sup>16</sup>の個票データを用いる。この調査は、次世代のアジアを形成するアジアの大学生・大学院生を対象とした意識調査であり、調査対象国は今後3年間でアジア十数カ国を予定しているが、その第一弾として、日本での各大学の男女学生を対象とした調査をすでに完了した。回収された調査票は1725通である。その中には、①日本にいる留学生、②年齢40歳以上の回答者がわずかに存在した。本稿では日本人学生のアジア地域統合に対する立場に関する分析という趣旨から、①、②の条件以外の回答者を分析対象とする。

#### (2) 被説明変数

A-vision 調査では、アジア地域統合に対する学生の立場について、①大変同意する、②おおむね同意できる（という肯定的な立場）、③あまり同意できない、④まったく同意できない（否定的な立場）という形でデータが得られる。そこで、1～4という離散型のカウントデータであるため、アジア地域統合の立場に関する Ordered Probit<sup>17</sup>推定の被説明変数<sup>18</sup>として用いる。

アジア地域統合に対する学生の立場については、図1示すように、それぞれ、①8.1%、②46.3%、③27.5%、④7.5%となる。①②合わせて肯定的な立場は54.4%に対して、③④合わせた否定的な立場の学生は35%を占めている。

#### (3) 説明変数

ここでは、先節に示した実証分析の枠組みに基づき、推定で用いる説明変数について示す。

グローバル化の進展と共に、世界市民の連帯や地域主義が謳われるようになると同時に、アイデンティティーは「国民国家（nation-state）」を越えて多様化している。このような近年の意識変化の中で、いかなる意識が、どのように、アジア地域統合に関する立場の形成に影響を与えているのかを検証するため、まず、以下の四つの帰属意識に分けられる。

##### A) 世界市民意識

<sup>16</sup> [http://www.waseda-giari.jp/jpn/research/achievements\\_detail/867.html](http://www.waseda-giari.jp/jpn/research/achievements_detail/867.html) を参照。

<sup>17</sup> William H. Greene (2008) を参照。

<sup>18</sup> 調査票で「5、わからない」と回答は欠損値と扱う。また、推定に用いる変数で欠損のある回答者は除外した。

「私は世界市民である」という回答のデータを用いる。世界に開かれた意識をもっている日本人学生は、アジア地域にも開かれた考えを持っていると思われる。このような意識は、アジア地域統合にポジティブな影響を与えると考えられる。

B) アジア人意識

「私はアジア人である」という回答のデータを用いる。アジア人のアイデンティティーはアジア地域統合に肯定的な立場をとる最大の要因だと思われる。この意識は有意度の高いプラス効果が期待される。

C) 日本人意識

アジア地域においては、それぞれの国家に対する帰属意識が強く、このような国民アイデンティティーはアジア人のアイデンティティーと矛盾しておらず、むしろ共存している高い相関をもっていると、アジア・バロメーターで検証されたが、ほかのアジア地域諸国と比べ、日本人のアジア人アイデンティティー意識はわりに低いほうであった。しかし、アジア・バロメーターでの調査対象は無作為抽出された一般人に対し、本稿で使われた「A-Vision」調査は学生、大学生・大学院生を対象とした。そこで、日本人意識は、日本人学生のアジア地域統合への意見に与える影響はア・プリアリに判断できない。

D) 地元意識

「私は地元のコミュニティに属している意識がある」という回答データを活用する。開かれた世界市民意識やアジア人意識より、地元意識はアジア地域統合への意見形成に影響を与えるか、あるいはどのような影響を与えるかについては、先見的に判断できない。

E) 文化的優越感

「私の国の文化は、他の国よりも優れている」という回答のデータを代理変数として用いる。「全ての文化は優劣で比べるものではなく対等であるとし、ある社会の文化の洗練さはその外部の社会の尺度によって測ることはできない」という文化相対主義<sup>19</sup>の観点からすると、日本の文化は他の国より優れているという意識を強く持っている日本人学生は、「自文化の枠組みを相対化した上で、異文化の枠組みをその文化的事象が執り行われる相手側の価値観を理解し、その文化、社会のありのままの姿をよりよく理解しようとする方法論的態度から」離れていると思われる。

しかしながら、この種の文化の優越感がアジア地域統合に如何に影響を与えるかに関しては、マイナスな影響を与えると思われる。

F) 保守的な意識

「政府は自国民の利益を守るため、外国人労働者の移入を制限すべきである」とについての意見に対する回答データを代理変数としている。ヒト・モノ、カネを含め国境を越える移動の更なる円滑化にすることは、地域統合の趣旨であり、目標である。「政府は自国民の利益を守るため、外国人労働者の移入を制限すべきである」という考えは、国民的な福祉を重視

<sup>19</sup> Steward, Julian (1948)、参照。

しているように見えるが、開かれた考え方ではないので、内向きの保守的な意識である。保守的な意識はアジア地域統合の肯定的な立場に負の影響を与えると考えられる。

G) FTA/EPA の知識

地域統合のキーワードにもなっている FTA (Free Trade Agreement : 自由貿易協定) ・EPA (Economic Partnership Agreement : 経済連携協定)<sup>20</sup>についてどの程度知っているかについての回答データである。近年来日本はアジア地域諸国を含め、多くの国々と次々に FTA/EPA の締結に取り組んでいる。FTA/EPA の知識が豊富であればあるほど、アジア地域統合に肯定する傾向があると思われる。

H) 国際交流能力

国際交流能力を持つ学生は、日本と国際社会を結ぶ架け橋となり、国際協力や文化交流の実務に積極的に携わる情報発信型の人材であり、多文化かつ多言語のアジア地域においては、英語は共通の言語となっている。流暢に英語を話せるかどうかは、国際的なコミュニケーションとアジア共生意識に重要な役割を果たしていると思われる。本稿では英語のレベルを国際交流能力の代理変数とする。

I) 個人属性 (年齢、女性ダミー、)

日本人学生のアジア地域統合の立場形成の決定要因は以上のように分けられるが、学生個人の属性をコントロールする必要がある。そこで、年齢、性別 (女性ダミー) を説明変数として用いる。

J) 周囲の影響要因 (地方出身ダミー、所在学校の偏差値、親の教育)

年齢平均値 20.9 歳の日本人の学生は、実際社会経験もなく、アジア地域諸国と実際に触れ合うチャンスはそれほど多くないと考えられる。彼らのアジア地域統合の立場の形成は、出身地の環境や教育されている学校の環境、親の教育などによる部分があると思われる。これらの周りの影響要因をコントロールする必要もある。

特に日本とアジア地域の FTA 交渉で大きな問題になっているのは農業の除外である<sup>21</sup>。質の高い FTA を締結できない大きな原因は、地方を中心とした農家、農協、「農林族」の反対にある。地方出身の日本人学生は、アジア地域統合に対する立場も異なると考えられる。この地域的な要因を取り除くため、回答者の出身地をダミー変数として用いる<sup>22</sup>。

<sup>20</sup> 具体的な内容及び日本の取り扱いは日本外務省ホームページ :

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/fta/index.html> を参照。

<sup>21</sup> 本間正義は、「例外の多い FTA を結ぶよりは、出来るだけ例外をなくし、かつ多くの分野にまたがる質の高い FTA が望まれる。その FTA をコアにして関税同盟や共同市場といった地域統合の道を探るのでなければ FTA の意義は半減する。」(本間 2006; p69) と述べている。

<sup>22</sup> 日本における首都圏とは一般的に関東地方 1 都 6 県 (東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、群馬県) と山梨県を含む地域を指すが、本稿では、分析の目的に合わせ、東京都、神奈川県、千葉県を基準とし、それ以外は地方出身ダミーを作成した。

その他、所在学校の教育環境、親の教育により回答に違いが生じる可能性もあるため、学校の偏差値<sup>23</sup>、父親、母親の教育レベルを代理変数として用いる。

以上で述べた被説明変数と説明変数の基本統計量は図表4、相関関係は図表5に示した通りである。

---

<sup>23</sup>具体的には、1が偏差値61以上、2が偏差値56以上60以下、3が偏差値51以上55以下、4が偏差値46以上50以下、5が偏差値45以下として指標を作成した。

## 4. 推定結果

実証分析の枠組みで述べたように、本節では2段階の分析を行う。最初に日本人学生全体に関する推定を行い、その結果を踏まえて、次に日本人学生をそれぞれ男女別、都市圏と地方出身別にグループ分けをし、それぞれアジア地域統合に対する立場の形成の決定要因を推定し比較を行う。

### (1) 日本人学生全体に関する推定

アジア地域統合に対する立場形成の決定要因を分析した結果は図表6に示した。Ordered Probitを推定する際、モデル①以外は、個人属性と周りの環境からの影響要素をコントロールし、日本人学生全体においてそれぞれの要因が立場形成に影響を与えているか否かを検討した。

図表3が示すように、モデル①-⑥の説明変数の投入により、推定結果<sup>24</sup>は大きな変化がない。紙面の制限のため、以下では、モデル①-⑥から得た主な推定結果を纏めて報告する。

第一に、帰属意識に関しては、世界市民意識とアジア人意識の係数はすべてのモデルにおいて正でほとんど1%有意であった。日本人の学生の「国民国家」を超えた意識はいずれもアジア地域統合の同意の立場形成にプラス効果があると確認された。その一方「国民国家」より狭い地元意識は正で有意ではなかった。すなわち、地元意識のアジア統合の意見に対する影響は確認されてない。日本人意識は個人属性と周りの環境からの影響要素をコントロールしてからプラスの有意な結果となっている。これらの帰属意識に関しては、開かれた意識がアジア地域統合に対する同意の意見形成に有利な要因である一方、狭い意識はマイナスの効果はないが、プラスの効果があるとも言えない。日本人意識は場合によってはプラスの影響を与える。

第二に、文化的優越感と保守的な意識に関しては、いずれのモデルにも負で有意という結果が得られた。両者はアジア地域統合に対する同意の意見形成に対して大きな障害となっている。問題意識で述べたように日本人意識は文化的優越感と保守的な意識と区別に使われている。ここでの推定結果からみてもお互いに独立し、影響し合うことがない。

第三に、FTA/EPAの知識に関しては、モデル①では正で有意な結果を得られたが、個人属性と周りの環境からの影響要素をコントロールしたその他のモデルでは有意な結果をえられなかった。その一方、国際交流能力はどちらのモデルにもプラスで有意な結果となっている。国際交流能力(英語能力)が高ければ、アジア統合に対するに同意の立場をとる確率が高くなるということは確認された。

第四に、個人属性において、年齢がマイナスで有意な結果を得られた。年齢が低いほどアジア統合に対して否定的な立場になる傾向がある。すなわち、年齢・学年の上昇により、アジア統合

<sup>24</sup> 説明変数「FTA/EPAの知識」を除く。

に対してプラスの立場に転じる可能性が高いという意味である。女性ダミーが有意ではないが、すべてマイナスの結果となっていることに留意されたい。

最後に、周囲の影響要因である所在学校の偏差値、親の教育は、すべて有意な結果を得られなかった。これら周囲の影響要因は、帰属意識、文化の優越感と保守的な意識などの要因に比べ、それほど重要な要因ではない可能性があると示された。ただし、地方出身ダミーにおいてはすべてマイナスの結果で、モデル④で有意な結果となっている。

以上述べたように、日本人学生のアジア地域統合に対する立場形成において、より開かれた帰属意識（世界市民意識とアジア人意識）はプラス影響、偏った文化的優越感と保守的な意識はマイナスの影響を与えている。それに加えて、国際能力の向上と年齢（学年）の増加による正の効果も確認された。これが、日本人学生全体を分析対象としての結論である。以下では男女、出身の違いにより、これらの要因は全体の結論と一致しているかどうかを検証する。

## (2) 男女、出身の違いに関する推定

続いて先に挙げた問題に対して、サンプルを男性、女性に、出身地を都市と地方に分けて検証した推定結果を図表4に示した。以下では、まず出身の違いに関する推定結果について述べる。

第一に、帰属意識に関しては、アジア意識が都市圏において正で有意であるが、地方において有意の結果を出られなかった。他方で、日本人意識が地方においては有意であるが、都市圏においては有意ではなかった。それに加えて、地元意識が地方において正で有意な効果をもつことが確認された。つまり、都市圏においてマイナスの効果の可能性があるのに対して、地方出身の日本人学生の「大阪人」や「沖縄人」などの地元意識は、開かれた世界市民意識とも矛盾しておらず、共にアジア地域統合に対する立場の形成にプラスの影響を与えていると思われる。

第二に、文化的優越感と保守的な意識に関しては、都市圏においても地方においても負の結果が得られた。ただし、保守的な意識のみ有意である。両者は地方と都市圏に問わず、アジア地域統合に対する同意の意見形成に大きな障害となっている。

第三に、その他の説明変数においては、地方出身の年齢の効果以外は有意度を確認されていないが、(国際交流能力を除く)都市圏と地方の推定結果の符号が一致していないことを留意されたい。

続いて、男女の違いに関する推定結果について述べる。第一に、帰属意識において、世界市民意識が男女とも正の有意な結果となり、以上の結論と一致しているが、アジア人意識において女性のみ有意な結果を得られた。日本人意識において、男性がプラスで有意な効果を持つ一方で、女性がマイナスで有意ではない結果となった。地元意識は同じ傾向となり、男性がプラスで有意な効果を持つ一方で、女性がマイナスで有意ではなかった。

第二に、文化的優越感と保守的な意識に関しては、男女とも負の結果が得られた。ただし、女性の文化的優越感のみ有意ではなかった。同じく両者は男女問わず、アジア地域統合に対する同

意の意見形成に大きな障害となっている。

第三に、その他の説明変数においては、男性の方は、国際交流能力がプラス効果、年齢と地方出身がマイナスの効果を与えていると確認された。これらの結果は全体と一致している。他方で女性においては、いずれも有意ではない結果となり、確認されることができなかった。

以上述べたように、世界市民意識、文化的優越感と保守的な意識に関しては、都市圏・地方、男女とも全体の結果と一致しているが、その他の要因は、全体と異なる推定結果もあり、出身の都市地方により、性別により、異なる効果を生じる結果が多いことが確認された。

## 5. おわりに

本稿では、日本人学生のアジア地域統合に対する立場形成の要因について、計量的手法を用いて分析を試み、以下の実証結果を得た。

総論としては、日本人学生のアジア地域統合に対する立場形成において、より開かれた帰属意識（世界市民意識とアジア人意識）はプラスの影響、中立な立場から偏った意識（文化的優越感）や保守的な意識はマイナスの影響を与えている。それに加えて、国際能力の向上と年齢（学年）の上昇による正の効果があるということが確認された。

サンプルを男性、女性に、出身地を都市と地方に分けて検証した推定結果は、世界市民意識、文化的優越感と保守的な意識に関しては、都市圏・地方、男女とも総論と一致しているが、その他の要因は、全体と異なる推定結果も多く確認された。

例えば、帰属意識に関しては、アジア意識が都市圏において正で有意であるが、地方において有意の結果を得られなかった。他方で、日本人意識は地方において有意であるが、都市圏においては有意ではなかった。それに加えて、地元意識が地方において正で有意な効果をもつことが確認された。また、アジア人意識において女性のみ有意な結果を得られた。日本人意識において、男性がプラスで有意な効果を持つ一方で、女性がマイナスで有意ではない結果となった。地元意識は同じ傾向となり、男性がプラスで有意な効果を持つ一方で、女性がマイナスで有意ではなかった。このように出身の別により、性別により、同じ帰属意識を持つとしても、アジア地域統合の立場形成に異なる影響を与えていることは分かった。

最後に、政策的インプリケーションについて触れたい。もしも政府がアジア統合について世論の後押しを得たいのならば、世界や近隣地域について幅広い視野と理解を持つ人材の養成が不可欠となる。そのような人材は、政府がすすめるアジアとの経済統合政策の支持者となるばかりか、その強力な牽引役ともなり得るであろう。本稿から得られた知見を応用するならば、それには全国共通の画一的な養成プログラムを適用するのではなく、地域の特性（中心産業や地理的環境等）に応じた教育が考案されるべきではないだろうか。それは、近年課題となっている地方分権の趣旨にも見合った措置であるように思われる。

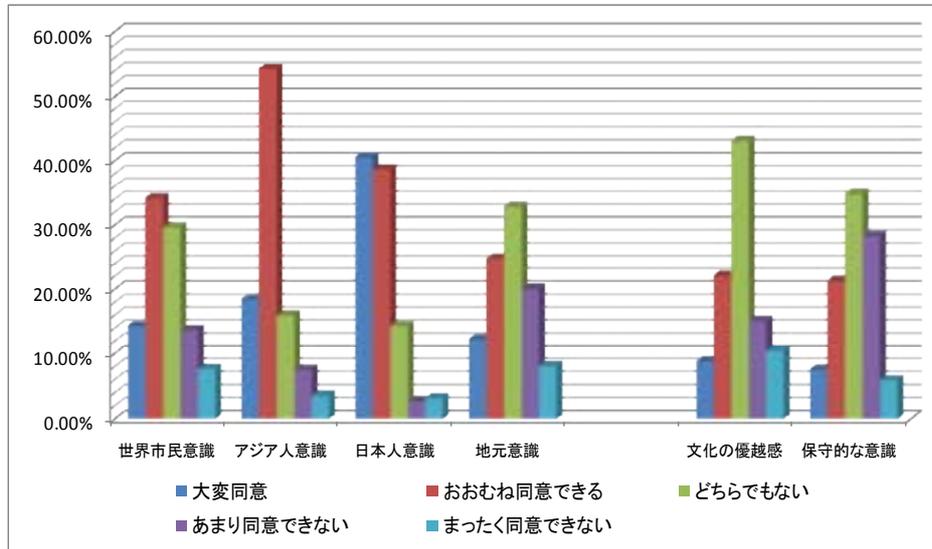
本稿は、「アジア地域統合」に対する立場形成の決定要因について計量的手法を用いることにより、従来の叙述を主体とした分析と比較してより高い実証性を確保することを試みた。今回はデータの制限により日本人学生を中心とした分析しか出来なかったが、アジア諸国の横断的な分析と比較を今後の課題としたい。

## 参考文献

- 園田茂人(2007)「都市中間層の台頭と新たなアイデンティティの形成?」、西川潤・平野健一郎編、『国際移動と社会変容』、『東アジア共同体の構築』、3巻、岩波書店、pp. 287~301
- 西川吉光(2006)「冷戦後の地域協力・地域統合:その現状と課題」『国際地域学研究』第9号 2006年3月  
<http://rdarc.rds.toyo.ac.jp/webdav/frds/public/kiyou/rdvol9/rd-v9-119.pdf>
- 福島安紀子・岡部美砂「東アジアの地域統合への道を探る」(2007) 『アジア・バロメーター 躍動するアジアの価値観—アジア世論調査(2004)の分析と資料』 第18章 猪口孝、田中明彦、園田茂人、ティムール・ダダバエフ編著 明石書店 pp. 371-392
- 本間正義(2006)「日本の農業と対外政策」 「フィナンシャル・レビュー」 April—2006 財務省財務総合政策研究所'西川吉光(2006)「冷戦後の地域協力・地域統合:その現状と課題」 『国際地域学研究』第9号 2006年3月  
[https://www.mof.go.jp/f-review/r81/r\\_81\\_050\\_081.pdf](https://www.mof.go.jp/f-review/r81/r_81_050_081.pdf) (2010年3月1日チェック)
- 舒旻(2009)「国民アイデンティティと地域統合—ヨーロッパと東アジアの比較」『学術動向、特集東アジア共同体と拡大EU』2009年5月号 日本学術会議 SCJ フォーラム
- Steward Julian (1948). "Comments on the Statement of Human Rights". American Anthropologist 50 (2): 351-352.*
- William H. Greene (2008) *ECONOMETRIC ANALYSIS*, 6th International edition. Pearson Education (US)

図表 1 日本人学生の帰属意識と文化優越感及び保守的な意識の概要

日本人学生の帰属意識と文化優越感及び保守的な意識の概要【%】

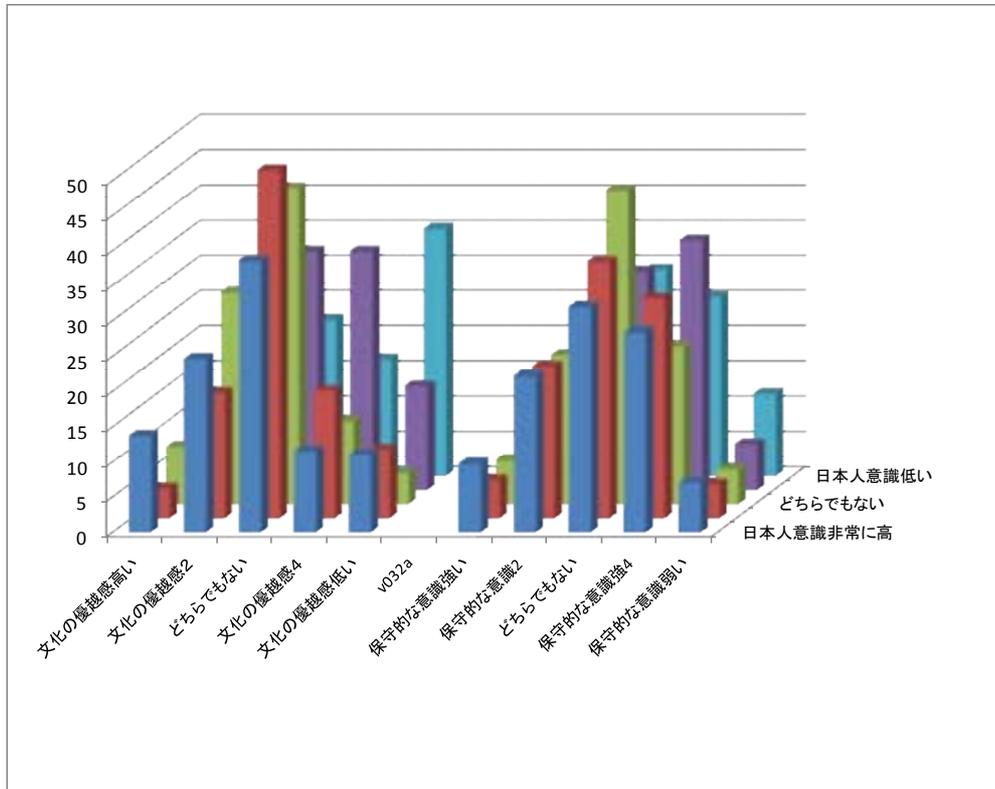


	世界市民意識	アジア人意識	日本人意識	地元意識	文化の優越感	保守的な意識
大変同意	14.45%	18.57%	40.66%	12.36%	8.90%	7.64%
おおむね同意できる	34.27%	54.33%	38.75%	24.90%	22.21%	21.43%
どちらでもない	29.79%	16.06%	14.45%	32.96%	43.16%	34.93%
あまり同意できない	13.79%	7.64%	2.81%	20.18%	15.22%	28.48%
まったく同意できない	7.70%	3.64%	3.22%	8.18%	10.57%	5.97%

出所：データにより筆者作成

図表 2 日本人学生の国民意識と文化優越感及び保守的な意識の関係

日本人学生の国民意識と文化優越感及び保守的な意識の関係【%】



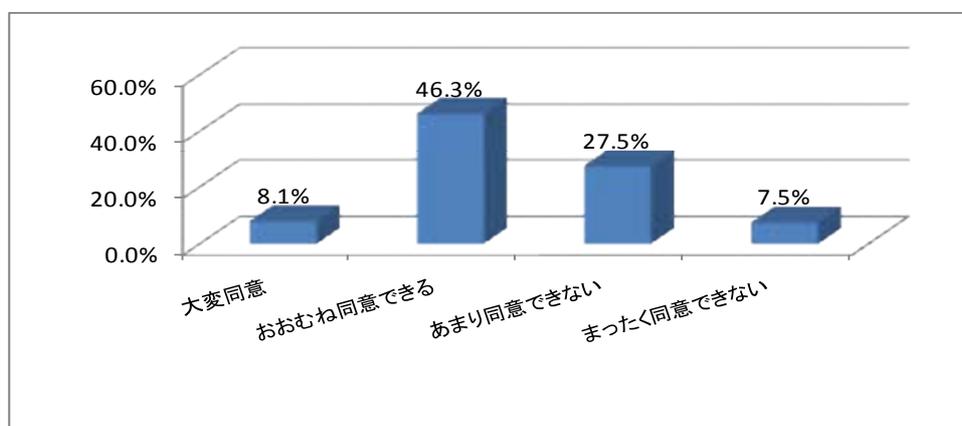
{%}

	日本人意識非常に高	日本人意識2	どちらでもない	日本人意識4	日本人意識低い
文化の優越感高い	13.84	4.33	8.26	2.13	11.11
文化の優越感2	24.7	17.93	30.17	14.89	14.81
どちらでもない	38.69	49.61	45.04	34.04	22.22
文化の優越感4	11.61	18.24	11.98	34.04	16.67
文化の優越感低い	11.16	9.89	4.55	14.89	35.19
保守的な意識強い	9.88	5.56	6.38	2.22	15.69
保守的な意識2	22.31	21.62	21.28	24.44	17.65
どちらでもない	32.04	36.57	44.68	31.11	29.41
保守的な意識強4	28.59	31.32	22.55	35.56	25.49
保守的な意識弱い	7.19	4.93	5.11	6.67	11.76

出所：データにより筆者作成

図表 3 アジア地域統合に対する学生の立場

日本人学生のアジア地域統合に関する立場



出所：データにより筆者作成

図表 4 基本統計量

基本統計量

基本統計量	Obs	Mean	Std.Dev	Min	Max
1 アジア地域統合の立場	1542	2.386	0.766	1	4
2 世界市民意識	1675	2.660	1.119	1	5
3 アジア人意識	1679	2.236	0.960	1	5
4 日本人意識	1673	1.891	0.971	1	5
5 地元意識	1651	2.867	1.129	1	5
6 文化の優越感	1676	2.964	1.073	1	5
7 保守的な意識	1649	3.038	1.029	1	5
8 FTA/EPA の知識	1701	2.222	0.783	1	3
9 国際交流能力	1609	2.928	0.823	0	4
10 年齢	1602	20.9	1.810	18	29
11 女性ダミー	1666	0.337	0.473	0	1
12 地方出身ダミー	1500	0.568	0.496	0	1
13 所在学校の偏差値	1607	2.521	1.313	1	5
14 父親教育レベル	1562	3.213	2.068	0	8
15 母親教育レベル	1545	3.833	1.966	0	8

出所：データにより筆者作成

図表 5 相関関係

相関関係

相関：Corr	アジア地域統合の立場	世界市民意識	アジア人意識	日本人意識	地元意識	文化の優越感	保守的な意識	FTA/EPAの知識	英語能力	年齢	所在学校の偏差値	父親教育レベル	母親教育レベル	女性ダミー	地方出身ダミー
アジア地域統合の立場	1														
世界市民意識	0.207	1													
アジア人意識	0.201	0.421	1												
日本人意識	0.086	0.003	0.194	1											
地元意識	0.085	0.132	0.184	0.138	1										
文化の優越感	-0.097	-0.035	-0.010	0.135	0.058	1									
保守的な意識	-0.191	-0.099	-0.086	0.032	0.016	0.179	1								
FTA/EPAの知識	0.063	0.000	0.050	0.146	0.031	-0.090	-0.042	1							
国際交流能力	0.141	0.160	0.150	0.053	0.019	-0.035	-0.092	0.254	1						
年齢	-0.113	0.015	-0.082	-0.134	0.002	0.106	0.051	-0.348	-0.180	1					
所在学校の偏差値	0.069	-0.018	0.037	0.161	0.047	-0.098	-0.066	0.327	0.333	-0.428	1				
父親教育レベル	-0.005	-0.037	-0.001	-0.005	-0.014	-0.035	-0.033	0.037	0.159	-0.078	0.242	1			
母親教育レベル	-0.007	-0.094	-0.011	0.053	-0.030	-0.078	-0.001	0.033	0.138	-0.106	0.229	0.483	1		
女性ダミー	-0.073	-0.141	-0.183	-0.053	-0.027	0.062	0.093	0.009	-0.150	-0.079	-0.137	-0.067	-0.065	1	
地方出身ダミー	-0.022	-0.020	0.021	0.044	-0.033	-0.019	0.005	0.004	0.063	-0.136	0.110	0.168	0.124	0.041	1

出所：データにより筆者作成

図表 6 推定結果—全体

推定結果

被説明変数：	アジア地域統合の立場										
モデル：	①	②	③	④	⑤	⑥					
世界市民意識	0.150 *** (5.26)	0.134 *** (4.16)	0.130 *** (4.04)	0.148 *** (4.63)	0.131 *** (3.66)	0.127 *** (3.51)					
アジア人意識	0.152 *** (4.44)	0.134 *** (3.53)	0.125 *** (3.26)	0.122 *** (3.20)	0.112 *** (2.58)	0.103 ** (2.36)					
日本人意識	0.016 (0.50)	0.045 (1.23)	0.049 (1.33)	0.032 (0.89)	0.081 * (1.93)	0.087 ** (2.06)					
地元意識	0.036 (1.37)	0.046 (1.56)	0.041 (1.38)	0.037 (1.25)	0.039 (1.18)	0.045 (1.34)					
文化の優越感	-0.068 ** (-2.44)	-0.069 *** (-2.20)	-0.074 ** (-2.37)		-0.060 * (-1.71)	-0.070 * (-1.95)					
保守的な意識	-0.188 *** (-6.64)	-0.169 *** (-5.20)	-0.169 *** (-5.21)		-0.168 *** (-4.61)	-0.167 *** (-4.53)					
FTA/EPA の知識	0.124 *** (3.32)	0.049 (1.09)			0.012 (0.23)	-0.011 (-0.21)					
国際交流能力					0.080 * (1.85)				0.110 ** (2.14)		
年齢		-0.060 *** (-2.84)	-0.065 *** (-3.18)	-0.068 *** (-3.36)	-0.054 ** (-2.22)	-0.058 ** (-2.38)					
女性ダミー		-0.013 (0.27)	0.025 (0.34)	-0.016 (-0.22)	-0.014 (-0.17)	-0.009 (-0.11)					
地方出身ダミー		-0.091 (-1.37)	-0.095 (-1.42)	-0.111 * (-1.67)	-0.085 (-1.11)	-0.096 (-1.25)					
所在学校の偏差値		0.012 (0.41)	0.020 (0.69)	0.015 (0.51)	0.004 (0.13)	-0.015 (-0.44)					
父親教育レベル		0.010 (0.55)	0.006 (0.34)	0.009 (0.48)	-0.002 (-0.10)	-0.005 (-0.21)					
母親教育レベル		0.020 (0.32)	0.009 (0.47)	0.007 (0.39)	0.000 (-0.01)	-0.004 (-0.16)					
Log likelihood	-1555.1	-1227.5	-1236.4	-1257.3	-948.7	-930.3					
Pseudo R2	0.055	0.048	0.047	0.036	0.048	0.052					
N	1460	1175	1182	1185	894	880					

( ) 内はz値。z値の下での\*、\*\*、\*\*\*はそれぞれ、10%、5%、1%有意(両側検定)であることを表す。

出所：データにより筆者作成

図表 7 推定結果—グループ別

推定結果

被説明変数：	アジア地域統合の立場							
	都市圏		地方					
世界市民意識	0.151 ***		0.100 **			0.117 ***	0.207 **	
	(2.70)		(2.05)			(2.87)	(2.54)	
アジア人意識	0.208 ***		0.010			0.069	0.260 **	
	(3.10)		(0.16)			(1.41)	(2.50)	
日本人意識	0.052		0.110 *			0.099 **	-0.004	
	(0.81)		(1.95)			(2.01)	-(0.04)	
地元意識	-0.010		0.100 **			0.065 *	-0.047	
	(-0.19)		(2.18)			(1.65)	-(0.67)	
文化の優越感	-0.079		-0.050			-0.088 **	-0.002	
	(-1.50)		(-0.99)			(-2.11)	(-0.03)	
保守的な意識	-0.160 ***		-0.174 ***			-0.157 ***	-0.230 ***	
	(-2.91)		(-3.43)			(-3.66)	(-3.01)	
FTA/EPA の知識	0.021		-0.046			-0.048	0.154	
	(0.25)		(-0.65)			(-0.78)	(1.43)	
国際交流能力	0.078		0.113			0.129 **	0.040	
	(0.97)		(1.63)			(2.13)	(0.40)	
年齢	-0.019		-0.106 ***			-0.055 *	-0.072	
	(-0.54)		(-2.99)			(-1.86)	(-1.57)	
女性ダミー	-0.076		0.035					
	(-0.57)		(0.32)					
地方出身ダミー						-0.167 *	0.121	
						(-1.80)	(0.82)	
所在学校の偏差値	0.012		-0.038			0.011	-0.127 *	
	(0.26)		(-0.76)			(0.28)	(-1.71)	
父親の教育レベル	0.017		-0.017			-0.007	-0.004	
	(0.50)		(-0.60)			(-0.26)	(-0.09)	
母親の教育レベル	-0.016		0.000			-0.003	0.021	
	(-0.47)		(0.01)			(-0.13)	(0.42)	
Log likelihood	-399.5		-522.1			-671.1	-238.6	
Pseudo R2	0.075		0.048			0.053	0.075	
N	394		486			600	280	

( )内はz値。z値の下での\*、\*\*、\*\*\*はそれぞれ、10%、5%、1%有意(両側検定)であることを表す。

出所：データにより筆者作成

**Asian Integration: Agreeability of students amidst unresolved historical issues**

**Jacinta Bernadette I. Rico**

**February 2010**

## **I. Introduction**

There have been many discussions about the establishment of an East Asian Community. Progress has been made in the economic front with the increase in the number of Free Trade Agreements and Economic Partnership Agreements led by Japan as well as the increase in intra-regional investments and financial flows. In the political front however, historical issues have not yet been resolved and the matter of which country or countries would take the lead in strengthening if not institutionalizing East Asian integration has not been settled.

Setting aside the opinions of academic scholars, businessmen, diplomats and politicians alike, this paper would like to investigate the perception of students about East Asian Integration. In particular, it would like to address the question “What are the factors that affect the degree of agreeability of international students to Asian Integration?”

The hypotheses of the paper are as follows:

1. The recognition that one is Asian and that one belongs to a regional community

is positively related to the agreeability to a more integrated Asia.

2. Openness to be exposed to a different culture or to international issues as represented by showing an interest in studying abroad increases acquiescence to a more integrated Asia.
3. Awareness in economic cooperation issues in the areas of Free Trade Agreements and Economic Partnership agreements contributes to additional support for an integrated Asia.
4. Knowledge in problems like historical textbook censorship, insufficient war compensation and comfort women decreases support or increases opposition to East Asian Integration.

An econometric analysis shall be performed using ordinal logistic regression using survey data from November-December 2009 on the international comparison regarding lifestyle and life awareness of students to analyze the influence of perception factors on the degree of agreeability of students to Asian Integration.

Chapter II provides a review of various papers discussing the progress and problems of East Asian Integration. Chapter III describes the survey data being used in

this paper as well as the econometric methodology being employed. Chapter IV presents the results of the regression and finally, Chapter V discusses the conclusion.

## **II. Review of Literature**

There has been immense development in the area of economic integration in East Asia. Economic integration began with trade integration, which has primarily been market-led (Urata, 2002). As the economies of East Asia grew faster relative to the rest of the world, coupled with a certain degree of trade liberalization and the benefits of economies of scale, trade within East Asia increased (Kawai, 2005). In addition, investment liberalization has allowed multi-national companies led by Japanese corporations to invest other segments of their production in other lower-waged South East Asian countries, which resulted in increased intra-industry in the region (Aktar, 2004; Chow, Mariano, et. al., 2005).

Recently, the importance of institution-led integration can be seen with the proliferation of various arrangements like regional trade agreements (RTAs) including free trade agreements (FTAs) (Kawai, 2005; Urata, 2002). The increase of these regional trade agreements has consequently contributed to even greater trade integration in the region (Chow, Mariano, et. al., 2005; Whalley and Xin, 2007).

Meanwhile, in the 1980s, many East Asian countries began liberalizing the financial sector by opening up services to foreign investors in order to improve capital market efficiency and attract foreign capital. Although this has successfully resulted in massive capital inflows in the region, the East Asian countries are still working towards achieving deeper financial integration within the region.

Some of the issues that the region is facing in achieving these are (1) differences in level of financial development with Japan, Hong Kong and Singapore being more advanced than the other countries, (2) high transaction costs due to the fragmented financial market structure in East Asia as characterized by differing accounting standards, tax rules, corporate governance standards, technology, currency, among others and (3) domestic market oriented, where borrowers prefer to borrow money in domestic currency because of low domestic interest rates and currency exchange risks (Aktar, 2004; Gochoco and Mapa, 2006).

In terms of Monetary Integration, it seems that the region is still a long way to achieve the level that the European Union has achieved. Nevertheless, the experience with the Asian Financial Crisis has prompted policymakers the need for further cooperation in the region. In this regard, there have been several initiatives such as the

Asian Monetary Fund, Asian Bond Market, Chiang Mai Initiative and even the possibility of unifying the regional exchange rate policy by forming an Asian Currency Union.

The Chiang Mai Initiative is a bilateral-currency swap arrangement in the region which is implemented in response to the Asian Financial Crisis. It aims to protect countries from disruptive currency and capital flow fluctuations. The Chiang Mai Initiative is seen as a first step to the formation of an Asian Monetary Fund, which is similar to the International Monetary Fund.

Meanwhile, the development of an Asian Bond Market would facilitate capital flows into the region by addressing the fragmentation of East Asian capital markets structure. As one of the causes of the Asian Financial crisis is the over reliance of borrowers on short-term foreign denominated loans which made them vulnerable to currency fluctuations, the Asian Bond Market would be able to address the difficulty of borrowers to acquire long-term domestically denominated loans while attracting foreign capital as well as intra-regional capital to flow within the region.

Exchange rate policy coordination responds to the need for exchange rate policy coordination to keep intra-regional exchange rate stable as the economies of East Asian countries become more integrated with increasing intra-regional trade, investment and capital flows. This is needed in order to keep regional growth and economic stability (Kawai, 2005).<sup>25</sup>

However, progress in the economic aspect has been stalled with the lack of leadership in the region to push for the institutionalization or furtherance of the integration as it depends on the strengthening of the relationship of the three largest economies in the East Asian Region, which are China, Japan and South Korea.

In order to achieve this, historical issues related to the previous world war and occupation by Japan needs to be addressed. Some of these issues are comfort women, Unit 731<sup>26</sup>, war reparations, government “apologies”, Yasukuni shrine visits, among others (Bill, Nozaki and Yang, 2001).

---

<sup>25</sup> Whether it is optimal for countries in the region to establish a currency union is another issue (Mundel, 1961; McKinnon, 1963, Bayumi and Eichengreen 1993; Frankel and Rose 1997 and 1998). Nevertheless, studies support that East Asian countries have fulfilled the criteria of establishing a currency union to a certain degree (Ogawa and Kawasaki, 2001; Bayoumi, Eichengreen, and Mauro 2000).

<sup>26</sup> Unit 731 pertains to the biological warfare experimentations conducted by the Japanese military where they used human beings as test subjects.

“Comfort women” is the term used for the women, mostly Chinese and Korean, who were forced to work in military brothels during the occupation period. Although there have been many accounts about the experience of comfort women survivors, despite the apology issued by Japan, some conservative Japanese politicians like former Prime Minister Abe and former Primer Minister Taro deny the forcible nature of these military brothels (Suzuki, undated; BBC, 2005 and 2007).

Another major cause of tension in the relationship among these countries is the censorship of the content of Japanese History Textbooks about the war crimes which have been committed during the Japanese Occupation Period. As an example, the “Rape of Nanking” in 1937 and the exploitation of “comfort women” were omitted by the Japanese Ministry of Education from Japanese Historical Textbooks from the 1950s to the 1970s (Li, 2003 in Liu and Atsumi, 2008).

Although Japanese historians like Professor Saburo Ienaga<sup>27</sup> have fought the censorship of Japanese textbooks since the 1950s, controversies remain. In 1982, China

---

<sup>27</sup> Professor Ienaga filed three lawsuits against the Japanese Government for omitting accounts of the Rape of Nanking and the experiments at Unit 731.

protested the revision made by the Japanese Ministry of Education to change the word “invaded (侵略)” to "advanced (進行) into" with respect to the invasion of Northern China. This led the Ministry of Education to adopt a "Neighboring Country Clause", which aims to be sensitive to neighboring Asian countries in their treatment of modern and contemporary historical events.

More recent issues involve the publishing of the “New History Textbook” (新しい歴史教科書), which was approved by the Ministry of Education in 2001. It led to a huge controversy as it downplays war atrocities performed by the Japanese Military during the Japanese Occupation Period. Although it is only used by very few junior high schools in Japan, it has led to various demonstrations in China and South Korea (Bill, Nozaki, Yang, 2001; Conachy, 2002).

Despite the numerous apologies given by the Prime Ministers of Japan, insensitive comments by government officials, like the former Nariaki Nakayama who, while stating that there is no such word as comfort women, also said that "victimized women in Asia should be proud of being comfort women", rub salt into the unhealed wounds of the past (China Daily, 2005).

In light of these issues, this paper would like to investigate how students view the idea of further integration in East Asia.

### III. Data and Methodology

For this paper, data from the “Asian Vision Survey” conducted by the Waseda University Global COE Program Global Institute for Asian Regional Integration (GIARI) is utilized. This survey, which was conducted in November and December 2009, investigates the lifestyle and life awareness of students.

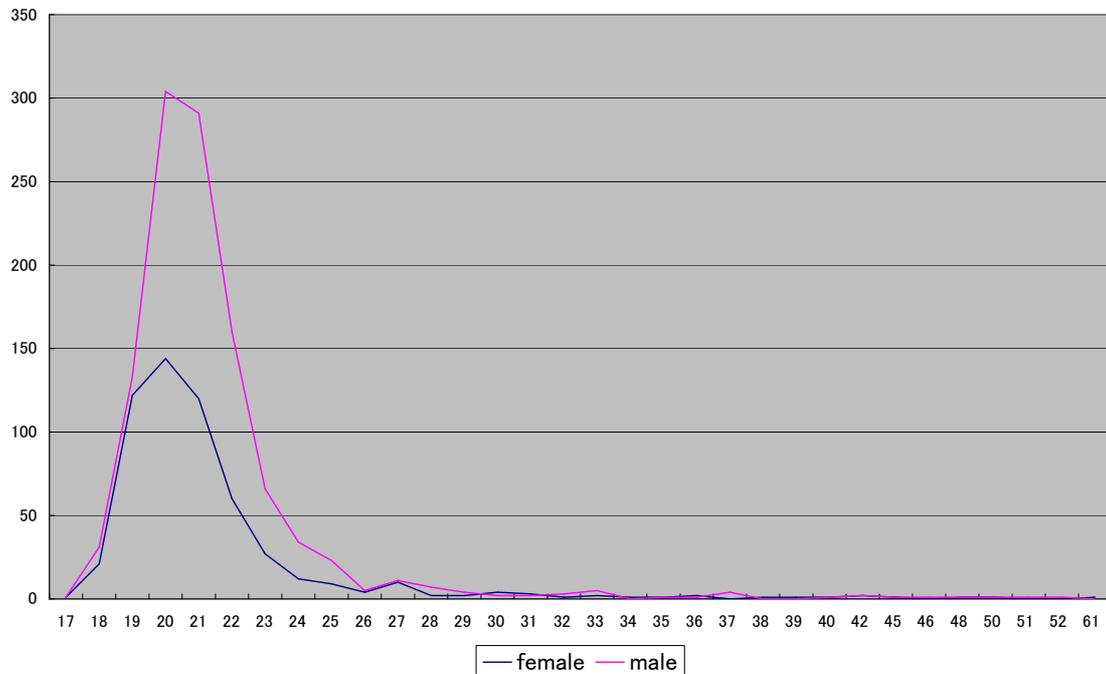
There were 1725 respondents, aged 17 to 61, of which 1,105 (almost two thirds) are male while 561 are female. (See Table 1)

**Table 1. Summary Statistics for the Age of Participants**

Variable	Obs	Mean	Std. Dev.	Min	Max
Age	1654	21.40	3.59	17	61

The distribution of age according to gender is shown in Figure 1 below.

**Figure 1. Distribution of data according the age and gender**



The survey was conducted by distributing a written survey to students in various languages. At present, there are Japanese, Korean, Chinese and English versions of the survey (See Appendix for the English Version) but the dataset only comprises of the results from the Japanese version. Versions for other languages such as Tagalog, Vietnamese, Bahasa and Thai are in the process of translating.

There are a total of 46 questions about societal and family values as well as awareness of international issues and interest in studying abroad. Apart from these,

there are 20 questions about the personal background of the respondent. These include data on age, gender, education, work background of parents and assets.

This research paper would like to deal with this survey question in particular:

*(Q36) Recently, there has been a great deal of discussion about the best for the Asian region to integrate like Europe. DO you agree or disagree with the idea of an integrated Asia?*

- 1- Strongly agree with the idea of an integrated Asia*
- 2- Mostly agree*
- 3- Disagree*
- 4- Strongly Disagree*
- 5- Don't Know*

The answer to this question provides ordinal data for the dependent variable. Answers for “Don’t Know” are not used in the regression to provide focus on definitive opinions. The values are changed to reflect the degree of agreeability. The value for strongly disagree (4) is converted to 0, disagree (3) to 1, mostly agree remains to be 2 and strongly agree (1) to 3.

Explanatory variables are derived using data from the same survey. A dummy variable for gender (male =1 for male) is employed to check for differences between the

opinions of males and females. Ordinal Variables are also used to describe the degree with which a person recognizes oneself as an Asian (Q25.3) and as belonging to a regional community (Q25.2), where values from 0-4 are assigned for “Don’t approve at all”, “Disapprove”, “Neither”, “Approve” and “Very much approve”, respectively. Although seemingly similar in nature, a correlation coefficient of 0.21 indicates that students perceive these two categories differently.

To measure a student’s degree of openness to be exposed to a different culture or to international issues, data for a student’s interest in going abroad to study (Q27) is used using ordinal variables 0-4 to stand for “Not interested at all”, “Don’t have much interest”, “Somewhat interested” and “Very Interested”, respectively. Similar to the dependent variable, the data with an answer “Don’t Know” is dropped to focus on definitive answers from respondents.

Finally, the relationship between a person’s knowledge about economic and political issues and one’s opinion on East Asian Integration is explored in this paper. To measure the degree with which one is knowledgeable about “Free Trade Agreements (FTAs) or Economic Partnership Agreements (EPAs)”, “History Textbook Problems”,

“Japanese war compensation” and “The issues of comfort women (Military brothels)”, ordinal data is used. Zero (0) stands for “I have never heard of it”, 1 is for “I have heard of it but I don’t know exactly what it means” and 2 is for “I have heard about it and [I] can explain what it is”.

Since respondents are students, age is not used as an explanatory variable as age is concentrated in the late teens to early twenties. In addition, preliminary regressions show that age is not a significant determinant. Nevertheless, it is included in the descriptive statistics of variables given in Table 2.

To investigate the relationship between a student’s agreeability to the East Asian Integration and various perceptions on international issues an ordinal logistic regression is employed since the dependent variable is an ordinal variable. This is chosen over a multinomial logistic regression which may yield similar results but information contained in the ordering is not taken into consideration.

The events are defined as follows:

1.  $\theta_0$  – prob (strongly disagree)/prob (not strongly disagree)
2.  $\theta_1$  – prob (disagree)/prob (not disagree)

3.  $\theta_2$  - prob (agree)/prob (not agree)

4.  $\theta_3$  – prob (strongly agree)/prob (not strongly agree)

Thus the ordinal logistic model is

$$\ln(\theta_i) = \alpha_i + \beta_1 \text{ male} \\ - \beta_2 \text{ interest in studying abroad} \\ - \beta_3 \text{ recognition as Asian} \\ - \beta_4 \text{ recognition as part of the regional community} \\ - \beta_5 \text{ knowledge of the FTA and EPAs} \\ - \beta_6 \text{ knowledge of textbook problems} \\ - \beta_7 \text{ knowledge of war compensation} \\ - \beta_8 \text{ knowledge of comfort women}$$

A minus sign is written in front of the all the ordinal independent variables instead of a plus sign so that the interpretation of the results is such that larger coefficients are associated with higher levels of agreeability.

**Table 2. Summary statistics of hypothesized determinants of student's agreeability to Asian Integration per degree of agreeability.**

Variable	Strongly disagree			Disagree			Mostly agree			Strongly agree		
	Mean	Std. Dev.	Max	Mean	Std. Dev.	Max	Mean	Std. Dev.	Max	Mean	Std. Dev.	Max
n	130			474			799			1399		
Age	21.26	2.77	18	21.04	3.20	18	21.53	3.76	17	22.67	4.68	18
Interest to Study Abroad	2.29	1.10	1	2.54	1.04	1	2.85	1.02	1	3.11	1.05	1
Asian Identity	4.09	1.23	1	4.12	0.87	1	4.12	0.93	1	4.40	0.95	1
Regional Community	3.05	1.34	1	3.66	0.92	1	3.89	0.86	1	4.01	1.00	1
FTA / EPAs	0.70	0.81	0	0.71	0.76	0	0.84	0.78	0	1.09	0.82	0
Textbook problem	1.78	0.49	0	1.63	0.56	0	1.63	0.58	0	1.77	0.52	0
War compensation	1.51	0.64	0	1.37	0.63	0	1.40	0.62	0	1.53	0.58	0
Comfort women	1.50	0.72	0	1.35	0.75	0	1.33	0.78	0	1.65	0.60	0

#### IV. Results

The results of the regression are given in Table 3. The first regression is run using all the control variables which are gender, interest in studying abroad, recognition of oneself as Asian or as part of a regional community, knowledge of FTAs and EPAs, History Textbook Problems, War Compensation and Comfort Women.

**Table 3. Results of the Ordinal Logistic Regression**

Agree	Coef.	(s.e)	z	P> z	Coef.	(s.e)	z	P> z
Male	-0.02	0.11	-0.14	0.89				
<b>Interest in studying abroad</b>	<b>*0.30</b>	0.05	5.88	0.00	<b>*0.29</b>	0.05	5.79	0.00
Asian	0.02	0.06	0.33	0.74	0.01	0.06	0.12	0.90
<b>Regional Community</b>	<b>*0.46</b>	0.06	7.90	0.00	<b>*0.46</b>	0.06	8.12	0.00
<b>FTA and EPA</b>	<b>*0.26</b>	0.07	3.60	0.00	<b>*0.26</b>	0.07	3.79	0.00
<b>History Textbook Problems</b>	-0.17	0.11	-1.50	0.13	<b>*-0.17</b>	0.09	-1.88	0.06
War Compensation	0.09	0.11	0.85	0.39				
Comfort Women	-0.09	0.08	-1.13	0.26				
/cut1	-0.01	0.35			-0.05	0.32		
/cut2	2.08	0.35			2.04	0.32		
/cut3	5.03	0.37			4.97	0.34		
Number of obs	1433				1456			
LR chi2(8)	142.15				142.5			
Prob> chi2	0				0			
Pseudo R2	0.0441				0.0434			
Log likelihood	-1540.1				-1569.2			

\*significant at the 1% level

The first regression shows that the variables for gender, war compensation and comfort women are not significant so they are dropped in the second regression. The variable for recognition of oneself as Asian is also insignificant in the first regression but it is found to be jointly significant with recognition of oneself as part of a regional community, hence it is not dropped in the second regression. The variable for knowledge of history textbook problems is not significant in the first regression; however, when other variables are dropped it becomes significant.

In the more parsimonious regression, interest in studying abroad, recognition of oneself as part of a regional community and knowledge of FTA and EPAs as well as history textbook problems are significant determinants at the 1% level of significance.

For ease of interpretation, results in odds ratio are given in Table 4.

**Table 4. Results of the Ordinal Logistic Regression, in Odds Ratio**

Agree	Coef.	(s.e)	z	P> z	Coef.	(s.e)	z	P> z
Male	0.98	0.11	-0.14	0.89				
<b>Interest in studying abroad</b>	<b>*1.35</b>	0.07	5.88	0	<b>*1.34</b>	0.07	5.79	0.00
Asian	1.02	0.06	0.33	0.74	1.01	0.06	0.12	0.90
<b>Regional Community</b>	<b>*1.58</b>	0.09	7.9	0	<b>*1.59</b>	0.09	8.12	0.00
<b>FTA and EPA</b>	<b>*1.29</b>	0.09	3.6	0	<b>*1.30</b>	0.09	3.79	0.00
<b>History Textbook Problems</b>	0.84	0.1	-1.5	0.13	<b>*0.84</b>	0.08	-1.88	0.06
War Compensation	1.09	0.12	0.85	0.39				
Comfort Women	0.91	0.08	-1.13	0.26				
/cut1	-0.01	0.35			-0.05	0.32		
/cut2	2.08	0.35			2.04	0.32		
/cut3	5.03	0.37			4.97	0.34		
Number of obs	1433				1456			
LR chi2(8)	142.15				142.50			
Prob> chi2	0.00				0.00			
Pseudo R2	0.04				0.04			
Log likelihood	-1540				-1569			

\*significant at the 1% level

Results show that as the degree of interest in studying abroad increases by one level, for example from “Somewhat interested” to “Very interested”, the proportional odds ratio of the degree of agreeability given all other factors are constant is 1.34. A similar analysis can be done for the variable of the recognition of oneself as Asian and the knowledge of FTA and EPA.

In the case of knowledge of History Textbook Problems, the odds for higher

agreeability are 0.84 times lower as the degree of knowledge in this issue deepens, given all other variables are held constant.

To facilitate analysis, a probabilities table is constructed in Table 5, where probabilities in rows add to 100%. Results are interpreted in the following manner: The probability that a person strongly agrees to East Asian Integration given that the person is very interested in studying abroad is 10.69%.

**Table 5. Predicted probabilities on the agreeability of students to Asian Integration**

	<b>Strongly Disagree</b>	<b>Disagree</b>	<b>Mostly Agree</b>	<b>Strongly Agree</b>
Interest in studying abroad				
Not interested at all	11.63%	39.90%	43.71%	4.76%
Not much interested	8.96%	35.32%	49.45%	6.27%
Somewhat interested	6.85%	30.42%	54.52%	8.21%
Very interested	5.21%	25.55%	58.55%	10.69%
Recognition of oneself...				
... as an Asian				
Don't approve at all	7.53%	32.14%	52.85%	7.48%
Disapprove	7.48%	32.02%	52.97%	7.53%
Neither	7.43%	31.90%	53.09%	7.58%
Approve	7.38%	31.79%	53.21%	7.63%
Very Much Approve	7.33%	31.67%	53.32%	7.68%
... as part of a regional community				

Don't approve at all	22.19%	47.54%	28.01%	2.25%
Disapprove	15.23%	43.97%	37.27%	3.53%
Neither	10.16%	37.58%	46.76%	5.50%
Approve	6.65%	29.87%	55.03%	8.46%
Very Much Approve	4.29%	22.29%	60.61%	12.80%
Knowledge...				
... of FTAs and EPAs				
Know and can explain	8.95%	35.30%	49.47%	6.28%
Heard of it but can't explain	7.05%	30.94%	54.02%	7.98%
Never heard of it before	5.53%	26.58%	57.78%	10.10%
... of history textbook problems				
Know and can explain	5.62%	26.87%	57.56%	9.95%
Heard of it but can't explain	6.63%	29.81%	55.08%	8.49%
Never heard of it before	7.79%	32.78%	52.21%	7.22%

Following the hypothesis, it may also be seen in the table that regardless of the degree of interest in studying abroad, Asian identity and knowledge of issues, the probability of being in the “Mostly Agree” criteria is around 40-60% except for the recognition as part of a regional community.

What is puzzling in the findings is that although the percentage of agreeing to the Asian Integration is higher regardless of knowledge of FTAs and EPAs, looking at the figures within each degree of knowledgeability, contrary to the hypothesis, as one

deepens the knowledge in FTAs and EPAs, the probability of agreeing to East Asian Integration lowers. Meanwhile, greater knowledge about the history textbook problems led to higher probabilities of approving East Asian Integration.

## **V. Discussion**

In general, the survey shows that the majority of the students agree to Asian Integration. This paper would like to investigate how various perceptions and knowledge of issues affect the degree of agreeability to this issue.

The regression analysis presents interesting results as opinions between neither age nor gender does not seem to differ with respect to Asian Integration. Greater interest in studying abroad, recognition of oneself as Asian along with knowledge of history textbook problems contributes to greater agreeability with Asian Integration. Issues of comfort women and war reparation are shown to be insignificant.

An interesting point for further research would be to investigate the reasons underlying the perceptions of these students. In particular, how come the probability of

agreeing to the Asian integration lowers as the knowledge of FTAs and EPAs increases despite the numerous studies supporting the link between free trade agreements and increased trade on one hand, and increased trade and output growth on the other hand?

In addition, it is interesting that students would still like to pursue East Asian Integration despite the fact that issues such as the history textbook problems remain unresolved. Do these students think that integration would result in the resolution of these problems or that integration should continue despite the lack of closure or consensus from these issues?

Another extension of this study is to increase the variability of the sample by including the results of student's perception from different Asian countries and also investigate if there are differences in perceptions from students in different countries. The survey for other countries is currently being translated and shall be conducted by GIARI in the near future.

## VI. References

- Aktar, Shamshad. 2007. Economic Integration in East Asia: Trends, Challenges and Opportunities. Paper presented at The Challenges and Opportunities of Economic Integration in East Asia, 27 October 2004, Royal Society, London.
- BBC News*. "Japan anger at US sex slave bill" March 12, 2005, <http://news.bbc.co.uk/2/hi/asia-pacific/6374961.stm>
- Bayoumi, Tamim and Barry Eichengreen. 1993. One Money or Many? On Analyzing the Prospects for Monetary Unification in Various Parts of the World. Center for International and Development Economics Research (CIDER) Working Papers C93-030, University of California at Berkeley.
- Bayoumi, Tamim, Barry Eichengreen, and Paolos Mauro. 2000. On regional monetary arrangements for ASEAN. CEPR Discussion Paper, No.2411.
- Beal, Tim, Yoshiko Nozaki and Jian Yang. 2001. Commentary: Ghosts of the Past; The Japanese History Textbook Controversy. *New Zealand Journal of Asian Studies* 3, 2: 177-188.**
- China Daily*. "Comfort women' distortion stirs indignation." July 13, 2005, [http://www.chinadaily.com.cn/english/doc/2005-07/13/content\\_459772.htm](http://www.chinadaily.com.cn/english/doc/2005-07/13/content_459772.htm)
- Chow, Hwee Kwan, Peter N. Kriz, Roberto S. Mariano and Augustine H. H. Tan. "Trade, Investment and Financial Integration in East Asia." ASEAN+3 Secretariat, (2005)
- Frankel, Jeffrey A., and Andrew K. Rose. 1997. Is EMU More Justifiable Ex Post Than Ex Ante? *European Economic Review* 41 (3/5): 753-760.
- Frankel, Jeffrey A., and Andrew K. Rose. 1998. The Endogeneity of the Optimum Currency Area Criteria. *The Economic Journal* 108(449): 1009-25.
- Gochoco-Bautista, M.S. and Mapa, Dennis S. "The Linkage between Trade and Financial Integration and Output Volatility in East Asia" Working Paper, University of the Philippines, (2006).
- Hogg, Chris. "Japan WWII sex slave redress call." *BBC News*, February 19, 2007, <http://news.bbc.co.uk/2/hi/asia-pacific/4342797.stm>
- James Conachy. "Japanese history textbook provokes sharp controversy" *World Socialist Website*, 7 June 2001, <http://www.wsws.org/articles/2001/jun2001/text-j07.shtml>
- Kawai, Masahiro. 2005. East Asian economic regionalism: progress and challenges. *Journal of Asian Economics* 16: 29–55.
- Li P (Ed) (2003) Japanese war crimes. Transaction Press, Piscataway NJ cited in Liu,

- James and Tomohide Atsumi. 2008. Historical Conflict and Resolution between Japan and China: Developing and Applying a Narrative Theory of History and Identity in *Meaning and Action*, eds by. Sugiman, Toshio, et. al., Chapter 19, Springer.
- McKinnon, Ronald I. 1963. Optimum Currency Areas. *The American Economic Review* Vol. 53, No. 4 (Sep., 1963), pp. 717-725.
- Mundell, Robert A. 1961. A Theory of Optimum Currency Areas. *The American Economic Review* 51(4): 657-65.
- Ogawa, Eiji and Kentaro Kawasaki. 2001. Toward an Asian Currency Union. Paper presented at the 2001 KIEP/NEAEF Conference on Strengthening Economic Cooperation in Northeast Asia, 16-17 August 2001, Honolulu, Hawaii.
- Suzuki, Tessa-Morris. "Japan's 'Comfort Women': It's time for the truth (in the ordinary, everyday sense of the word)" *Asian Pacific Journal: Japan focus*, <http://japanfocus.org/-Tessa-Morris-Suzuki/2373>
- Urata, Shujiro. 2002. A Shift from Market- led to Institution- led Regional Economic Integration in East Asia. Paper presented at the Conference on Asian Economic Integration, Research Institute of Economy, Trade and Industry, April 22 and 23, 2002, United Nations University, Tokyo.
- Whalley, John, and Xian Xin. 2007. Regionalization, Changes in Home Bias and the Growth of World Trade. NBER Working Paper No. 13023.

参考資料：Asia-Vision サーベイ日本語調査表

# Asia-Vision サーベイ

## 学生の意識に関する国際比較調査

2009年11・12月

文部科学省グローバルCOEプログラム  
早稲田大学「アジア地域統合のための世界的人材育成拠点」(GIARI)

このたび、私たち、早稲田大学G-COE「アジア地域統合のための世界的人材育成拠点」では、アジア各国の相互理解の現状、並びに今後の共存の道を模索するべく、学生を対象とした意識調査「Asia-Visionサーベイ」を実施することになりました。

このアンケートにおいて、ご回答はすべて「〇〇という回答が△△パーセント」というように統計的数字にまとめられ、統計分析の対象となるもので、調査対象者のお名前が出ることは絶対にございませぬ。また、この調査の分析結果は学術研究の発展、ひいてはアジア各国間の相互理解に寄与するのが目的で、セールス等に利用することは一切ございませぬ。なお、今回まとめられた統計結果は、学術研究、新聞その他を通じて発表されます。

お忙しいところ、誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解の上、本調査にご協力いただけるよう、心よりお願い申し上げます。

Asia-Vision サーベイ 担当 栗田・河路

ホームページ [http://www.waseda-giari.jp/index\\_j.html](http://www.waseda-giari.jp/index_j.html)

E-mail: [asia-vision@list.waseda.jp](mailto:asia-vision@list.waseda.jp)

Tel: 03-5286-2168 (平日:10:00~17:00)

<ご回答いただくにあたってのお願い>

- 記入方法に従い、質問番号の順番に、鉛筆かボールペンで数字を記入したり、○をつけたりしてください。
- 「理由やご意見を記入していただく」欄や「その他」の欄には、記入スペースを設けてありますので、具体的にご記入ください。

調査担当者記入欄

調査員番号

調査年月日

コードA

コードB

コードC



**問6** 結婚をするのであれば、何歳ぐらいするのが理想ですか？（具体的に記入）

（                      ）歳ぐらい

**問7** あなたは、夫婦の間に何人の子供がいるのが理想的だと思いますか。（具体的に記入）

（                      ）人ぐらい

**問8** 民主党が掲げる子ども手当（月額2万6000円の支給）についてあなたはどうおもいますか。  
（1つだけ○印）

1	2	3	4	9
非常に 賛成	おおむね 賛成	やや 反対	非常に 反対	知らない

**問9** あなたの親や保護者は、あなたが子どもの時に、どのように成長してほしいと言っていましたか。息子の  
場合、娘の場合に、それぞれ最も近い項目を2つ選び、番号に○をしてください。もしあなた以外に息子か娘が  
いない場合には、男の子や女の子に対するあなたの親や保護者の考えを想像して答えてください  
（それぞれの性別（縦軸方向）で2つまで選択して○印）。

	(a) 息子に対して (2つ選択)	(b) 娘に対して (2つ選択)
1 偉大な学者になること	1	1
2 権力ある政治リーダーになること	2	2
3 経済的に大変豊かになること	3	3
4 愛情あふれる慈悲深い人になること	4	4
5 大衆に尊敬される人になること	5	5
6 親や保護者よりも優れた専門家になること	6	6
7 親や保護者の跡を継ぐこと	7	7
8 家族を世話する人になること	8	8
9 よい結婚相手を見つけること	9	9
10 精神的に満たされること	10	10
11 その他（具体的に：                      ）	11	11
12 分からない	99	99

**問10** 以下は、子どもが家庭で学ぶべきとされる点のリストです。あなたが最も重要だと思う2つを選んでく  
ださい。（選択した2つの番号を右の□の中に記入）

- |         |               |
|---------|---------------|
| 1 自立・独立 | 7 信心深さ        |
| 2 勤勉    | 8 忍耐力         |
| 3 正直    | 9 競争心         |
| 4 誠実    | 10 お年寄りに対する尊敬 |
| 5 注意深さ  | 11 教師に対する尊敬   |
| 6 謙虚    | 99 分からない      |

--	--

**問11** 次にあげる意見それぞれについて、あなたはどの程度賛成ですか。（各項目で1つ○印）

	強く賛成	賛成	どちらでもない	反対	強く反対
A) 母親が働いていても、働いていない母親と同じように暖かくてしっかりした母子関係を築くことができる	1	2	3	4	5
B) 家庭の主婦であることはお金のために働くのと同じくらい充実している	1	2	3	4	5
C) 家庭の維持費は夫も妻もともに稼ぎだすべきだ	1	2	3	4	5
D) 一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している	1	2	3	4	5
E) 大学教育は女子より男子にとって重要である	1	2	3	4	5
F) 一般的に、男性の方が女性より経営幹部として適している	1	2	3	4	5
G) 結婚は時代遅れの制度である	1	2	3	4	5

**問12** 人生の目標は人によって異なります。次にあげる目標それぞれについて、あなたはどの程度賛成ですか。（各項目で1つ○印）

	強く賛成	賛成	どちらでもない	反対	強く反対
A) 親が私を誇りに思えるように努めることが人生目標の1つである	1	2	3	4	5
B) 他人に迎合するよりも、自分らしくありたい	1	2	3	4	5
C) 友人の期待に応えるよう努力している	1	2	3	4	5
D) 自分の人生の目標は自分で決める	1	2	3	4	5

**問13** あなたは次のようなことがらについて、どの程度知っていますか。(各項目で1つ○印)

	聞いたことがある し、ある程度説明も できる	聞いたことはある が、内容はよくわか らない	聞いたことがないの でよくわからない
排出権取引	1	2	3
グリーン・ニューディール	1	2	3
FTA・EPA	1	2	3
ミレニアム開発目標	1	2	3
アジェンダ 21	1	2	3
歴史教科書問題	1	2	3
日本の戦後処理	1	2	3
従軍慰安婦問題	1	2	3
築地移転問題	1	2	3
ap バンク	1	2	3

**問14** 持続可能な社会の構築に向けて、どのような点がもっとも重要だと思いますか。  
(縦の列でそれぞれ1つだけ○印)

	最も重要	二番目に 重要	二番目に 重要では ない	最も重要 ではない
経済成長	1	1	1	1
生物多様性の維持	2	2	2	2
世代間の公平性	3	3	3	3
地球温暖化問題の緩和	4	4	4	4
先進諸国と途上国の協力	5	5	5	5
人々のモラル	6	6	6	6
情報化の進展	7	7	7	7
NGO/NPO などの活動	8	8	8	8
国連など国際組織の強化	9	9	9	9
マスコミによる啓蒙活動	10	10	10	10
その他(具体的に: )	11	11	11	11
わからない	99	99	99	99

**問15** アジア地域には、戦争や植民地支配といった悲惨な歴史があります。あなたはこうした歴史問題についてどの程度関心がありますか(1つだけ○印)

1	2	3	4	9
非常に 関心がある	それなりに 関心がある	あまり 関心がない	全く 関心がない	知らない

**問16** アジア諸国の間では、日本の戦争・植民地支配の歴史認識のあり方をめぐって、しばしば摩擦が生じています。そこで、このような歴史問題を解決し友好的関係を築いていくために、どのようなことが最も有効だと思いますか。(番号を右の口の中に記入。その他の場合は具体的な内容も記入してください)

- 1 心からの反省と謝罪
- 2 賠償問題の再検討
- 3 経済援助
- 4 人道支援
- 5 歴史認識を一致させるための共同研究
- 6 ナショナリズムの自制
- 7 真相の究明
- 8 経済関係の深まり
- 9 幅広い文化交流
- 10 時の経過
- 11 解決できない
- 12 その他(具体的に: )
- 99 わからない

**問17** これからアジア地域が関係を発展させる上で、最も障害になると思われる問題は何だと思いますか。(番号を右の口の中に記入。その他の場合は具体的な内容も記入してください)

- 1 領土問題
- 2 資源問題
- 3 歴史認識の違い
- 4 経済摩擦
- 5 貧富の格差
- 6 文化の違い
- 7 近隣諸国の軍事大国化
- 8 民族感情
- 9 その他(具体的に: )
- 99 わからない

**問18** あなたの他のアジア諸国に関する歴史の知識は、何がもとになっていますか。最も影響が大きいと思うものを選んでください。(番号を右の口の中に記入。その他の場合は具体的な内容も記入してください)

- 1 自分や家族の体験
- 2 友人や知人の体験
- 3 学校教育
- 4 記念館や歴史施設
- 5 新聞やテレビ・ラジオの報道
- 6 書籍や雑誌
- 7 インターネット
- 8 映画やドラマ
- 9 その他(具体的に: )
- 99 わからない

**問19** 日本が国際社会で最も大きな役割を果たそうとする場合、あなたが最も大切だと思うことはなんですか。  
 (番号を右の口の中に記入。その他の場合は具体的な内容も記入してください)

- 1 アジア近隣諸国の理解・支持を取り付ける
- 2 国連との協同步調
- 3 アメリカとの協同步調
- 4 平和国家としての貢献
- 5 自衛隊の積極的派遣
- 6 その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
- 9 わからない

**問20** 国際紛争を解決する手段として何が重要と思いますか。最も重要なもの、二番目に重要なもの、最も重要でないものを、それぞれ選んでください。（縦の列でそれぞれ1つだけ○印）

	最も重要	二番目に重要	最もよくない
当事国間の外交対話	1	1	1
自国の軍事力の強化	2	2	2
軍備の縮小または撤廃	3	3	3
核の保有	4	4	4
非核化	5	5	5
武力行使	6	6	6
経済制裁	7	7	7
国連の決定の下の協調行動	8	8	8
アジア・太平洋地域の安全保障協力	9	9	9
わからない	99	99	99

**問21** 一国の法規制を越えた戦争のような人権侵害が行われる場合、これを規制するには次のどれが一番有効だと思いますか。（番号を右の口の中に記入。その他の場合は具体的な内容も記入してください）

- 1 コミュニティ
- 2 NGO や NPO などの人権団体
- 3 国家
- 4 アジア地域内の国家間組織
- 5 国連のような国際組織
- 6 その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
- 9 わからない

**問22** あなたは次のようなことがらを、誰と共有していると思いますか。(各項目で1つ○印)

	自分のみ	家族や友人仲間	地域コミュニティ	社会集団または特定の組織	国民全体	アジア地域	地球全体	その他	わからない
(a) 経済発展	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(b) 不況対策	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(c) 教育や福祉の充実	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(d) 生活水準の向上	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(e) 歴史	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(f) 伝統	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(g) 娯楽	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(h) 安全	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(i) 平和	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(j) 環境問題	1	2	3	4	5	6	7	8	9

**問23** あらゆる社会に差別はあるでしょう。下記のどの分野で最も平等を促進すべきだと思いますか。あなたにとって最も重要な1つの項目を選んでください。

(番号を右の口の中に記入。その他の場合は具体的な内容も記入してください)

- 1 ジェンダー
- 2 年齢
- 3 教育
- 4 職業
- 5 収入・財産
- 6 宗教
- 7 家系・出身
- 8 エスニシティ
- 9 その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
- 99 分からない

**問24** あなたは日本人(留学生の方はあなたの祖国の人間)であることにどのくらい誇りを感じますか。(1つだけ○印)

1	2	3	4	9
非常に感じる	それなりに感じる	あまり感じない	全く感じない	わからない

**問25** グローバル化の進展とともに、世界市民や地域／民族主義などがうたわれるようになり、アイデンティティーは「国」を越えて多様化しています。このような現代の動きの中で、あなたは自分自身をどう捉えていますか。(各項目で1つ○印)

	非常に同意する	同意する	どちらでもない	同意しない	まったく同意しない
1. 私は世界市民である	1	2	3	4	5
2. 私はアジア人である	1	2	3	4	5
3. 私はXX国人である	1	2	3	4	5
4. 私は地元のコミュニティに属している意識がある	1	2	3	4	5
5. 私は国籍よりも民族や人種によるアイデンティティーの方が大きい	1	2	3	4	5
6. 私の国の文化は、他の国よりも優れている	1	2	3	4	5
7. 愛国心を養う教育をおこなうべきである	1	2	3	4	5

**問26** 学士号を取得した後に、どの教育段階まで進みたいと思いますか？(番号を右の□の中に記入)

- 1 博士課程・博士後期課程
- 2 修士課程
- 3 学位を取得しない専門的教育・訓練
- 4 (学士後) 教育を受けない
- 9 分からない

**問27** 将来の留学に対する興味・関心について教えてください。(番号を右の□の中に記入)

- 1 とても興味・関心がある (問28へ)
- 2 少し興味・関心がある (問28へ)
- 3 あまり興味・関心がない (問28へ)
- 4 まったく興味・関心がない (問31へ)
- 9 分からない (問31へ)

[問27 で (1-3)と答えた方]

問28 留学先(国)として、下記の国に、どの程度興味・関心があるか教えてください。

(各国1つだけ○印)

	とても 興味・関心 がある	少し興味・ 関心がある	あまり 興味・関心 がない	まったく 興味・関心 がない	自国である
a オーストラリア	1	2	3	4	9
b カナダ	1	2	3	4	9
c 中国	1	2	3	4	9
d フランス	1	2	3	4	9
e ドイツ	1	2	3	4	9
f インド	1	2	3	4	9
g インドネシア	1	2	3	4	9
h 日本	1	2	3	4	9
i マレーシア	1	2	3	4	9
j ニュージーランド	1	2	3	4	9
k フィリピン	1	2	3	4	9
l シンガポール	1	2	3	4	9
m 韓国	1	2	3	4	9
n タイ	1	2	3	4	9
o イギリス	1	2	3	4	9
p アメリカ合衆国	1	2	3	4	9
q ヴェトナム	1	2	3	4	9

[問27 で (1-3)と答えた方]

**問29** 留学先（国）を選択する時（あるいは選択した時）、下記の点についてどう思いますか。  
 （各項目で1つ〇印）

	とても興味・関心がある	少し興味・関心がある	あまり興味・関心がない	まったく興味・関心がない	分からない
a 高い教育の質	1	2	3	4	9
b 高い研究の質	1	2	3	4	9
c 大学の評判	1	2	3	4	9
d 英語で学べること	1	2	3	4	9
e 英語以外の言語で学べること	1	2	3	4	9
f あなたの大学で交換留学プログラムが利用できること	1	2	3	4	9
g あなたの国にとっての政治的重要性	1	2	3	4	9
h 留学先（国）の政治的自由	1	2	3	4	9
i あなたの国にとっての経済的重要性	1	2	3	4	9
j 留学先（国）の将来における経済的ポテンシャル	1	2	3	4	9
k 留学先（国）の文化に対するあなたの興味・関心	1	2	3	4	9
l 文化的障壁（食べ物・宗教・習慣・人間関係など）が少ないこと	1	2	3	4	9
m 出発前に奨学金を利用できること	1	2	3	4	9
n 留学中に奨学金を獲得できる機会があること	1	2	3	4	9
o 留学中にアルバイトをする機会があること	1	2	3	4	9
p より低い授業料	1	2	3	4	9
q より低い生活費	1	2	3	4	9
r 治安	1	2	3	4	9
s 留学生を多く受け入れていること	1	2	3	4	9

[問27 で (1-3)と答えた方]

**問30** もし留学する場合、留学後の生活についてお聞かせください。（番号を右の口の中に記入）

- 1 留学後、自分の国に帰る
- 2 留学後、数年間、留学先（国）に住んだ後に、自分の国に帰る
- 3 留学後、10年以上、留学先（国）に住んだ後に、自分の国に帰る
- 4 留学後ずっと、留学先（国）に住む
- 5 留学後、留学先（国）以外の国に住む
- 9 分からない

**問3 1** 一般的に「教育」から得られる利益・恩恵とは何だと思いますか。(各項目で1つ○印)

	非常に同意する	同意する	どちらでもない	同意しない	まったく同意しない	わからない
1. 人間性を養う	1	2	3	4	5	9
2. 希望する職を得られる	1	2	3	4	5	9
3. より多く稼げる	1	2	3	4	5	9
4. 外国に住める	1	2	3	4	5	9
5. より高い社会的地位が望める	1	2	3	4	5	9
6. 自国の発展と繁栄に貢献する	1	2	3	4	5	9
7. 国際的な職業に就ける	1	2	3	4	5	9

**問3 2** 次のような意見に対して、あなたの意見をお聞かせください。(各項目で1つ○印)

	非常に同意する	同意する	どちらでもない	同意しない	まったく同意しない	わからない
1. 政府は自国民の利益を守るため、外国人労働者の移入を制限すべきである	1	2	3	4	5	9
2. 男女平等を達成するため、女性への雇用機会拡大を進めるべきである	1	2	3	4	5	9
3. 経済成長が停滞するとしても、人権の平等を先に尊重すべきである	1	2	3	4	5	9
4. 政府は市場を用いて経済成長を重視するよりも、福祉政策を充実させるべきである	1	2	3	4	5	9
5. 一般大衆は、政策に影響を与える力をもっていない	1	2	3	4	5	9

**問3 3** あなたが就職活動を行う際に重要視するだろう条件についてお答えください。(各項目で1つ○印)

	非常に重要である	重要である	どちらでもない	重要でない	まったく重要でない
1. 給与レベル	1	2	3	4	5
2. 職業の安定	1	2	3	4	5
3. 昇進の機会	1	2	3	4	5
4. トレーニングの機会	1	2	3	4	5
5. 職場の雰囲気	1	2	3	4	5
6. 勤務時間の長さ	1	2	3	4	5
7. 会社の知名度	1	2	3	4	5
8. 福利厚生	1	2	3	4	5
9. 仕事内容	1	2	3	4	5
10. 専攻分野との関連性	1	2	3	4	5
11. 家族の反応・アドバイス	1	2	3	4	5
12. 学閥	1	2	3	4	5

**問3 4** どの国の企業・組織に勤めたいですか？具体的な国名を教えてください。また、思い浮かぶ具体的な職種がありましたら、そちらもお書きください。

国名		職種	
----	--	----	--

**問3 5** 昨今、日本では非正規雇用の拡大が論じられていますが、若者がフリーターになる理由をどのように考えていますか。（各項目で1つ〇印）

	非常に同意する	同意する	どちらでもない	同意しない	まったく同意しない	わからない
1. 仕事以外にしたいことがあるため	1	2	3	4	5	9
2. つきたい仕事の準備や勉強をするため	1	2	3	4	5	9
3. つきたい仕事の就職機会を待つため	1	2	3	4	5	9
4. つきたい仕事がパートやアルバイトでできるため	1	2	3	4	5	9
5. 自分に合う仕事を見つけるため	1	2	3	4	5	9
6. 正社員として採用されなかったため	1	2	3	4	5	9
7. 学費などを稼ぐため	1	2	3	4	5	9
8. なんとなくフリーターを選んだため	1	2	3	4	5	9
9. 正社員として働くのがいやなため	1	2	3	4	5	9

**問3 6** 現在、ヨーロッパの統合のように、アジア地域での統合を模索する議論や試みがなされています。こうした「アジア地域統合」に対して、あなたは肯定的な立場ですか、否定的な立場ですか。（1つだけ〇印）

1	2	3	4	9
大変同意する	おおむね同意できる	あまり同意できない	全く同意できない	わからない

**問3 7** アジア地域統合はヒトの交流や文化的な側面等で、既に進んできているとする意見もありますが、あなたは以下のことがらが、アジア地域統合にとってどの程度重要な役割をもつと思いますか？

（各項目で1つ〇印）

	非常に重要である	重要である	どちらでもない	重要でない	まったく重要でない	わからない
漫画・アニメ	1	2	3	4	5	9
音楽	1	2	3	4	5	9
映画・テレビドラマ	1	2	3	4	5	9
市民活動（NGO・ボランティア）	1	2	3	4	5	9
親善・文化交流（観光・旅行を含む）	1	2	3	4	5	9
インターネットによる情報提供	1	2	3	4	5	9



**問43** 自分の国や世界で何が起きているかを知るために利用する情報源は人によってさまざまです。次のような情報源について、先週、情報を得るために、利用したか、利用しなかったかをお答えください。

(各項目で1つ○印)

	先週利用した	先週利用しなかった
1. 新聞	1	2
2. ラジオやテレビのニュース	1	2
3. 雑誌	1	2
4. ラジオやテレビの報道番組	1	2
5. 本	1	2
6. インターネット、電子メールの情報	1	2
7. 友人との会話	1	2

**問44** 次のような情報源について、どの程度信用できると思いますか。(各項目で1つ○印)

	信用できる	やや信用できる	あまり信用できない	信用できない
1. 新聞	1	2	3	4
2. ラジオやテレビのニュース	1	2	3	4
3. 雑誌	1	2	3	4
4. ラジオやテレビの報道番組	1	2	3	4
5. 本	1	2	3	4
6. インターネット、電子メールの情報	1	2	3	4
7. 友人との会話	1	2	3	4

**問45** では、次のような情報源について、どの程度役に立つと思いますか。(各項目で1つ○印)

	役に立つ	やや役に立つ	あまり役に立たない	役に立たない
1. 新聞	1	2	3	4
2. ラジオやテレビのニュース	1	2	3	4
3. 雑誌	1	2	3	4
4. ラジオやテレビの報道番組	1	2	3	4
5. 本	1	2	3	4
6. インターネット、電子メールの情報	1	2	3	4
7. 友人との会話	1	2	3	4

**問46** あなた自身の10年後はどうなっているでしょうか？あなたが育った街、国、アジア地域の未来などをふまえて、自由にお書きください。

A large, empty rounded rectangular box with a thin black border, intended for the user to write their response to the question. The box is vertically oriented and occupies most of the page below the question text.

さて、ここまで回答にご協力いただき誠にありがとうございます。このあとの質問項目は、あなたご自身のこととご家族のことについてお聞きいたします。繰り返しになりますが、このアンケートは、ご回答はすべて「〇〇という回答が△△パーセント」というように統計的数字にまとめられ、統計分析の対象となるもので、調査対象者のお名前、住所などを特定したり、公表することは絶対にごさいます。何卒ご理解の上、今しばらく調査におつきあいいただければ幸いです。

問 F1 どちらかに○をつけてください。

**1**  
**男性**

**2**  
**女性**

問 F2 あなたのお年は何歳ですか。

満 \_\_\_\_\_ 歳

問 F3 あなたの所属する大学と学部名（大学院の場合は研究科名）、学年を教えてください。

\_\_\_\_\_ 大学・大学院

\_\_\_\_\_ 学部・研究科

\_\_\_\_\_ 年次在籍

問 F4 あなたの英語の運用能力について教えてください（1つだけ○印）。

1	2	3	4	5
流ちょうに会話 が出来る	日常会話程度な ら大丈夫	あまり話せない	ほとんど話すこ とが出来ない	わからない

問 F5 あなたのご趣味は何でしょうか。一つだけお書きください。

問 F6 あなたが大学に入学する際に、あなたの兄弟姉妹はあなたを含めて何人でしたか。すでに亡くなっていた方はのぞいてください。あなたはその中の上から何番目でしたか。また同性の兄弟の中では何番目でしたか。

兄弟姉妹数 \_\_\_\_\_ 人      全体の中で \_\_\_\_\_ 番目      同性の中で \_\_\_\_\_ 番目

問 F7 あなたの生まれ故郷について教えてください。留学生の方は国名、地域名などをお書きください

\_\_\_\_\_ 国

\_\_\_\_\_ 都道府県

\_\_\_\_\_ 区市町村

問 F8 あなたの現住所を教えてください。

\_\_\_\_\_ 都道府県

\_\_\_\_\_ 区市町村

問 F9 現在はご両親と同居されていますか (1 つだけ○印)。

1  
同居

2  
同居していない

問 F10 あなたは現在、ご両親から仕送り、あるいはお小遣いをもらっていますか。もしもらっているのであれば、その金額を教えてください。

1  
もらっていない

2  
もらっている(金額: \_\_\_\_\_ 円)

問 F11 あなたは現在アルバイトをしていますか。もししているのであれば職種 (複数の場合はすべてお書きください) と月収 (合計金額をお書きください) を教えてください。

1  
していない

2  
している (職種: \_\_\_\_\_ )

(合計金額: \_\_\_\_\_ 円)

問 F12 あなたのお父さんについてお聞きします。あなたのお父さんの年齢はおいくつですか (お亡くなりになった場合にはあなたが何歳の時に他界されたのかをお書きください)。

満 \_\_\_\_\_ 歳

(あなたが \_\_\_\_\_ 歳の時に他界)

問 F13 あなたのお父さんが最後に行かれた学校は、次のどれにあたりますか (中退も卒業と同じと扱います)。(1 つだけ○印)

- |                       |          |
|-----------------------|----------|
| 1. 小学校 (旧制の尋常小学校をふくむ) | 6. 短大・高専 |
| 2. 中学校 (旧制の中学校をふくむ)   | 7. 大学    |
| 3. 高校 (旧制の高等学校をふくむ)   | 8. 大学院   |
| 4. 実業学校               | 9. わからない |
| 5. 師範学校               |          |

問 F14 (1) あなたのお父さんがこれまでにされてきた主な仕事は、大きく分けてこの中のどれにあたりますか

- |                   |           |
|-------------------|-----------|
| 1. 経営者、役員         | 6. 家族従業者  |
| 2. 常時雇用されている一般従業者 | 7. 内職     |
| 3. 臨時雇用・パート・アルバイト | 8. 学生     |
| 4. 派遣社員           | 9. 無職     |
| 5. 自営業種、自由業者      | 99. わからない |

問 F14 (2) さしつかえなければ、そのとき（あるいは現在）の勤め先の名前を教えてください。

(具体的に記入)

---

問 F14 (3) あなたのお父さんは、勤め先でどのような仕事をしています（いました）か。

(具体的に記入)

---

問 F15 次に あなたのお母さんについてお聞きします。あなたのお母さんの年齢はおいくつですか（お亡くなりになった場合にはあなたが何歳の時に他界されたのかをお書きください）。

満 \_\_\_\_\_ 歳

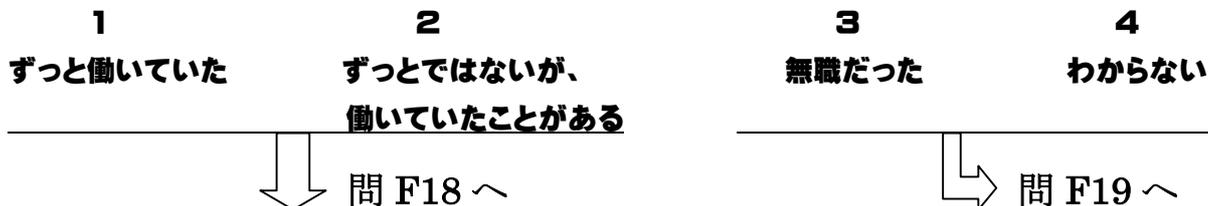
(あなたが \_\_\_\_\_ 歳の時に他界)

問 F16 あなたのお母さんが最後に行かれた学校は、次のどれにあたりますか（中退も卒業と同じと扱います）。  
(1つだけ○印)

- |                      |          |
|----------------------|----------|
| 1. 小学校（旧制の尋常小学校をふくむ） | 6. 短大・高専 |
| 2. 中学校（旧制の中学校をふくむ）   | 7. 大学    |
| 3. 高校（旧制の高等学校をふくむ）   | 8. 大学院   |
| 4. 実業学校              | 9. わからない |
| 5. 師範学校              |          |

問 F17 お母さんのご職業についてお聞きします。

あなたのお母さんは、（お母さんが）結婚されたあと働いておられましたか。



問 F18 (1) あなたのお母さんがこれまでにされてきた主な仕事は、大きく分けてこの中のどれにあたりますか

- |                   |           |
|-------------------|-----------|
| 1. 経営者、役員         | 6. 家族従業者  |
| 2. 常時雇用されている一般従業者 | 7. 内職     |
| 3. 臨時雇用・パート・アルバイト | 8. 学生     |
| 4. 派遣社員           |           |
| 5. 自営業種、自由業者      | 99. わからない |

問 F18 (2) さしつかえなければ、そのとき（あるいは現在）の勤め先の名前を教えてください。

(具体的に記入)

---

問 F18 (3) あなたのお母さんは、勤め先でどのような仕事をしています（いました）か。

(具体的に記入)

---

問 F19 あなたが大学受験の頃、お宅にあったものにすべて○をつけてください。

- |           |                  |              |
|-----------|------------------|--------------|
| 1. 持ち家    | 6. 40 インチ以上のテレビ  | 1 1. 株券・債権   |
| 2. 自動車（車名 | 7. 39 インチ以下のテレビ  | 1 2. 美術品・骨董品 |
| 3. ピアノ    | 8. 別荘            | 1 3. 書齋      |
| 4. その他楽器（ | 9. パソコン          | 1 4. どれもなし   |
| 5. 文学全集   | 1 0. 賃貸用の建物、土地など | 9 9. わからない   |

問 F20 このアンケートをどれくらい興味を持って回答していただきましたか。(1つだけ○印)

1	2	3	4	9
かなり興味をもった	まあまあ興味を持った	大して興味をもてなかった	ほとんど興味をもてなかった	わからない

---

長い時間、ご協力くださりまして誠にありがとうございました。